

○民法第六百四十一條ニ依ル解除ハ其性質上契約ノ不履行ヲ前提要件トセサルモノトス

第十節 委任

○仲買人カ委任ヲ受ケテ賣買ヲ爲ストキハ仲買人ト委任者トノ間ニハ委任關係ヲ生スルモノトス

○執達吏カ有體動産ヲ差押ヘ之ヲ保管スルハ債權者ノ委任ニ基クモノナリト雖モ固ト是レ法律ノ規定ニ從ヒ其職務上當然爲スヘキ義務ニ屬スル事柄ニシテ普通ノ代理關係ヲ以テ論スヘキモノニ非サルノミナラス犯罪行爲ハ委任事項ノ範圍以外ナルカ故ニ執達吏ノ犯罪行爲ニ付テハ債權者其責ニ任セス

(刑)

○代理委任ハ必スシモ書面ニ依ルヲ要セス訴訟記録中委任ノ事實ヲ認ムヘキモノアルヲ以テ足レリトス

○無盡講又ハ頼母子講ニ於ケル講元又ハ世話方ナルモノハ唯其講元又ハ世話方トシテ自己ノ責任ヲ以テ其事務ヲ處理スルニ過キサルモノナルカ故ニ各講員トノ間ニ於ケル權利關係ニ就テ講會ノ代表者トシテハ訴訟行爲ヲ爲シ得ヘカラサルモ一個人ノ資格ニ於テハ之ヲ爲シ得ヘキモノトス

○頼母子講ノ會主カ議員ノ委任ニ依リ特ニ掛金取立ノ事務ヲ管理スル場合ニ在テハ其管理者タル資格ニ於テ掛金ノ取立ヲ爲シ若シ任意ノ辨濟ヲ得サルトキハ其延滞者ニ對シ同一ノ資格ヲ以テ裁判上ノ請求ヲ爲シ得ルモノトス

○委任者カ他人ノ取次ヲ以テ法律行爲ヲ爲スコトヲ受任者ニ委任シタル場合ト雖モ其委任ニシテ他人ノ專恣ニ因ラサル限ハ委任者カ直接ニ委任シタルト同一ニシテ中間ニ立入りタル他人カ委任者ノ代理ヲ任設シタリトノ口實ヲ籍リ委任者ニ於テ其關係ヲ脱シ得ヘキモノニ非ス

○陸軍兵器本廠ニ對スル銃彈藥拂下ノ契約カ拂下人ノ不履行ニ因リテ解除セラレ保證金全部ノ沒收處分アリタルトキハ其處分ニシテ取消サレ又ハ無効ト爲ラサル限リ拂下人ヨリ他人ニ與ヘタル該金圓取下ノ委任ハ目的物消滅ノ爲メニ終了シタルモノトス

○記名株式讓渡ノ場合ニ於ケル名義書換ノ用ニ供スヘキ白紙委任狀ハ其儘株券ト共ニ他ニ轉帳セラルルコトヲ豫期シ交付セラルルヲ通例トス

○ルモ他ノ場合殊ニ消費貸借及ヒ保證契約締結ノ場合ニ於ケル白紙委任狀ハ其儘他ニ轉帳セラルルコトヲ豫期セス其受取人ヲシテ代理人ヲ選定セシメ委任狀ヲ補充セシムル意思ヲ以テ交付セラルルコト通例ナル

七

三

三

三

三

三

三四九

四八

一

六

四

五

七

一

六

四

五

六

三四九

四八

一

六

四

五

三

三

二

三

一

三五三

七

七

七



ヲ以テ記名株式讓渡ノ場合ニ於ケル白紙委任狀ト同一ニ之ヲ論スヘキモノニ非ス

○委託者カ仲買人ニ交付スル證據金ハ仲買人カ履行シタル受託事務ノ計算上委託者ノ負擔スル損失金辨償及ヒ費用支拂ノ債務辨濟ニ當然充當セラルルモノニシテ其充當セラルヘキ債權ナキ限ハ仲買人ハ委任終了ノ際遲滯ナク之ヲ委託者ニ返還セサルヘカラス

○頼母子講ニ於テ其規約若クハ講員全體ノ合意ヲ以テ落札金ノ返掛義務等ニ付キ外部ニ對シテハ之ヲ以テ會主若クハ世話人ノ債權トシ其名義ニ於テ權利ヲ行使シ之カ結果ヲ講ノ計算ニ歸セシムヘキコトヲ約シタルトキハ其會主若クハ世話人ハ講ヲ代表シ講ノ權利ヲ行フモノニ非スシテ實體上自己ノ債權ヲ講ノ計算ニ於テ行使スルモノトス

(同主旨)

無盡講員等カ契約ヲ以テ其講ノ會長又ハ世話人ノ如キ役員ヲ定メ之ニ其一己ノ債權トシテ無盡講掛金ヲ裁判上取立ツルノ權能ヲ付與シタル場合ニ於テハ會長又ハ世話人ハ自己ノ債權トシテ自己ノ名義ヲ以テ講員ニ對シ掛金拂込ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス  
無盡講又ハ頼母子講ノ會主若クハ世話人ハ講會ノ契約ニ依リ其講會ノ事務ヲ管理シ自己ノ名義ヲ以テ講金ヲ取立ツルノ權能ヲ付與セラレタル場合ニ於テハ講員ニ對シ講金拂込又ハ掛戻ノ請求ヲ爲シ得ルモノトス

三	二六五
三	五五一
四	五二〇
三	八
三	三〇
三	三〇

○信託契約ニ於テ信託者受託者及ヒ第三者ノ合意ニ依リ受託者カ信託者

ノ指定シタル第三者ニ便宜上係爭財產ヲ交付シタルトキハ信託者ニ對シテ直接返還ノ義務ヲ履行スルト其效力ニ於テ異ナル所ナキモノトス

○如上ノ場合ニ於テ講會ノ會主又ハ世話人ノ如キ其事務ヲ管理スル者カ講會ノ規約ニ依リ付與セラレタル權限ニ基キ講會ノ貸付金ニ付キ自己名義ヲ以テ債權者ト爲ルハ其規約ニ依リ講金ノ掛込又ハ掛戻ニ關スル事務ヲ管理スルカ爲メニ外ナラサレハ講會ノ規約ニ反シ掛込金以外ノ金錢ヲ他ヨリ立替ヲ受ケ之ヲ未落札者ニ貸付ケ乍ラ其辨濟方法ノ講會ノ規約ニ從ヒ既落札者ノ掛戻方法ニ依ルヘキコトヲ約スルカ如キハ講會ノ事務管理者ノ權限外ニ屬シ講會關係ノ行爲トシテ其效ナキモノトス(本章第五節消費貸借六年九八〇頁其一參照)

○賣買ニ關シ周旋人ニ交渉スルコトヲ委任シタル場合ニ於テハ周旋人ハ報酬ヲ得テ其業務ニ従事スルヲ通常トスルモノナレハ反證ナキ限り暗黙ニ之ニ報酬ヲ與フルコトヲ約スルノ權限ヲモ受任者ニ授與シタルモノト推定スルヲ相當トス

○金錢ヲ借受クル者カ委任ノ形式ヲ以テ恩給證書ヲ擔保ト爲シタリトスルモ給付ノ原因カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノト謂フヲ得ス

五	二八一
六	九八〇
六	二四五
七	二六六



○貸金債權ニ對スル辨濟方法トシテ年金證書及ヒ其年金ヲ受領セシムル爲メノ白紙委任狀ヲ授受スル場合ニ於テハ委任狀カ順次ニ轉讓シテ其交付ヲ受ケタル者ト本人トノ間ニ直接委任關係ノ存立スルコト有リ得ルモノトス

(參照)

○委任狀ハ他人ニ或權限ヲ與ヘテ或行爲ヲ委任スルモノニシテ直ニ之ヲ以テ實質若クハ抵當貸借ノ證ト認ムルヲ得ス

委任狀其モノヲ以テ直ニ代理以外ノ權利關係ヲ成立セサルコト明白ナリ但委任狀ニ依テ所有權移轉ノ爲メニ株券等ノ名義ノ書換ヲ行フノ能力ヲ付與スルニ過キサルノミ

故ニ無記名委任狀ヲ添ヘタル株券ノ所持人ヲ認メテ直ニ其所有者ナリト斷定スルヲ得ス何トナレハ其株券及ヒ其委任狀ノ記名ハ所持人ノ名義ニ非サレハナリ然リト雖モ所持人ハ該株券ヲ抵當ト爲スノ權力若クハ自ラ所有主タルコトヲ得ルノ權能ヲ有セサルニ非ス

差配委任ハ或行政事務ノ一部ニ止マラス差配人カ其借地料ヲ取立ツル如キハ當然ノ職務ニシテ差配委任中ニ包含スルモノト云ハサルヘカラス僱シ訴人ニ於テ差配人ノ權限ハ或行政ノ一部ニ止マルハ地方慣習アリト云ハハ民事訴訟法第二百九條ノ規定ニ據リテ之ヲ證明スルノ責アリ而シテ其慣習ノ有無ヲ審査スルト否トハ裁判官ノ職權内ニ屬スルモノトス且法律(明治八年第四百八號布告第二條)ニ於テ地主ノ貸地證明ニ就キ他人ノ代理ヲ禁シタルコトナクハ其代理委任ハ差配管理内ニ包含スト認定スルモ決シテ違法ニ非ス

○委任狀ノ文詞ニ「批者固有特有ニ論ナク總テ保存スヘキ權利及ヒ義務ノ執行ニ關シ公私百般

七	二〇八七
二五	二
二五	五
二五	二
二五	五
二六	二
二六	四五

第六百四十三條

ノ事ヲ辦理スルコトアルトキハ總理代人ナルモ委任者ノ義務ニ付テハ既ニ負擔スルモノノ履行ヲ爲スヘキ權限ヲ有スルノミニテ新ナル義務ヲ生セシムル契約ヲ爲ス權限ヲ有セス故ニ總理代人カ新ナル契約ヲ爲スニハ必ス本人ノ承諾ヲ要ス書入登記ヲ爲ス際ニ用井タル委任狀ニ本人ノ實印ニ非サルモノヲ押捺シアルニ於テハ本人ノ認諾ナキモノナルヲ以テ總理代人ノ所爲ハ委任權外ナリトス

第六百四十三條

○委任カ代理權ヲ伴ハサル場合ニ於テハ受任者ハ委任者ノ計算ニ於テ受任行爲ヲ爲スニ止マルモノトス

○寺院ノ出張所ナル道場ノ守護役ト之ニ共有ニ係ル土地ヲ附屬セシメタル區民トノ關係カ委任關係ナル以上委任ハ當事者ノ信任ヲ基礎トスルモノナレハ子孫ニ至ル迄永久ニ守護役ヲ勤務セシムルコトヲ約スルカ如キハ委任ノ性質ニ反スルモノニシテ無効ナリトス

二七	二二
二七	五六九
二九	三五
二九	七三
四	四五二
六	二四三



(刑) ○實際存在セサル債權ヲ存在スルモノト信シ之カ取立委任ヲ爲シタルトキハ其委任ノ目的ハ取立行爲ニシテ債權其モノニ非サレハ受任者カ債權不存在ノ爲メ委任ノ效果ヲ舉クル能ハサルトキト雖モ其委任契約ヲ以テ契約ノ目的ニ欠缺アリトシテ之ヲ無効ナリト論スルヲ得ス

(第六百四十四條)

○取引所仲買人カ取引所ニ於ケル賣買ノ委任ヲ受ケ賣建又ハ買附ヲ爲シタル以上ハ其轉賣買等取引ノ變更ニ關シテハ一ニ委任者ノ意思ニ從フヘク自己ノ意思ヲ以テ委任者ノ意思ヲ阻碍シ得ヘカラサルハ委任ニ關スル一般ノ法理ナリトス

○取引所ニ於ケル定期取引ニ於テ注文者カ仲買人ニ對シ買建又ハ賣建ノ委任ヲ爲スハ注文者ノ指定スル時期ニ於テ轉賣又ハ買戻ヲ爲シ之ニ因リテ生スルコトアルヘキ差金ヲ利得スルカ若クハ限月ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲スヲ目的トスルモノナレハ其性質上買建若クハ賣建ノ委任ハ注文者ノ指定シタル時期ニ於テ轉賣買戻ヲ爲シ又ハ限月ニ於テ現物ノ受渡ヲ爲スヘキ委託ヲ包含スルモノトス從テ注文者ノ指圖ナキ間ハ仲買人ハ其買建又ハ賣建ヲ維持スヘキ義務アルモノトス

(第六百四十六條)

○多數委任者カ受任者ニ對シ委任事務執行中收得シタル金錢ノ引渡ヲ請求スル場合ニ於テ別ニ反對ノ意思表示アラサル限り多數委任者ノ權利ハ之ヲ平等ノ割合ナリト看做スヘキモノトス

○受任者カ委任事務ヲ處理スルニ當リテ受取リタル物ヲ委任者ニ引渡ス義務ノ目的物ハ其性質得替物ノ種類ニ屬スル場合ト雖モ當事者間ニ在リテハ既ニ特定シタルモノト同視スヘキヲ以テ通例トス

(刑) ○委任者ト受任者トノ間ニ於テ初ヨリ委任者ヲシテ直ニ權利ヲ取得セシムルノ特約アルトキハ受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利取得ヲ爲スト同時ニ其權利ハ當然委任者ノ所有ニ歸シ之カ爲メ特別ノ意思表示ヲ爲スノ必要ナキモノトス

(同義旨)

(刑) ○受任者カ自己ノ名ヲ以テ權利ヲ取得シタル場合ト雖モ當初ヨリ委任者ノ爲メニスルノ契約ナルトキハ其取得ト同時ニ該權利ハ當然委任者ニ歸屬シ毫モ特別ノ意思表示ヲ爲スノ要ナキモノトス

(聯) ○共有者中ノ數人カ收用地ノ表面上ノ共有者全員トシテ外部ニ對スル行爲ヲ委任セラレタル關係上共有物全部收用ノ對價金ヲ受領シタル場合ニ於テハ自己ノ權利ニ屬スル部分ノ外ハ他ノ共有者ノ委任ニ基キ委任

七  
九二九

三  
六  
一四三

七  
一〇八九

三  
六  
一四七

三  
三  
二〇三

四  
二二九

三  
四九七



事務ヲ處理シタルモノナレハ其受領シタル殘餘ノ部分ハ之ヲ委任者タル他ノ共有者ニ引渡スヘキ義務ヲ負擔スルモノトス

三

一四七

○代理權ヲ伴ハサル委任ニ於テ受任者カ委任者ノ爲メニ自己ノ名ヲ以テ第三者ヨリ買受ケタル物ノ所有權ハ一旦受任者ニ歸屬スルモノニシテ第三者ヨリ直接ニ委任者ニ移轉スルモノニ非ス

四

一七〇五

○前項ノ場合ニ於テ受任者カ委任者ニ對シテ第三者トノ賣買以前ニ豫メ目的物ノ所有權ヲ移轉スル物權的意思表示ヲ爲シタルトキハ委任者ハ受任者カ第三者ヨリ所有權ヲ取得スルト同時ニ其物ノ所有權ヲ取得スルモノトス

四

一七〇五

○或人カ他人ニ委任シ其名義ヲ以テ金錢ヲ第三者ニ貸付ケタル場合ニ於テ其委任契約ヲ解除シタルトキハ貸金債權引渡ノ方法トシテ其債權ノ讓渡及ヒ讓渡通知ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

七

二〇一八

〔第六百四十七條〕

○甲者カ乙者ヲ欺罔シテ債權取立ノ委任ヲ爲サシメ債務者ヨリ取立テタル金錢ヲ費消シタル場合ニ於テハ乙者ハ民法第六百四十七條ニ依リ其引渡ノ請求ノ外尙ホ利息及ヒ損害賠償ノ請求權ヲ有スレトモ甲者ノ取立テタル金額ヲ損害賠償トシテ請求スル權利ナシ

三九

三六三

〔第六百四十八條〕

○受任者カ委任者ノ爲メニ受取リタル金錢ノ所有權ハ委任者ニ屬スルヲ以テ原則トス故ニ受任者ヨリ如上金錢ノ交付ヲ受ケタル者ハ委任者ノ財産ニ因リテ利益ヲ得タルモノト云ハサルヲ得ス

四五

三

〔第六百四十八條〕

○辯護士カ其業務上訴訟委任ヲ受ケ之ヲ處理シタル場合ニ於テ當事者間ニ報酬ヲ授受スルノ意思アルモ其額ニ付テ別段ノ定ヲ爲ササルトキハ當事者ノ特別ノ事情如何ヲ顧ミス常ニ必ス訴訟事件ノ難易訴訟價額及ヒ該事件ニ付キ費シタル勞力ノ程度等ノミニヨリテ之ニ應スル報酬額ヲ定ムヘキモノニ非スシテ當事者間ニ存スル諸般ノ情況ヲ審査シテ當事者ノ意思ヲ推定シ以テ相當報酬額ヲ定ムヘキモノトス

七

二二六

○民法第六百四十八條第二項ノ規定ハ受任者カ其委任セラレタル法律行為ヲ爲シタル後ニ非サレハ報酬ヲ請求シ得サルノ旨趣ニシテ委任者ニ對スル一切ノ義務ヲ履行シタル後ニ非サレハ其請求ヲ爲シ得サルノ旨趣ニ非ス

三六

二〇四

○依頼者カ委任事務ノ半途ニシテ辯護士ヲ解任シタル場合ニ於テ反對ノ契約ナキ限ハ辯護士ハ依頼者ノ爲メニ既ニ費シタル勞力ノ割合ニ應スル報酬ヲ請求スルコトヲ得ルニ止マリ委任事務完了ノ場合ニ對シテ豫



〔第六百四十九條〕

定シタル報酬全部ヲ請求スルコトヲ得ス  
 ○民法第六百四十九條ノ費用ハ受任者ノ旅費通信料等純然タル委任事務處理上受任者ノ爲ス出費ニ制限スヘキモノニ非スシテ委任事務處理ノ爲メニ必要ナルトキハ其處理スヘキ契約上必要ナル金錢モ亦之ヲ包含スル法意ナリト解スルヲ相當トス  
 ○委任事務處理ノ爲メニ受領シタル金員ニシテ受任者カ支出シタル後尙ホ其手裡ニ殘存スルモノハ受任者カ其委任事務ヲ處理シ了リタル後ハ當然之ヲ委任者ニ返還スルノ義務アルモノトス  
 ○如上ノ義務ハ委任契約ニ基キ受任者カ委任者ヨリ委任事務處理ノ必要上受領シタルモノノ返還ニ關スルモノナレハ受任者ハ委任契約ト關係ナキ特種ノ法律關係ニ基キ之ヲ負擔スルニ非スシテ委任契約上之ヲ負擔スルモノトス  
 ○辯護士ト依頼者トノ關係ハ委任ニ因ル代理關係タルニ外ナラサルヲ以テ依頼者ハ何等ノ理由ヲ明示スルヲ要セス辯護士ヲ解任スルコトヲ得

〔第六百五十一條〕

○民法上委任ノ規定ハ公ノ秩序ニ關スルモノト認ムヘカラサルヲ以テ委任契約ニ付テハ民法ノ規定ニ異ナリタル特約ヲ爲スコトヲ得ルモ或期間内委任ヲ解除セスト云フカ如キ約定ハ委任者ニ於テ解除ノ意思表示ヲ爲シタル以上受任者ヨリ其特約ヲ強要スルコトヲ得ス  
 ○取引所ニ於テスル取引ヲ仲買人ニ委託シタル場合ニ在テハ委託者ハ何時ニテモ其委任契約ヲ解除シ得ヘキモノナレハ縱令仲買人ニ於テ契約ノ旨趣ニ基キ其委託ヲ受ケタル取引ヲ爲サストノ事由ニ因リ契約解除ノ意思表示ヲ爲シタルトキト雖モ該事由ノ存否如何ヲ問ハス其意思表示ハ有效ナリトス  
 ○委任契約ニ在リテ委任者ノ爲メニスル事務ノ處理ニ付キ受任者モ亦法律上正當ノ利害關係ヲ有スル場合ニ於テハ委任者ヲシテ解除權ノ拋棄ヲ約セシムルコトヲ得ルモノトス  
 ○債權者カ其債權ノ辨濟ヲ確保スル爲メ債務者ヲシテ第三債務者ニ對シテ有スル債務者ノ一身ニ專屬スル債權ノ取立ヲ委任セシメ同時ニ委任者ヲシテ解除權ノ拋棄ヲ約セシムル如キハ受任者カ該債權ノ取立ニ付キ法律上正當ナル利害關係ヲ有スルモノト謂フコトヲ得ス從テ解除權ノ拋棄ノ特約ハ其效ナキモノトス

三二

三二

三二

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五四

二五三

二五三

二五三

五五一

五五一

五五一

六六七

六六七

六六七

六六七

六六七

六六七



○委任カ委任者ト第三者及ヒ受任者間ノ他ノ契約ニ基因シ其契約ニ因リ委任者ノ享クル利益ト結合シ其契約ヲ遂行スルノ結果受任者カ委任者ノ利益ノ爲メ委任事務ヲ處理スヘキ場合ニ於テハ該契約ノ變更セラレサル限リ受任者ノ意思ノミヲ以テ委任ヲ解除スルコトヲ得サルモノトス

○恩給金受領ノ委任契約ニ附帶シ債務者タル恩給金受領者ヲシテ委任ノ解除權ヲ拋棄セシメ債權者カ之ニ因リテ自己ノ權利トシテ恩給金ヲ取立テ擔保ノ實ヲ舉ケントスルトキハ該解除權拋棄ハ公ノ秩序ニ反スルヲ以テ無効ナリトス

○恩給金受領者カ單ニ恩給金ノ受領ヲ債權者ニ委任シ同時ニ債權者カ其受領シタル恩給金ヲ以テ債務ノ辨濟ニ充當スヘキコトヲ約スルハ縱令擔保名義ノ下ニ恩給證書ヲ債權者ニ交付スルモ債務者ハ何時ニテモ委任ヲ解除シ之カ返還ヲ請求シ得ヘキヲ以テ恩給法ノ禁止規定ヲ回避スル脫法行爲ト目スヘキモノニ非ス

○或人カ他人ニ委任シ其名義ヲ以テ金錢ヲ第三者ニ貸付ケタル場合ニ於テ其委任契約ヲ解除シタルトキハ貸金債權引渡ノ方法トシテ其債權ノ讓渡及ヒ讓渡通知ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

○當事者間ニ成立シタル委任契約カ其一方ノ意思表示ニ依リテ解除セラレタル以上ハ受任者カ將來委任事務處理ノ爲メ所持セル年金證書及ヒ殘餘ノ白紙委任狀ヲ委任者ニ返還スヘキ義務ヲ生シ白紙委任狀ノ所有權カ委任者ニ復歸スヘキハ當然ナレハ委任者カ單ニ其義務履行トシテ之カ返還ヲ請求スルモ又ハ自己ノ所有權ニ基キ其返還ヲ請求スルモ同一事ナルヲ以テ特ニ白紙委任狀ノ所有權カ委任者ニ復歸シタルコトヲ判示スルノ要ナキモノトス

(第六百五十二條)

○受任者カ委任事務ノ一部ヲ處理シタルトキナルト否トニ關セズ委任ノ解除ハ將來ニ向テノミ効力ヲ生スルモノトス

○委任契約ノ解除ハ將來ニ向テノミ効力ヲ生スルモノナレハ如上ノ場合ニ於テ仲買人カ既ニ受託事務ノ一部ヲ履行シタルトキハ其部分ハ依然効力ヲ存續スルモ未タ履行セラレサル部分ニ付テハ有效ニ契約ノ解除アルモノトス(第六百五十一條三年五五二頁參照)

○注文者ノ委任シタル買建ト注文者ノ指定スル時期ニ於ケル轉賣若クハ限月ニ於ケル現物受渡トハ不可分のノ關係ニ在ルモノナレハ委任契約ノ效力ノ一部タル右ノ轉賣若クハ現物受渡ニ關スル部分カ民法第六百

六  
六  
六  
七  
七  
二〇七九  
二〇七九  
二〇七八

七  
三  
三  
三  
三  
二〇八七  
三九六  
五五二



五十二條ニ依リ將來ニ向テ解除セラレタルトキハ買建ノ注文カ既ニ履行セラレタル場合ニ於テモ其買建ハ之ニ伴ヒ效力ヲ失フモノトス

(第六百五十三條)

第六百五十三條

○受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス

七

一〇八九

○講會員ノ全體ヨリ自己ノ名ヲ以テ引取會員トノ間ニ掛返義務ニ付キ準消費貸借ヲ爲シ其債權ノ取立ヲ爲スコトヲ委任セラレタル者カ其債權ノ取立ヲ爲スハ委任ニ基クモノナレハ其者ノ死亡ニ因リ委任ハ終了シ相續人ハ委任者タル會員全體トノ關係ニ於テハ委任事務タル債權取立ヲ爲スノ權利ナシト雖モ其債權タルヤ債務者トノ關係ニ於テハ相續人先代一己ノ債權ナルヲ以テ相續人モ債務者トノ關係ニ於テハ相續ニ因リ承繼シタル自己ノ債權トシテ行使スルコトヲ得ルモノトス

第十一節 寄託

○契約上ノ債務者ハ契約ノ本旨ニ從ヒ之ヲ履行スル責務アルヲ以テ共有物ノ受寄者カ契約ニ關係セサル共有者ノ一人ニ其物ヲ引渡シタリトテ

六

二二九

其債權者ニ對シテ負擔シタル債務ヲ消滅セシムル效力ヲ生セス

三七

五〇七

○受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス

三五

一一〇

○賣買契約ヲ爲シタル當事者カ其賣買代金ヲ目的トシテ寄託契約ヲ締結シタルトキハ該寄託契約上ノ債權發生ト同時ニ賣買代金ノ債權ハ消滅スト雖モ債權ノ目的タル金銭ノ給付ニ變更ナキヲ以テ更改ハ成立セス

三六

六〇〇

○甲部落ヨリ同部落ノ積立金ノ管理ヲ委託セラレ居ル乙カ該金員ヲ自己一個ノ名義ニテ丙ニ貸與シタルトキハ右部落ト乙トノ間ノ委託關係カ適法ナルト否トニ拘ハラヌ乙ト丙トノ間ノ貸借ハ有效ナリトス

四

一一三五

(刑)

○他人ヨリ委託セラレタル物品ヲ運搬スルニ當リ運搬人ノ選擇宜キヲ失シ爲メニ物品ヲ紛失シタルトキハ受託者ハ所有主ニ對シ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

七

九

九三

(第六百五十七條)

第六百五十七條

○民法施行前ニ在リテハ金錢其他ノ物ヲ給付スル債務ヲ負擔スル場合ニ於テ其債務者ト債權者トカ之ヲ以テ寄託ノ目的ト爲スコトヲ契約スル



第六百五十八條

トキハ寄託契約ハ成立シタリ...

三四一〇 七 一〇八

第六百五十九條

無償ニテ寄託ヲ受ケタルモノハ其寄託物ノ保管ニ關シ自己ノ財産ニ於...

七 一四八二

第六百六十條

寄託者カ寄託シタル特定物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ受寄者ハ中...

三三六 六四三

有償寄託ノ場合ニ於テハ寄託者カ報酬ヲ提供スルマテ受寄者ハ寄託物...

三五二 一一〇

第六百六十五條

不動産ノ受寄者カ擅ニ其目的物ヲ他人ニ賣渡シテ登記ヲ爲シ買戻其他...

四一 一一〇

第六百六十六條

民法第六百六十六條ハ既ニ成立シタル消費寄託ニシテ適用スヘキモノ...

三七 六七四

民法第六百六十六條ハ其但書ノ規定ニ牴觸スルモノヲ除ク外凡テ消費...

三六 八九四

民法第五百八十八條ノ規定モ亦消費寄託ニ準用セラルヘキハ...

三六 一四六七



民法第六百六十六條ハ但書ノ事項ヲ除キ他ノ事項ニ關シテハ其契約ノ成立ニ關スルモノト否  
トナ間ハ之總テ消費貸借ニ關スル規定ヲ準用スルノ法意ナリト解釋セサルヘカラス

第十二節 組合

○株式會社ハ第三者ニ對シ其定款ニ羈束セラルヘキモ組合ノ規約ハ組合員カ相互ニ遵守スヘキコトヲ定メタルニ止マルヲ以テ組合員ハ第三者ニ對シ其規約ニ羈束セラルヘキモノニ非ス

○組合ニ於テ其契約事項ヲ變更シ又ハ組合員ノ脫退加入アリタル場合ト雖モ最初ノ契約ハ依然存立シ唯其一部分ノミ變更セラレタルニ過キサ  
ルモノトス

○組合契約ニ於テ或組合員カ利益ノ分配ヲ受ケサルコトヲ定ムルカ如キハ無効ナリト雖モ之ニ反シテ或組合員カ損失ヲ分擔セサルコトヲ約スルハ組合契約ノ性質ニ反スルモノニ非ス

○民法組合ノ規定中組合員ノ除名脫退解散請求等ノ規定ハ契約解除ニ關スル特別規定ニ外ナラサルカ故ニ組合ニハ其解除ニ關シ當事者カ特別ナル意思表示ヲ爲シタル場合及ヒ法律カ特ニ規定セル場合ノ外ハ契約解除ニ關スル總則及ヒ其他ノ規定ヲ適用セサルモノト解セサルヘカラス

三六	五四七
三二	一一
四三	九八二
四四	九二六
四四	九二六
四	九二六

○數人共同シテ鑛業權ヲ有スル場合ニ於テハ其事業ノ經營ニ關スル契約カ民法ニ規定スル組合ニ適合セサルトキト雖モ尙ホ組合契約ヲ爲シタルモノト看做スヘキモノトス

○民法ノ組合ニ關スル規定ハ共同鑛業者間ノ關係ニ其適用アルモノトス  
○組合ノ會計ヲ擔任スル一員カ他ノ組合員ニ對シテ金錢ノ支拂ヲ求ムルニハ組合ヲ代表シテ之ヲ爲スコトヲ要セサルモノトス

○裁判所カ組合員ノ一員ニ於テ其擔當事務ナル商品ノ販賣ニ依リ受領シタル代金全部ヲ會計擔任者タル他ノ組合員ニ引渡ササルヘカラサルコトヲ判定スルモ之ヲ以テ組合ノ性質ニ背反セル違法ノ判決ナリト云フヲ得ス

○組合契約ハ總組合員ノ合意ニ因リテ成立スルモノナレハ之カ變更ヲ爲スニハ特別ノ規定ナキ限リ總組合員ノ一致アルコトヲ要スルモノトス  
○組合タル賴母子講ニ付テハ無盡業法其他ノ法律ニ於テ講則ノ變更ヲ爲スニ全講員ノ一致ヲ要セサル旨ノ特別規定ナケレハ講則ノ變更ニ付テハ全講員ノ同意アルコトヲ要スルモノトス

○一定ノ講會組織カ民法上ノ組合ニ該當スルヤ否ヤハ法律上ノ問題ナルヲ以テ其組織ニシテ組合ニ該當セサル場合ハ縱令當事者ニ於テ之ヲ組

二	一七
四	一五五
五	七五五
五	七五五
七	八〇九
七	八〇九
七	八〇九



合ト稱スルモ裁判所ハ組合ニ非スト爲スコトヲ得ルハ勿論ナリト雖モ  
○講會ノ組織ヲ組合ナルコトニ付キ當事者間爭ヲキトキハ裁判所ハ敢テ  
組織ノ如何ヲ審究スルヲ要ナク組合トシテ判斷ヲ爲スコトヲ得ルモノ  
トス

○株式會社設立ヲ爲メテ發起人團體ハ民法上ノ組合ニ外ナラサレハ其業  
務執行ハ發起人全員ノ共同ヲ以テ爲スヘキモノニシテ一人ノ發起人カ  
組合ヲ爲メ爲シタル行爲ハ他ノ發起人ノ委任アルカ若クハ其結果カ組  
合ノ利益ニ歸シタルニ非サル限ハ他ノ發起人ニ於テ第三者ニ對シ其責  
任ヲヘキモノニ非ス

(參照)

組合組織ノ商會ハ無形人ニ非サルカ故ニ其組合員全體ハ即チ商會ナルヲ以テ其商會ノ債務及  
モ債權ニ付テハ組合員相互ノ間ニ於テ相殺スルコトヲ得ルモノトス

○組合員カ其組合ノ財産ヲ抵當トシ貸金ヲ爲スハ妨ナシト雖モ尙モ組合ニ同盟スル以上ハ必ズ  
其規約ヲ遵守スルノ義務アリ故ニ其規約ニ於テ組合ノ營業物件ヲ一定ノ時期マテ賣買スルヲ  
得サルトキハ其間ハ総合貸金ノ辨濟ヲ受クル時期到來スルモ抵當權ヲ執行スルカ爲メ物件ヲ  
競賣セシムルコトヲ得ス

○組合員カ各自ニ立替金又ハ預リ金ヲ爲スニ付キ利子ニ關スル申合又ハ契約ノ證左ナキトキハ  
總テ債務ニ對シ利子ヲ附スルコト能ハストノ判斷ハ條理上相當ナリ

七	一三五七
七	一四八〇
二六	一
二七	七
二八	七

(第六百六十七條)

『第六百六十七條』

○町村大字ノ住民間ニ於テ往時ヨリ土地水利租稅等ニ付キ共同ノ利益ヲ  
圖ル爲メ一種ノ組合會議體ヲ組織シ總代ヲシテ關係書類ヲ保管セシメ  
其交迭シタル場合ニハ舊總代ヨリ新總代ニ保管書類ヲ引渡スコトトシ  
且團體員ノ收容及ヒ脱退ヲ住民タル資格ノ得喪ニ伴ハシムル慣習アル  
トキハ其團體組織ハ縱令當初住民相互間ノ契約關係ニ基キ又各自共同  
ノ出捐ヲ爲ス事實アリトスルモ之ヲ以テ純然タル組合契約ト爲スヲ得  
ス

○講會ハ講員ノ集合ニシテ講員カ豫メ日時ヲ一定シテ會合ヲ爲シ其都度  
各若干ノ掛金ヲ爲スヲ普通トスルモ掛金ヲ出資トシテ共同ノ事業ヲ營  
ムコトヲ約スルモノニ限ラサルカ故ニ講會ヲ以テ直ニ民法ニ所謂組合  
ナリト斷スルヲ得ス

○大字ノ住民一同カ水利土木等ノ公益事業ニ付キ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ  
法人ニ非サル私法上ノ集團ヲ組織シタル場合ハ其集團ノ一員ト爲ルヤ  
否ヤハ大字ノ住民タル資格ノ得喪ニ伴フモノナレハ其集團ハ民法上ノ  
組合ニ非スト雖モ之ニ類似セルヲ以テ組合ノ規定ヲ準用スヘキモノト  
ス

四三	三七三
三	三三二
五	一六六三



第六百六十八條

○當事者カ組合事業トシテ米穀取引所ニ於ケル仲買業ヲ其一人ノ名義ヲ以テ營ムトキト雖モ該營業ハ組合員ノ共同事業ニ屬シ當事者ノ一方ノ營業ニ非サルノミナラス各組合員ハ出資ノ義務ヲ有シ營業ニ關スル支出ハ其出資額ニ應シ分擔スル等其民法ニ定メタル組合員ノ權利義務ニ屬スルモノヲ組合契約ノ約款ヲ以テ定メ仲買營業カ組合事業タルコト及ヒ營業上ノ財産カ組合員ノ共有ニ屬スルコトヲ前提トスルトキハ其組合ハ普通組合ニシテ匿名組合ニ非サルモノトス

第六百六十八條

○(參照) 法人タラサル會社社團ノ財産ハ之ヲ組織スル各個人ノ共有物ト看做ス

第六百七十條

○組合員ノ一人ト第三者トノ間ニ成立シタル法律行為ヲシテ他ノ組合員ニ對抗スル效力ヲ生セシメンニハ組合員間ニ特別ノ意思表示アラサル限り必スヤ民法第六百七十條ノ規定ニ依ルヘキモノトス  
○或組合ニ於テ特ニ業務執行者ヲ定メ之ニ業務執行ノ權限ヲ授與シタルトキハ其執行者ハ事苟モ組合ノ業務ニ關シ組合事業ノ範圍ヲ超越セサル限り第三者ニ對シテ組合總員ヲ代表スルノ權限ヲ有シ其組合ノ名ヲ

第六百七十條

○以テ爲シタル法律行為ハ組合總員ニ對シテ效力ヲ生スルモノトス

○委任ニ因ル代理人ハ其責任ヲ以テ補助者ヲ使用スルコトヲ得ルモノナルヲ以テ組合ノ業務ヲ執行スル理事カ其業務執行ヲ補助セシムル爲メ

○ニ他人ヲ使用スルコトハ當然其權限内ニ在ルモノトス

○組合契約ニ依リ組合ニ屬スル權利ヲ其業務執行者ノ名ニ於テ組合ノ爲メ行使セシムルコトヲ約スルハ適法ニシテ業務執行者カ之ニ基キ自己

ノ名ヲ以テ組合ノ爲メ訴訟ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

○組合員ノ一人ニ外部ニ對シ自己ノ名ニ於テ組合事業ヲ行フコトヲ委任

スルモ組合ノ性質ニ反セサルノミナラス之カ爲メニ其事業カ組合員ノ

共同事業タルコトヲ失ハサルモノトス

○組合ノ共同事業タル仲買營業ヲ自己ノ名ヲ以テ爲スコトヲ委任セラレ

タル者ハ營業上爲シタル取引ニ付キ第三者ニ對シテ自ラ單獨ニ其責ニ

任スヘク仲買營業カ内部關係ニ於テ組合員ノ共同事業タルノ一事ハ未

タ以テ他ノ組合員モ外部ニ對スル取引上ノ當事者トシテ責任ヲ分擔ス

ヘキモノト爲スニ足ラサルモノトス

○組合ノ業務ヲ執行スヘキ組合員ハ總組合員一致ノ合意ヲ以テ定ムヘキ

モノト爲スヘキヤ又議員多數決ノ方法ニ依リ選定スヘキモノト爲スヘ

四四 一〇四

三 一八二

四 二二七

六 九二七

六 九二七

六 九二七

六 九二七

二六 三二七

四〇 六四八







訴訟ニ付キ解散シタル銀行ヲ代表スヘキ權アルハ論ヲ俟タス

第十四節 和解

○損害要償事件ハ人事訴訟ニ於ケル婚姻事件ノ如キ和解ヲ許シ得サル性質ノモノニ非サルヲ以テ縱令其事件カ如何ニ錯雜ヲ極ムルモ和解ヲ許ササルノ限ニ在ラス

○和解ハ當事者ノ能力ニ欠缺アルカ又ハ其目的カ法令ニ違背スル等ノ場合ニ於テハ何等ノ效力ヲモ生スルコトナシ

○和解契約ニシテ苟モ有效ニ成立シタル以上ハ縱令後日ニ至リ其和解ニ關スル事實ニ錯誤アルコトヲ發見スルモ之カ爲メニ和解ノ效力ヲ失フコトナシ

○自己カ相手方ノ不法行爲ニ依リ第三者ニ對シ損害ヲ賠償シタリト主張スル場合ニ於テ其賠償カ第三者トノ和解契約ニ基クトキハ當ニ賠償シタル數額ノミナラス其賠償ヲ爲シタル損害カ相手方ノ不法行爲ニ基因スルコトヲモ立證スヘキモノトス

○如上ノ場合ニ於テ和解契約ニ依リ賠償シタル數額カ現實ノ損害ニ該當スルコトヲ確定シ得ルトキハ特別ノ事情存セサル限り一應其賠償額中ニハ第三者カ被フリタリト主張セル各項目損害金ノ合算額ト其賠償シタル額トヲ對比シタル割合ニ於テ各項目ノ損害金ヲ包含スルモノト推定スルヲ相當トス

○和解契約ヲ廢罷シテ當事者間ノ權利狀態ヲ和解成立前ノ狀態ニ復スルコトハ法律的觀念上不可能ノ事ニ非サレハ和解ノ内容如何ヲ問ハス之ヲ廢罷スルノ契約ヲ爲スハ固ヨリ當事者ノ自由ニシテ之ヲ禁スヘキ理由ナキモノトス

第六百九十五條

第六百九十五條

債權者及ヒ債務者カ互ニ讓歩スルコトナク唯債務者ハ既ニ負擔セル債務ノ殘存ヲ承認シ債權者ハ其辨濟延期ノ承諾ヲ爲シタル場合ハ民法上ノ和解ニ該當セス

株式讓渡人カ株式競賣ノ違法タルコトヲ知ラスシテ其競賣不足額ハ當然支拂義務アルモノト信シ債務ニ付キ毫モ爭フ所ナク會社ニ對シ專ラ減額ノ懇談ヲ試ミ其承諾ヲ得タル場合ハ民法ノ所謂和解ニ該當セス

○普通使用スル示談ナル語辭ニハ和解ノ如ク當事者雙方カ其主張スル所ヲ互ニ讓歩シテ爭ヲ止ムルコトノ外當事者ノ一方ノミ其主張ヲ拋棄又ハ減殺シ裁判ニ依ラスシテ事件ヲ完結スル意義ヲモ包含セルモノトス

○和解契約ノ成立ニハ當事者間ニ於テ權利義務ノ存否若クハ其範圍體樣

五	九四六
七	一三七八
三九	九三七
四〇	一〇五九
四二	三九

二六	二四四
三七	四六一
三七	一〇六
三七	二二三
五	九四六



○ニ付キ其主張ヲ異ニシ之カ紛争ヲ終局セシムル爲メ互ニ讓歩ヲ爲シテ各一定ノ給付ヲ爲スコトヲ約シタル事實存在セサルヘカラス

○當事者間ノ法律關係ニ付キ争ノ存セサル以上ハ縱令其法律關係ヲ確定スル爲メニ爲シタル契約ナリトスルモ和解契約ニ非サルヲ以テ當事者カ之ニ和解ノ名稱ヲ付シタレハトテ法律上和解ノ效力ヲ生スルコトナシ

○和解契約ニ依リ當事者ノ一方ノ負擔シタル債務カ第三者ノ出捐ニ依リ履行セラレタル場合ト雖モ之カ爲メニ該和解契約ノ成立ニ消長ヲ來スモノニ非ス

○和解契約ハ單ニ係争ノ目的物ノミナラス廣ク係争ノ權利關係ヨリ胚胎シタルモノヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ルモノナレハ或債權カ係争債權ノ利子ヲ消費貸借ニ改メタルモノニシテ和解契約ニ依リ基本債權ノ殘額ト共ニ消滅シタルモノト認定スルハ不法ニ非ス

『第六百九十六條』

○民法第六百九十六條ノ規定ハ争ノ目的ト爲ラサリシ事項ニシテ和解ノ要素ヲ成スモノニ付キ錯誤アリタル場合ニハ適用ナキモノニシテ斯ル場合ニハ民法第九十五條ヲ適用スヘキモノトス

六 一三四

五 一八〇六

五 一八〇六

五 一三五

五 一三五

第六百九十六條

○民法第六百九十六條ニ所謂當事者カ和解ニ依リテ止メントスル争ノ目的タル事項ハ訴訟ノ目的タル事項ヲモ包含スルモノト解スルヲ相當トスルヲ以テ訴訟ノ目的タル事項ニ付テハ現ニ當事者間ニ争アルト否トニ拘ハラズ和解ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

六 一五三

第三章 事務管理

(參照)

民法上事務管理ニ關スル規定ハ公法人ニ適用スヘカラサル旨ノ規定ナキノミナラス町村制ニ於テモ亦之ヲ除外シタリト認ムヘキモノナシ

事務管理ニ關スル債務ハ其事務ノ本人ノ意思ニ拘ハラズ事務管理ナル事實ニ因リ法律ノ規定上當然發生スヘキモノナルヲ以テ本人ハ行爲能力者タルコトヲ要セス若シ町村カ本人ナルトキハ其町村長ノ同意ヲ要セサルハ勿論町村會ノ決議ヲ俟テ發生スヘキ債務ニ非ス

三六 一二七

第六百九十七條

○乘組員ノ占有ヲ離レタル漂流中ノ船舶又ハ積荷ヲ義務ナクシテ救助シタル行爲ハ海難救助ニ關スル商法第五編第五章ノ制定セラレサリシ時代ノ法規ニ於テハ事務管理ヲ構成シタルモノトス

○賣買代金ヲ増額スヘキ權限ナキ買主ノ代理人カ賣主ニ對シ其増額ヲ承諾セサルニ於テハ賣買契約ヲ解除セラレ買主ハ賣主ヨリ違約金ヲ得ル

四 一〇三元











適用スヘキモノニ非ス

三六

一四六〇

○指名債權ノ讓渡人カ其讓渡ヲ債務者ニ通知セスシテ自ラ辨濟ヲ受ケタル場合ニ於テハ其辨濟ハ有效ニシテ讓受人ハ債務者ニ對シ更ニ辨濟ヲ請求スル權利ヲ有セス從テ該讓渡人ハ讓受人ノ財産ニ因リ法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メ讓受人ニ損失ヲ及ホシタルモノトス

三七

七八

○確定判決ハ確定ノ債務名義ニシテ其強制執行上金錢ヲ支拂フモ法律上ノ原因ナクシテ支拂ヲ爲シタルモノニ非サレハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

三八

一〇三

○受任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ委任關係終了スルカ故ニ受任者ノ破産管財人ハ委託物件ヲ保管シ且賣却スルニ付キ法律上何等ノ原因ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ不當利得ニ該當ス

三九

一七三〇

○受寄者カ破産宣告ヲ受ケタル場合ト雖モ寄託物ヲ保管スル權利ノ如キハ當然之ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ受寄者ノ破産管財人ハ該物件ヲ保管シ且賣却スル權利ヲ有セス從テ其賣却ニ因リ破産財團ノ取得シタル利益ハ法律上何等ノ原因ナキモノトス

四〇

一七四〇

○法律上ノ原因ナクシテ現ニ受ケタル金錢上ノ利益ハ後日減少シタル事

實ナケレハ依然存在スルモノト推定スヘキモノトス

四一

一三三六

○第二順位ノ抵當權者カ其權利ヲ實行シテ抵當不動産ヲ競賣シ第二ノ順位ニ於テ競落代金ノ配當ヲ受ケタル場合ニハ其所得ハ法律上正當ナル理由ニ基キタルモノトス故ニ第一順位ノ抵當權者ハ不當利得ヲ原因トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

四二

一四五九

○抵當不動産ノ第三取得者ハ各不動産ノ價格ニ應シ他ノ第三取得者ニ對シテ債權者ニ代位スヘキモノトス從テ債權者カ他ノ第三取得者ノ不動産ニ對スル抵當權ヲ拋棄シタル後尙ホ債權全額ニ付キ抵當權ヲ實行スルニ於テハ該不動産ノ價格ニ相當スル金額ハ法律上ノ原因ナクシテ不當ニ之ヲ利得シタルモノナリ

四三

一五二〇

○共有者ノ一人カ共有物ノ上ニ權利ヲ行使スルニ當リ故意若クハ過失ニ因リテ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルトキハ其所爲ハ不法行爲ヲ構成シ又法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他ノ共有者ニ損失ヲ及ホシタルトキハ不法利得ト爲ルモノトス

四四

一九三七

○他人カ法令ニ違背シテ擅ニ水利組合ノ爲メニ工事ヲ爲シ其費用ヲ支辨シタル場合ト雖モ該組合ニ於テ之カ爲メ現ニ利益ヲ受ケタルトキハ其利益ノ多少ヲ論セス民法ノ規定ニ從ヒ不當利得ノ責任ヲ免ルルコトヲ



得サルモノトス

○法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他人ニ損失ヲ及ホシタル者ハ其損失ヲ及ホシタル時期カ利益ヲ受ケタル時期ノ後ナルト否トヲ問ハス其利益ノ現存スル限り之ヲ返還スル義務アルモノトス

○國稅徵收法第十四條ハ收稅官吏カ國稅滯納處分トシテ差押ヘタル財産ト雖モ第三者ノ所有ニ屬スルトキハ國ハ之ニ因テ不當ニ利得スヘカラサルニ依リ所有者タル第三者ヲシテ其取戻ヲ得セシムル法意ナリトス故ニ收稅官吏ニ於テ之カ賣却ヲ決行シタルトキハ國ハ其利益ノ存スル限度ニ於テ不當利得返還ノ責ニ任セサルヘカラス

(聯) ○債務者カ支金庫ニ供託シタル公債證書ニ付キ二箇ノ差押アル場合ニ於テ取立命令ヲ得タル債權者カ他ノ一名ノ配當要求ヲ無視シ其命令ノ旨趣ニ違背シテ直接ニ該證書ヲ受取り一人ニテ之ヲ領得シタルトキハ即チ法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ之カ爲メ他人ニ損失ヲ及ホシタルモノニ外ナラス

○正當ナル法律上ノ原因ヲ缺ク甲者ノ利益享受ト乙者ノ利益喪失トノ間ニ因果關係ヲ生シ而シテ此關係カ取引上ノ觀念ニ從ヒ確認シ得ラルル

限ハ兩者間ニ不當利得ノ關係アリト云フヲ得ヘシ

○賃借人カ賃借物ヲ改良シタル儘之ヲ賃借人ニ返還シタル場合ニ於テハ賃借人ハ條理上不當ニ利得シタルモノナルヲ以テ改良ニ因リテ受ケタル利益ノ限度ニ於テ之ヲ賃借人ニ返還スルノ義務ヲ有スルモノトス

○受任者カ委任者ノ爲メニ受取りタル金錢ノ所有權ハ委任者ニ屬スルヲ以テ原則トス故ニ受任者ヨリ如上金錢ノ交付ヲ受ケタル者ハ委任者ノ財産ニ因リテ利益ヲ得タルモノト云ハサルヲ得ス

○法律行爲ノ取消ハ初ヨリ無効ナリシモノト看做スモノナルヲ以テ取消シ得ヘキ法律行爲ニ因リテ財産上ノ給付ヲ爲シタル者ハ其行爲ヲ取消シタル後自己ノ選擇ニ從ヒ取消ノ效力トシテ利益ノ返還ヲ請求シ又ハ不當利得ノ原則ニ基キテ利益ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○民法第七百三條ノ規定ハ他人ノ現ニ有スル財産ニ因リ利益ヲ受ケ爲メニ其財産ノ減少ヲ來スカ如キ場合ノミナラス他人ノ法律上當ニ受クヘカリシ財産ニ因リテ利益ヲ受ケ之カ爲メ其他人ノ當ニ増加スヘカリシ財産ヲ不増加ニ歸セシムルカ如キ場合ヲモ包含スルノ旨趣ナリトス

○競賣法第二十三條ニ依リ裁判所カ競賣代金ヲ交付スル行爲ハ實體上ノ權利ヲ確定スルモノニ非サルヲ以テ其配當ヲ受クヘカラザリシ者カ誤

四四

四五

四五

四五

三

三三〇

一

三

五四

五七〇

四

四二

四三

四三

二二五

二二五

一五三

七六四



テ配當ヲ受ケ爲メニ當ニ配當ヲ受クヘカリシ者カ之ヲ受ケ得サリシ場合ニハ前者ハ民法第七百三條ニ從ヒ後者ニ對シテ不當利得ノ責ニ任セサルヘカラス

(同主旨)

競賣法第三十三條ニ依リ競賣代金ヲ交付スル行爲ハ實體上ノ權利ヲ確定スルモノニ非サレハ其代金ノ配當ヲ受クル權利ナキ者カ誤テ配當ヲ受ケ之カ爲メ當ニ配當ヲ受クヘカリシ者カ配當ヲ受ケサリシ場合ニ於テハ前者ハ民法第七百三條ニ依リ後者ニ對シテ不當利得ノ責ニ任セサルヘカラス

○讓渡契約ニ基キ讓渡人カ讓受人ヨリ對價ヲ受ケタル場合ト雖モ其契約カ無効ナルトキハ即チ法律上ノ原因ナクシテ之ヲ受ケタルモノニ外ナラス

○親權者カ未成年者タル子ノ爲メニスルコトヲ示シテ第三者ト爲シタル賣買 效果ハ其目的タル財産權ノ其子ニ屬セス且其事實ヲ知悉セルトキト雖モ直接其子ノ爲メニ生スルモノナレハ親權者カ此行爲ニ因リ對價ヲ受領シタルトキハ不當利得ノ關係ハ亦直接其子ト第三者トノ間ノ關係ナリトス

○判決ノ效力ハ當事者間ニ止マリ第三者ニ及ハサルモノナレハ判決ノ執

行ニ因リ得タル換價金カ第三者ノ所有ニ屬スル以上ハ第三者ト執行債權者トノ關係ニ於テハ不當利得ヲ生シ得ルモノトス

○不當利得ハ利得カ給付ニ因リテ生シタル場合ノミナラス第三者ノ行爲又ハ其他ノ事實ニ因リテ生シタル場合ト雖モ苟モ受益者ニ於テ利益ヲ受クヘキ權利ヲ有セサル以上ハ其成立ヲ妨ケサルモノトス

○強制競賣ノ配當手續ニ依リ裁判所ヨリ配當金ヲ受領シタル場合ニ在リテモ若シ其受益者ニシテ之ヲ受クヘキ基本債權ヲ有セサリシトキハ不當利得ヲ構成スルモノトス

○破産財團ニ對シ質權ノ實行ニ因リ辨濟ヲ受クヘキ權利ナキ者カ質權ヲ實行シテ其質物ノ賣却代金ヨリ辨濟ヲ受ケタルトキハ財團ニ對シテ不當利得ヲ構成スルモノトス

○叙上ノ場合ニ於テ起業者ノ占有ニ歸シタル土地ニ鐵道其他ノ建設物ヲ築造シ若クハ其土地カ道路公園其他公ノ營造物ニ變シタル場合ノ如ク事實上又ハ法律上返還不能ト爲リタルトキハ土地所有者ハ不當利得又ハ不法行爲ノ原則ニ基キ利得ノ返還又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ要シ原狀回復ノ方法ニ依リテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(土地收用法五年一二四頁其二參照)

三

五七〇

四三

七九五

三

九九一

四

三七一

四

七六〇

四

九二四

四

九二四

四

二四七

五

一三四



○離婚ニ因リ家ヲ去リタル者カ子ヲ養育シタル場合ト雖モ前配偶者ノ爲メニスル意思表示ヲ以テ其扶養義務ヲ履行シタルニ非スシテ唯子ニ對スル愛情ヨリ之ヲ其膝下ニ置キタルニ過キサルトキハ前配偶者ニ對シ養育費ノ償還又ハ不當利得ノ返還ヲ請求スルノ權利ヲ有セサルモノトス

五

一七三

○甲者カ乙家ノ世襲財産ヲ取消ス旨ノ文書其他ノ必要書類ヲ偽造行使シテ該財産タル株券ヲ擔保ニ供シ自己ノ名義ヲ以テ丙者ヨリ金圓ヲ借入レタル場合ト雖モ該金錢ノ所有權ハ甲者ニ移轉シ其所有財産タルニ妨ナキモノナルヲ以テ乙者カ法律上ノ原因ナクシテ更ニ甲者ヨリ其金錢ノ一部ヲ受領スルハ即チ不當利得ニ外ナラス

五

五九九

○明治二十三年勅令第二百六十三號帝國議會議長副議長議員歳費及旅費支給規則第二條ニ依リ帝國議會ノ議員カ既ニ歳費トシテ一月ヨリ六月ニ至ル半年分ノ支給ヲ受ケタル場合ト雖モ六月ニ入ラサル前辭職シタルトキハ其六月分ノ支給ハ法律上ノ原因ナクシテ之ヲ利得シタルモノニ外ナラス從テ其歳費ノ支給ヲ受クヘキ債權ヲ轉付セラレタル者カ半年分全部ノ支拂ヲ受ケタル場合ニ於テモ亦不當利得返還ノ責ニ任スヘキモノトス

五

七九六

○債務者カ違算ノ結果利息額ヲ過多ニ計上シ從テ元本ニ充當スヘキ金額ヲ過少ニ計上シテ辨濟ヲ爲シタル場合ニ於テ現實ノ利息額ニ超過シタル金額ハ之ヲ別途ニ支拂フ意思ナキヲ以テ法律上當然元本ニ充當セラレタルモノニシテ從テ債權者ニ對シ其利息額ニ超過シタル金額ヲ以テ不當利得トシ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

六

七

○債權讓渡カ國稅滯納處分ノ執行ニ當リ差押ヲ免ルル爲メニ爲サレ讓受人其情ヲ知リタルモノトシテ國稅徵收法第十五條ニ依リ取消サレタル以上ハ取消權者ニ對スル關係ニ於テ讓渡行爲ハ初ヨリ無効ト爲リ債權ハ讓受人ニ移轉セサルコトト爲ルヲ以テ讓受人カ其債權ノ辨濟ヲ受ケタルハ法律上ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケタルモノニシテ讓受人ハ讓渡人ニ對シ受ケタル利益ヲ償還スヘキ義務ヲ負フヘキモノトス

六

二二六

○婚姻ノ成立ニ際シ嫁簪ノ兩家ヨリ相互ニ又ハ其一方ヨリ他ノ一方ニ贈ル結納ナルモノハ他日婚姻ノ成立スヘキコトヲ豫想シテ授受スル一種ノ贈與ニシテ婚約カ後ニ至リ當事者雙方ノ合意上解除セラレタルトキハ當然其效力ヲ失ヒ給付ヲ受ケタル者ハ其目的物ヲ相手方ニ返還スヘキ義務ヲ帶有スルモノトス

六

二九二



○甲カ乙ニ對シテ負擔シタル債務ハ丙ニ於テ引受ケ債務者ノ交替ニ因ル更改ニ依リ既ニ消滅シタルニ拘ハラズ甲ハ誤テ餘分ノ支拂ヲ爲シ乙ハ之カ爲メニ不當ナル利益ヲ取得シタルトキハ其過拂金ヲ返還スヘキハ當然ニシテ丙ハ引受ケタル債務ヲ乙ニ辨濟シタリヤ又ハ之ヲ辨濟スル資力ノ有無ノ事實ハ毫モ過拂金返還請求ノ當否ニ影響スルモノニ非ス

○係争借入金ノ連帶債務者ハ甲及ヒ村長タリシ乙ナリト雖モ右借入金ハ乙個人ノ私債トシテ同人ニ歸屬シ同人ニ於テ之ヲ丙村ノ工事費ニ使用シタル場合ニ於テハ丙ハ乙ノ財産ニ因リ利得ヲ受ケタルニ過キスシテ何等甲ノ財産ニ因リ利益ヲ受ケ隨テ甲ニ損害ヲ及ホシタルモノト謂フヲ得サルモノトス

○不當利得ノ債務ト雖モ遲延利息ノ義務アルモノトス

○或結果ノ發生ヲ目的トシテ義務ヲ負擔シタル場合ニ其結果カ發生セサルニ至リタルトキハ權利者ハ法律上ノ原因ナクシテ利得シタルモノナレハ義務者ハ權利者ニ對シ不當利得ノ返還トシテ其負擔シタル義務ノ排除ヲ請求スルコトヲ得ルハ勿論返還請求權ヲ行使セスシテ義務履行ノ請求ヲ拒絕スルコトヲ得ルモノトス

(參照)

府縣知事ニ於テ國庫ノ棄捐シタルモノヲ徵收シ其金額ヲ國庫ニ納入セサルトキハ不當ノ徵收不當ノ利得ト云フヘシ

〔第七百四條〕

『第七百四條』

○如上無効ノ株式申込ニ基キ拂込ミタル證據金ハ發起人カ法律上ノ原因ナクシテ受ケタル利益ナリト云フヲ得ヘシト雖モ其虛無ノ名ノ記載ナルコトヲ知ラサル場合ニ在テハ其受ケタル利益ノ利息ヲ償還スルヲ要セス(商法第二百一十六條四四年六八五頁參照)

○債權讓渡カ滯納處分ノ執行ヲ免ルルカ爲メニ情ヲ知レル讓受人トノ間ニ行ハレタル以上讓受人ハ讓渡行爲カ取消サレタル場合ニハ初ヨリ無効ト爲リ之ニ基ク受益ノ原因ナキニ至ルヘキコトヲ知ルモノナレハ惡意ノ受益者トシテ受ケタル利益ノ全部ニ付キ返還ノ責アルモノトス

○民法七百四條ハ不當利得請求權ノ範圍ヲ定ムル規定ニシテ其請求ノ範圍ノ定マリタル後遲滯ノ責任アリヤ否ノ問題ニ適用スヘキモノニ非ス

〔第七百五條〕

『第七百五條』

○債務ノ存在セサル事實ヲ知リ乍ラ債務ノ辨濟トシテ或給付ヲ爲シタル者カ其給付シタルモノヲ取戻シ得サルコトハ民法施行以前ニ於テ既ニ

民法 債權 不當利得

五六七

二五

三

九

四

六五

六

二六

七

二七

七六

一九四五  
二七二

六

七六

七

一四八八



存在シタル法則ナリ

○債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其債務ノ存在ヲ知ラサリシ故ヲ以テ給付シタルモノノ返還ヲ請求スル場合ニハ唯其債務ノ存在セサリシコトヲ證明スルヲ以テ足り更ニ其存在ヲ知ラサリシ旨ヲ證明スルノ要ナキモノトス

○民法第七百五條ニ債務ノ存在セサルコトヲ知リタルトキトアルハ債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時法律ノ規定上債務ノ存在セサルコトヲ知ラサリシ場合ト單ニ事實上之ヲ知ラサリシ場合トヲ包含スルモノトス

○合資會社ノ有限責任社員カ出資義務以外ニ會社ノ損失ヲ分擔スルノ義務アルモノト誤信シ其義務ノ履行トシテ爲シタル給付ハ債務ノ存在セサルコトヲ知ラサリシ爲メ其辨濟トシテ爲シタルモノト云フヲ妨ケザルヲ以テ其給付ハ法律上ノ原因ナキモノトス

○債務ノ存在セサルコトヲ知ラサリシ爲メ其辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ給付シタルモノノ返還ヲ請求スル所以ハ其給付行爲カ無効ナルカ爲メニ非スシテ其行爲ハ有效ナルモ辨濟ナル法律上ノ原因存セサルニ因ルモノナルヲ以テ給付行爲ヲ取消スニ非サレハ其返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノニ非ス

トヲ得サルモノニ非ス

○債務ノ存在セサルコトヲ知ラスシテ辨濟ノ爲メニ給付ヲ爲シタル者ハ一旦債務ノ存在ヲ承認シタルモノナレハ給付シタル物ノ返還ヲ請求スルニ當リテハ其者ニ於テ給付ノ事實及ヒ債務不存在ノ事實ヲ證明スヘキモノトス

○受託者カ其事務ヲ履行シタルニ因リテ生シタル債務ナリトシテ委託者ヨリ辨濟ヲ受ケタルモ實際其受託事務ノ履行ナカリシカ爲メ非債辨濟ト爲リタル場合ニ於テ委託者カ其取戻ヲ請求スルニ當リテハ其委託事務不履行ノ事實ハ即チ債務不存在ノ事實ナルカ故ニ自ラ之ヲ證明スヘキモノトス

○民法第七百五條ニ依リ債務ノ辨濟トシテ給付ヲ爲シタル者カ其當時債務ノ存在セサルコトヲ知リタル爲メ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得サルハ給付者ニ於テ任意ニ給付ヲ爲シタルコトヲ要ス從テ強制執行ヲ避クルカ爲メ又ハ其他ノ事由ニ因リ止ムヲ得スシテ給付ヲ爲シタル者ハ債務ノ存在セサル限ハ爾後其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(第七百七條)

『第七百七條』

民法 債權 不當利得

三

二二五

四

五四七

四

五四七

六

二七五

三五

二

三

四〇

五七

四三

五六八

三

二二五



○民法第七百七條ハ錯誤ニ因リテ辨濟ヲ爲シタル債務ニ付キ同一ノ請求原因ヲ以テ第三者ニ之ヲ請求スルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於ケル規定ナリトス

○民法第七百七條ニ所謂證書ノ毀滅ハ獨リ有形的ニ證書ヲ破棄シテ全然其證據力ヲ失却セシメタル場合ニ止マラス債權者ニ於テ其證書ニ横線ヲ施シ或ハ債務者名下ノ印影ヲ塗抹シタルカ如キ場合、勿論其他證書ヲ債務者又ハ辨濟者ニ返還スル等債權者カ自由ニ之ヲ立證方法ニ供スルコト能ハサルニ至リタル場合ヲモ包含ス

○民法第七百七條ハ單ニ返還請求拒絶ノ權ヲ債權者ニ與ヘタルニ止マラス恰モ辨濟者カ債務者ノ爲メニ辨濟ヲ爲シタルト同一ノ結果ヲ生セシムル旨趣ヲ以テ其辨濟ヲ有效ト看做シタルモノト解スヘキモノトス  
○民法第七百七條第一項ハ辨濟セラレタル債務ニ關シ其債權者ニ同條所定ノ事由生シタル場合ニ付テ規定シタルモノナレハ辨濟セラレタル債務ト時効ニ因リ消滅シタル債權ト全ク別箇ノモノナルトキハ之ヲ適用スヘキ限ニ在ラスト解スルヲ相當トス

〔第七百八條〕

○賭博ノ爲メ給付ヲ爲シタルニ因リ發生シタル債權ノ如キハ不法ノ原因

ニ基ク權利ナルヲ以テ裁判上請求スルコトヲ得ス

○不法ノ原因ヲ憑據トスル請求ハ法律ノ保護スヘキモノニ非ス

○不法ノ原因ニ基ク權利ハ債權者カ訴ヲ起シテ債權ノ履行ヲ請求スル場合タルト債務者カ訴ヲ起シ其債權者ノ請求權ヲ無効タラシメントスル場合タルトヲ問ハス均シク裁判所ニ向テ救濟ヲ仰クコト能ハサルモノトス

○選舉ニ關スル運動費ト稱スルモノノ給付ナレハ即チ不法ノ原因ニ出テタル給付ナリトハ概言スルコトヲ得サルヲ以テ其金錢給付ノ目的不法ナリシコトヲ主張スル者ニ證明ノ責任アリ

○民法第七百八條ノ規定ニ違反シ不法ノ原因ノ爲メニ給付シタルモノノ返還ヲ約スルカ如キハ公益規定ニ反スル法律行為ニシテ無効ナリト雖モ給付ヲ受ケタルモノヲ賣買贈與等ノ法律行為ニ基キ其給付ヲ爲シタル者ニ對シ更ニ給付スルハ毫モ不法ニ非ス

〔刑〕  
○詐欺取財ノ被害者ト雖モ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノハ賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス

○民法實施前ニ於テハ法律ノ禁制ニ違反シタル行為ニ基ク給付ハ常ニ必スシモ之ヲ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス而シテ其取戻シ得ヘカラサ

三三	三三	三三	三三
二九	二九	二九	二九
五八	五八	五八	五八
三三	三三	三三	三三
二〇	二〇	二〇	二〇
九五	九五	九五	九五
三六	三六	三六	三六
五九	五九	五九	五九
一八三	一八三	一八三	一八三

三四	三四	三四	三四
三	三	三	三
八	八	八	八
三七	三七	三七	三七
二八	二八	二八	二八
四	四	四	四
七九	七九	七九	七九
七	七	七	七
三九	三九	三九	三九



ル給付ハ行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ニ限ルモノトス

(同主旨)

法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ハ無効ナリト雖モ法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ因リテ爲シタル給付ハ必スシモ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス其給付ノ取戻シ得ヘカラサルハ其行爲ノ性質上當然醜惡ナル場合ナラサルヘカラス

(刑)

○民法第七百八條ノ規定 單ニ不當利得ノ返還請求權ニノミ之ヲ適用スヘキモノニ非スシテ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ亦適用セラルヘキモノトス

(同主旨)

○民法第七百八條ノ規定ハ不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタル者カ其給付ニ因リテ受ケタル損害ニ付キ相手方ノ不法行爲ヲ原因トシテ賠償ヲ請求スル場合ニモ適用セラルヘキモノナリ

(刑)

○利息制限法ニ違背シタル利息ニシテ既ニ當事者ノ間ニ授與セラレタルモノハ債務者ニ於テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○利息制限法ニ違背シタル利息ニシテ既ニ當事者ノ間ニ授與セラレタルモノハ債務者ニ於テ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

(同主旨)

債務者カ任意ニ制限超過ノ利息ヲ債權者ニ支拂ヒタル場合ニ於テハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノニシテ其返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○不動産ノ賣買及ヒ抵當權ノ設定カ虚偽ノ意思表示ニ出テタル場合ト雖モ登記簿上賣主ヨリ買主ニ其所有名義ヲ移シ又ハ所有者ヨリ抵當權ノ登記ヲ爲スハ民法第七百八條ノ所謂給付ニシテ不動産ノ眞所有者カ之ヲ舊態ニ復スル爲メ所有名義ノ書換及ヒ抵當權登記ノ抹消ヲ要ムルハ其給付ノ返還ヲ請求スルモノニ外ナラス

○土地所有者カ他人ニ實印ヲ濫用セラレ不知ノ債權成立シタル場合ニ於テ強制執行ヲ避クル爲メ該土地ニ付キ假裝ノ賣買及ヒ抵當權ノ設定ヲ爲スニ當リ其債務ハ自己ノ負擔ニ屬スルモノト信セサリシ以上ハ之ヲ以テ不法ノ原因ノ爲メニ給付ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

(刑) ○甲者カ犯罪ニ因ル損害賠償ノ債務ヲ不正ニ免レント企テ自己ノ不動産ヲ賣買ニ假裝シテ乙者ノ所有名義ニ移轉シ且賣買證書ヲ交付シタルトキハ民法第七百八條ノ所謂不法ノ原因ノ爲メ給付ヲ爲シタルモノニ該當スルヲ以テ乙者ニ對シ其取戻ヲ請求スルコトヲ得ス

(刑) ○賣買ニ託シテ人ヲ欺罔シ金錢ヲ騙取シタル詐欺取財ノ場合ニ於テ被害

三元

二八一

三元

五

七四

三元

六五五

三元

一八四三

三元

四

一七

三元

六六六

三五

九

一三〇

三元

一七〇八

三元

一七〇八

四二

二八九



者カ取消ノ意思表示ヲ爲シタル以上ハ欺罔者ニ對シ不法行爲ニ因ル損害賠償ヲ請求シ得ルモ欺罔者カ欺罔手段トシテ被害者ニ引渡シタル物件ハ不法ノ原因ノ爲メ給付セラレタルモノニ外ナラサレハ被害者ニ對シ不當利得ヲ理由トシテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得ス

○法律ノ規定ニ反スル行爲ハ必スシモ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノノミニ限ラサルヲ以テ不適法ノ行爲ハ常ニ不法ノ原因ナリト論スルヲ得ス

○不動産ノ賣買行爲カ虛偽ノ意思表示ナリシ事實ヲ主張シテ其所有權移轉登記ノ抹消ヲ請求シタル場合ニ於テ裁判所カ民法第七百八條ヲ適用シテ之ヲ排斥シタルハ不法ナリ

○債務者カ債務ノ履行ヲ免レンカ爲メニ其不動産ヲ賣買ニ假裝シテ所有權移轉ノ外觀ヲ裝ヒタル行爲ハ家資分散ノ際ニ在ラサル限り之ヲ目スルニ不法ノ原因ヲ以テスルヲ得ス

(同義語)

債務者カ將ニ身代限ト爲ラントスルニ際シ其債權者ニ對シ無資力ナルコトヲ示シ債權ノ減損ヲ求ムル目的ヲ以テ名ヲ賣買ニ假裝シ其財産ヲ他人ノ所有名義ト爲シタル行爲ハ不法ナリ

(反對)

債務者カ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ所有地ノ保管ヲ他人ニ託シ名ヲ賣買ニ假リ之ヲ隱匿ス

ルカ如キハ不法行爲ナルヲ以テ其地所ヲ取戻ス爲メ法律ノ保護ヲ受クルコトヲ得ス

○法律ノ禁制ニ違反シタル行爲ニ因リテ爲シタル給付ハ常ニ必スシモ取戻シ得ヘカラサルモノニ非ス而シテ其取戻シ得ヘカラサル給付ハ其行爲カ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ヲ害スル場合ニ限ルモノトス

(刑) ○被告カ不法ノ原因ノ爲メ物ノ給付ヲ受ケタル場合ニ於テ給付者ハ民法ニ依リ物ノ返還ヲ請求シ能ハサルトキト雖モ之カ爲メニ其所有權ヲ喪失スヘキモノニ非サレハ被告ノ占有セル物ハ依然他人ノ所有物トシテ存續スヘキモノトス

(同義語)

公務員ニ贈賄スル目的ヲ以テ他人ニ金錢ヲ委託シタル者ハ民法第七百八條ニ依リ其取戻ヲ爲スコトヲ得サルモ之カ爲メニ該金圓ノ所有權ヲ喪失スヘキモノニ非ス

○民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因トハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ニ限ルモノナルヲ以テ如上ノ分家契約ノ如キハ同條項ノ不法原因ニ該當セス從テ之ニ基キ爲シタル土地ノ讓與ハ返還ヲ請求シ得ヘカラサル給付ニ非ス(第九十條四年五八〇頁參照)

○通謀ニ因ル虛偽債權ノ債權者カ配當手續ニ加入シ其債務者ノ財産ヨリ受ケタル配當上ノ利得ハ裁判所ノ行爲ニ因リテ生シタルモノニシテ損

三二 八一

四

四三 五〇一

四

四三 一五三二

四

四三 一三六一

四

四四 五八〇

四



失者ノ給付ニ基クモノニ非サレハ之ニ對シテハ民法第七百八條ノ適用ナキモノトス

○民法第七百八條ハ不當利得ニ關スル規定ニシテ所有權ニ基キ恩給證書ノ返還ヲ求ムル場合ニ適用スヘキモノニ非ス

○債務者カ單ニ債權ノ執行ヲ免ルル爲メ他人ト通シテ自己ノ不動産ノ賣買ヲ假裝シ登記ヲ爲スモ其給付ヲ以テ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ニ基クモノト爲スコトヲ得ス

○民法第七百八條ニ所謂不法原因ノ爲メノ給付ハ其給付行爲自體ノ不法ナル場合ニ限ラスシテ不法事項カ給付ノ目的若クハ緣由タル場合ヲモ包含セルモノトス

○或給付行爲カ刑法施行法第二十五條舊刑法第三百八十八條ニ依リ犯罪行爲トシテ罰セラルルモノナルトキハ民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因ニ該當スルヲ以テ之カ爲メ給付ヲ爲シタル者ハ受益者ニ對シ其給付シタルモノノ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

○民法第七百八條ノ規定ハ給付ノ原因自體カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル場合ニ關スルモノナレハ其原因カ公ノ秩序若クハ善良ノ風俗ニ反セサル限り同條ノ適用ナキモノトス

四	九二四
五	三五
五	八〇五
五	一一二
七	二二〇
七	二六六

(同義語)

民法第七百八條ニ所謂不法ノ原因トハ其原因タル行爲カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル場合ノ謂ナリ

○軍人ノ恩給ハ之ヲ質權ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノナレハ債務者カ債權者ニ對シ債權擔保ノ目的ヲ以テ恩給證書ヲ交付シタルハ脫法行爲トシテ無効ナルハ論ヲ竣タスト雖モ其行爲自體ハ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ背反スル事項ニ因由スル不法行爲ト謂フヲ得サレハ右行爲ハ民法第七百八條ノ適用ヲ受クヘキモノニ非ス

(同義語)

金錢ヲ借受クル者カ委任ノ形式ヲ以テ恩給證書ヲ擔保トナシタリトスルモ給付ノ原因カ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スルモノト謂フヲ得ス

○係争不動産ノ賣買契約ハ當事者雙方相通シテ爲シタル虚偽ノ意思表示ニシテ之ニ基ク所有權移轉ノ登記ハ實體上無効ナルヲ以テ其所有權ハ依然トシテ賣主ニ在リ從テ其所有權ニ基ク右登記ノ抹消ノ請求ハ不當利得ノ返還ヲ求ムルモノニ非サレハ民法第七百八條ノ適用ナキモノトス

(參照)

自己ノ犯罪行爲ヲ口實トシテ自己ノ權利ヲ回復セントスルモノハ法律之ヲ保護セス

四	五四六
七	六六六
七	二六六
七	一四九四
七	九六



自己ノ犯罪ヲ原由トスル訴求ハ裁判上保護ヲ與ヘス  
妾ナルモノハ男女間ニ於ケル内輪ノ關係ニシテ一夫一婦タル善良ノ風俗ニ反スルモノナラハ  
法律ハ其關係ヲ認メス從テ妾ナル人格ハ正當ノ身分トシテ之ヲ認ムルヲ得ス故ニ妾タル身分  
ノ關係ニ基キ取結モタル契約ハ不法ノ原因ニ基クモノナレハ裁判上之カ履行ヲ許容スヘキモ  
ノニ非ス

第五章 不法行爲

○不法行爲トハ損害ノ原因タル權利侵害ノ行爲ヲ指稱ス故ニ結果タル損害自體ヲ權利ノ侵害ナリトシテ不法行爲ト謂フヲ得ス

○不法行爲ニ原因セル債權ニ付テハ債務者ハ其債務ノ發生スルト同時ニ履行ノ責アルヲ以テ債權者ノ請求ヲ待タスシテ遲滯ノ責ニ任スヘキモノトス

(同主旨)

不法行爲ニ因リテ取得シタル利益ニ付テハ其債務者ハ債務ノ發生スルト同時ニ履行ノ責アルヲ以テ特ニ債權者ノ請求ヲ待タスシテ遲滯ノ責ニ任スヘキモノトス

(反對)

或物品ノ販賣ヲ委託セラレタル者カ契約ノ解除アリタルニ拘ハラズ不法ニ之ヲ賣却スルニ於テハ其損害賠償ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ辨濟ノ日迄ノ遲延利息ヲ支拂フヘキハ當然ナルモ該物品ヲ賣却シタル日以後ノ利子ヲ支拂フヘキ法理ナシ

○民法第三編第一章債權ノ總則ハ不法行爲ニ因リテ生シタル債權ニ付テモ特ニ反對ノ規定ナキニ於テハ其性質ノ許ス限リ之ヲ適用スヘキモノトス

(同主旨)

不法行爲ヨリ生シタル債權ニ對シテハ當然民法債權總則ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ法律行爲ニ原因シタル債權ニ關スル規定ヲ準用スヘキモノトス

(刑)

○凡ソ權利ハ親權夫權ノ如キ親族權タルト物權債權ノ如キ財產權タルトヲ問ハス孰レモ他人ヲシテ其權利ヲ侵害セシメサル對世の效力ヲ有シ何人タリトモ之ヲ侵害スヘカラサルノ消極的義務ヲ負フモノトス

○漁業權ヲ有スル者ハ縱令公法關係ニ於テハ特定ノ條件ヲ具備セサレハ漁業權者トシテ取扱ハレサルモ之カ爲メ私法關係ニ於テモ眞實ノ漁業權者タル權利ノ行使ヲ妨ケラルルモノニ非ス

(刑)

○他人ノ強迫ニ因ル意思表示ヲ以テ其他人ニ金錢ヲ給付シタル者ハ其意思表示ノ取消權ト共ニ損害賠償請求權ヲ讓渡シ得ヘキモノトス

○不法行爲者カ既ニ爲シタル不法行爲ノ責任ヲ承認シ因テ被ムラシメタル損害ヲ賠償スヘキコトヲ被害者ニ對シテ豫メ約スルコトヲ得ルモノニシテ此場合ニ於ケル債權ノ發生原因ハ不法行爲ナルモ契約ヲ以テ其

三

八三四

四四

四九

四

二七九

四

二九二

四

二二〇

二九

四

六一

三〇

二

一五

四

三五

四

四九

四三

七一九

四一

二七五







○權利行使ノ爲メ他人ニ損害ヲ加フルモ賠償ノ責ヲ負フヘキモノニ非ス  
 ○船舶ニ對シ假差押ノ命令アリタルノミニテ未タ其執行ナキ場合ニ所有  
 者カ執行アラントコトヲ慮リ傭船契約ヲ取結ハサリシカ如キハ法律上所  
 有者ノ爲スヘキ當然ノ責務ニ非ス從テ之カ爲メニ損害ヲ生スルモ該命  
 令ヲ發セシメタル者ノ不法行爲ニ基クモノト云フヲ得ス

(刑) ○法律ニ認許スル方法ニ依ラスシテ私力ヲ以テ擅ニ他人ノ行爲不行爲ヲ  
 強制スルハ縱令實體上ニ於テ其行爲不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ有スル  
 場合ト雖モ他人ノ權利ヲ侵害スル不法ノ行爲ナリトス

(刑) ○甲カ權利ナクシテ乙ノ所有地内ニ建設シタル土藏ニシテ甲ニ於テ之ヲ  
 收去スルノ義務ヲ負フ場合ニ在テハ其土藏ハ一ノ不動産トシテ何等ノ  
 價值ヲ有スルモノニ非ス從テ縱令乙ニ於テ不法ニ之ヲ取毀チタルニモ

(刑) ○セヨ乙ニ對シ其價格全部ノ賠償ヲ命シタル判決ハ不法ナリ  
 ○民事訴訟費用法ニ損害賠償ノ率ヲ定メタルモノニ付テハ訴ノ提起ニ關  
 スル過失ヲ原因トシテ其規定ノ範圍外ニ於ケル賠償ヲ求ムルコトヲ得

(刑) ○他人ノ特許權ヲ侵犯シ其特許品ヲ偽造スルモ之カ爲メニ損害ヲ生セシ  
 メサル以上ハ賠償ヲ爲スノ責任ナシ

(刑) ○不當ナル差押處分ニ基キ財產ヲ低價ニ賣却シタル場合ニ於テ其差押カ  
 差押債權者ノ故意又ハ過失ニ出ツルトキハ該債權者ハ之ニ因リテ生シ  
 タル債務者ノ損害ヲ賠償セサルヘカラス

○強制執行ノ爲メ所有權ヲ侵害セラレタル第三者ハ民事訴訟法第五百四  
 十九條ニ依リ異議ノ訴ヲ爲サスシテ民法第七百九條ニ基キ不法行爲ヲ  
 原因トシテ損害賠償ノ訴ヲ爲シ得ヘキモノトス

○債權者カ誤テ第三者ノ所有ニ係ル石炭ノ差押ヲ爲シ探炭ノ貯蓄ヲ妨ケ  
 之ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害ハ不法ノ差押ヨリ直接ニ發生シタル  
 モノナレハ縱令執達吏カ故ラニ注意ヲ爲シ適當ノ場所ニ石炭ヲ移積セ

サルモ之ヲ以テ其賠償責任ヲ免ルルノ理由ト爲スコトヲ得ス

○故意又ハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害スルハ即チ不法行爲ニシテ其他  
 人ノ權利ハ必スシモ法令ノ明文ヲ以テ認許セラレタルコトヲ要セス

○田地ノ所有者カ田養ノ爲メ各自ノ反別ニ應シテ河川ノ流水ヲ平等ニ使  
 用シ得ヘキ慣習上ノ權利ヲ有スル場合ニ於テ其一人カ他ノ所有者等ノ

○分水權ヲ侵害シタルトキハ民法第七百九條ノ不法行爲ヲ以テ論斷セサ  
 ルヘカラス

○故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ權利ヲ侵害シタル者ハ其身分ノ官吏タル

民法 債權 不法行爲

三五 五 六九

三六 二 七四

三七 七五九

三八 四〇一

三九 一六二

四〇 七五九

四一 四〇一

四二 一六二

四三 七五九

四四 四〇一

四五 一六二

四六 七五九

四七 四〇一

四八 一六二

四九 七五九

五〇 四〇一

五一 一六二

五二 七五九

五三 四〇一

五四 一六二

五五 七五九

五六 四〇一

五七 一六二







假差押ヲ爲シタル者カ債權ヲ有スルコトヲ確信シ而カモ之ヲ信スヘキ相當ノ理由アル場合ニハ縱令裁判上其債權ナキニ歸スルモ他ニ特別ノ事由ナケレハ其假差押ヲ以テ故意若クハ過失ニ出テタルモノト爲スコトヲ得ス

三九

二八九

○共有者ノ一人カ共有物ノ上ニ權利ヲ行使スルニ當リ故意若クハ過失ニ因リテ他ノ共有者ノ權利ヲ侵害スルトキハ其所爲ハ不法行爲ヲ構成シ又法律上ノ原因ナクシテ利益ヲ受ケ之カ爲メニ他ノ共有者ニ損失ヲ及ホシタルトキハ不當利得ト爲ルヘキモノトス

四一

九三七

○債務者ハ假差押命令ノ執行ニ對シテ之ヲ拒ムコトヲ得サルト同時ニ縱令債務者ヨリ其差押物ヲ選擇指示スルモ執達吏ハ之ニ從フヘキ責任ヲ有セス故ニ差押自體ノ不法ナル場合ニ在テハ執達吏カ債務者ノ指示セラル物品ヲ差押ヘタリトモ之カ爲メニ債權者ノ責任ニ異同ヲ生スルコトナシ

四二

一〇九七

(刑) ○他人ノ不法行爲ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルニハ其不法行爲ト損害トノ間ニ因果ノ連絡アルコトヲ要ス故ニ被害者ノ蒙ムリタル損害カ事物ノ通常ノ經過ニ於テ其不法行爲ヨリ生スヘキモノニ非サルトキハ該行爲ハ唯其損害ノ發生ニ機會ヲ與ヘタルモノニ過キササルヲ以テ被害者ハ賠償ヲ請求スルノ權利ナシ

四二

二四四

○破産事件ノ裁判費用等ヲ負擔スル責任ハ不法行爲ノ有無ニ關セス申立若クハ抗告ノ當否ニ因リテ定マルヘキモノナレハ不法行爲ヲ原因トシテ之ヲ請求スルハ失當ナリ

四三

三九六

○河川ノ官有堤防ニ接續スル土地ノ所有者カ特別ノ法令又ハ慣習ニ依ルニ非スシテ其堤防ニ官ノ許可セル範圍ヲ越エテ増築工事ヲ爲シタルカ爲メ對岸ニ接續スル他人ノ田地 水害ヲ及ホシ又ハ其危險ヲ加フルニ至リタルトキハ被害者ニ對シテ損害ヲ賠償スルノ外尙ホ水害ノ排除又ハ豫防ニ必要ナル行爲ノ責ニ任セサルヘカラス

四三

四六三

○不法行爲ニ因リテ生シタル損害額ハ行爲當時ノ價額ニ依リ之ヲ算定スルコトヲ得ルモ其算定ノ標準時期ハ如上ノ時期ニ限ラレタルモノニ非ラス

四三

四五

○他人ノ不法行爲ニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ行爲當時ノ價格ヲ標準トシテ之カ賠償ヲ請求シ得ルハ勿論尙ホ其後ニ於テモ受ケヘカリシ利益ニシテ不法行爲ノ爲メニ受クルコト能ハサルニ至リタルモノアラハ判決ヲ受クル迄ノ間ニ於テ其利益額ヲ請求スルコトヲ得  
○破産管財人カ破産財團ニ組入ラレタル破産者所有ノ金錢ニ付キ有益ナル管理方法ヲ講セサリシ爲メ損害賠償ノ責ニ任スヘキ場合ト雖モ不法

四三

四五



ノ破産申請ヲ爲シタル者ハ債務者カ破産處分上差押ヘラレタル金錢ヲ  
 利用シ能ハサルニ因リテ被フリタル損害ヲ賠償スルノ責ナキヲ得ス  
 ○假執行ノ宣言ニ基キ未確定ノ判決ヲ假ニ執行シタル後其判決カ上級審  
 ニ至リ變更セラレタリトスルモ其假執行ニシテ故意若クハ過失ニ出テ  
 タルモノニ非サル以上ハ右假執行文ニ基キ爲シタル差押ヲ以テ不法行  
 爲ナリト云フヲ得ス

○湯屋營業ハ普通一般ノ營業ト同シク唯法令ノ制限條件ニ從ヒ營業ヲ爲  
 スコトヲ得ルニ止マリ一ノ權利トシテ法律ノ保護ヲ受クルモノニ非ス  
 ○從テ之カ侵害ヲ理由トシテ賠償ヲ求ムルノ權利ナキモノトス

○債務者ノ債務不履行ハ民法第七百九條以下ニ所謂不法行爲ナリト云フ  
 ヲ得サルヲ以テ縱令之ニ因リ損害ヲ生スルモ苟モ債權者ノ享有スル他  
 ノ權利ヲ侵害セサル限り不法行爲ニ因ル損害ノ賠償トシテ之カ救濟ヲ  
 求ムルコトヲ得サルモノトス

○殺害ニ基因シタル葬式費用ハ殺人行爲ニ因リ生シタル損害ニ外ナラサ  
 レハ其費用カ早晚何人ニモ免レ得サルモノナルコトヲ理由トシテ之カ  
 賠償ヲ辭スルコトヲ得ス

○民法不法行爲ノ規定ニ於テ過失ノ有無ヲ定ムヘキ注意ノ程度ハ普通注

(刑)

四三 二七三  
 四四 四四  
 四四 五九  
 四四 五九  
 四四 五九

意ヲ用フル人カ事物ノ狀況ニ應シテ通常爲スヘキ注意ヲ以テ標準ト爲  
 スヘキモノナレハ苟モ其程度ニ相當スル注意ヲ怠ラサル場合ニ於テハ  
 縱令其程度ヲ超エ一層周到ナル注意ヲ盡セハ損害ノ發生ヲ防止スルコ  
 トヲ得ヘカリシトキト雖モ過失ノ責ナキモノトス  
 ○他人ノ不法行爲ニ因リ權利ヲ侵害セラレタル者カ現ニ損害ヲ被ムリ又  
 ハ之ヲ被ムルノ虞アル場合ニ其損害ノ發生又ハ擴大ヲ防止スルニ付キ  
 相當ノ注意ヲ爲スコトヲ要スルハ善意誠實ヲ旨トスル取引上ノ觀念ニ  
 屬スルモノトス

○同一ノ不動産ニ付キ逐次二重ノ賣買アリテ未タ前ノ賣買ニ因ル登記ヲ  
 經サル間ニ後ノ買主カ惡意ニテ登記ヲ爲シ之カ爲メニ前ノ買主ヲ害シ  
 タルトキト雖モ又試掘權讓渡ノ契約ニ立會ヒ其内容ヲ知レル者カ登録  
 經由前ニ讓渡人ト共謀シテ同一ノ試掘權ヲ更ニ第三者ニ賣却セシメ其  
 登録ヲ經テ前契約ニ因ル登録義務ノ履行ヲ不能ニ歸セシメタルトキト  
 雖モ等シク不法行爲ノ責ナキモノトス

○株式會社ノ取締役ニ貸借對照表ノ公告ヲ命シタル規定ハ當ニ其會社ニ  
 既存ノ關係ヲ有スル者ノ爲メノミナラス一般公衆ノ利益ヲモ保護セン  
 カ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ苟モ取締役及ヒ監査役ノ過失ノ原因

四四 六二  
 四四 六二  
 四四 六二  
 四四 六二  
 四四 六二



シテ右規定ニ反スル虚偽ノ公告アリタル爲メ他人ニ損害ヲ及ホシタルトキハ商法中ノ改正規定施行前ニ在リテハ民法第七百九條ノ規定ニ依リ不法行爲ノ責ニ任セサルヘカラス

(刑)

○甲乙兩者共謀シテ日本勸業銀行ノ代理貸付ヲ爲ス丁者ヲ欺罔シ同銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル場合ニ丁者カ銀行トノ契約上其被害金額ヲ賠償シタルトキハ該損害ハ事實上甲乙二人ノ不法行爲ニ因リ生シタル結果ニ外ナラサルヲ以テ其間因果關係ナシト云フヲ得ス

○既存債務ノ履行ニ關スル行爲ト雖モ苟モ一般人ニ對スル權利侵害ヲ避クルニ相當ナル注意ヲ缺キタルカ爲メ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキハ過失ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタルモノニ外ナラサルカ故ニ不法行爲上ニ於ケル過失ノ責ヲ負ハサルヘカラス

○過失ハ獨リ行爲カ違法ノ結果ヲ生シ得ヘキコトヲ認識シ乍ラ其結果ノ生スルコトナカルヘシトノ希望ヲ以テ相當ノ注意ヲ缺ク場合ニノミ存スルモノニ非ス違法ノ結果ヲ生シ得ヘキコトノ認識ナキモ相當ノ注意ヲ爲セハ之ヲ認識シ且避クルコトヲ得ヘカリシ場合ニ於テモ亦存スルモノトス

○國有林下戻ノ行政訴訟ニ於テ請求者カ立證上文書ヲ偽造行使シ當該吏

四五 四五四  
元 一四〇六  
二 二八一  
二 二八一

(刑)

員ヲ錯誤ニ陷レ因テ勝訴ノ判決ヲ受クルニ於テハ其判決ハ請求者ノ爲メニ所有權創設ノ效力ヲ生スルモ國カ從前ノ所有權ヲ喪失スルニ至リタルハ文書偽造行使ノ結果ニ外ナラサルカ故ニ因テ生シタル損害ハ右偽造行使者ニ於テ賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

○行政訴訟ニ於テ訴訟關係者カ立證上文書ヲ偽造行使スルコトハ訴訟上ニ於ケル不法行爲ニシテ民法ニ所謂詐欺ニ因ル法律行爲ト其性質ヲ異ニスルヲ以テ法律行爲ノ法則ヲ以テ之ヲ律スルヲ得ス

○民事訴訟ニ於ケル再審ノ規定ハ確定セル終局判決ノ變更ヲ目的トスルモノナルヲ以テ再審ノ規定存スルカ爲メ確定判決ヲ變更スルニ非サレハ訴訟上ノ不法行爲者ニ對シ損害賠償ノ責任ヲ歸セシムルコトヲ得ザル理由ナシ

○商品販賣ノ委託ヲ受ケタル者ヲ脅迫シテ其販賣ヲ停止スルノ已ムナキニ至ラシメタル者ハ委託者ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘキハ勿論之ニ因リ委託者カ委託販賣ニ依リ得ヘキ利益ヲ喪失スルニ至リタルトキハ委託者ニ對シテモ亦不法行爲ノ責ニ任スヘキモノトス

○他人ノ故意若クハ過失ニ因リ財産權ヲ侵害セラレ之カ損害賠償ヲ請求スルニ當リ被害當時ニ於ケル價格ヲ以テ損害ノ基本ト爲ス場合ニハ其

三 一九五  
三 一九五  
三 一九五  
三 三三六



當時ヨリ賠償ヲ受クル迄ノ法定利率ヲモ共ニ損害トシテ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○甲者カ乙者ニ屬スル乙者名義ノ預金通帳ヲ保管中其預金ノ一部ヲ引出シ之ヲ費消シタル以上ハ縱令甲者ニ於テ該通帳カ乙者ノ名義タルハ唯自己ノ先代丙者カ取引ノ便宜上其名義ヲ藉リタルニ過キスシテ實際該預金ハ丙者ノ所有ナリト信スルモ過失ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

(刑)

○緊急避難ハ一方カ他方ノ權利ヲ侵害スルモノ單ニ之ニ刑責ヲ科セサルニ止マリ之カ爲メニ他方ノ權利ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非サルヲ以テ緊急避難行爲者ハ刑事上無罪ノ判決ヲ受クルニ拘ハラズ之ニ因リテ損害ヲ被ムリタル他人ノ權利ニ對シ民事上賠償ノ責任ヲ負擔スルモノトス  
○婚姻ノ豫約不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ハ違約ヲ原因トシテ請求スルコトヲ要シ不法行爲ヲ原因トシテ請求スヘキモノニ非ス  
○不法行爲ノ關係ニ於テ民法第七百九條ト同第七百十五條トハ相互關係ヲ有スルモノニシテ被用者ニ責任ナキ限ハ使用者ニ於テモ亦何等責任ヲ負擔スヘキモノニ非ス

(刑)

○鑛業法上鑛業ハ必ス鑛業權者直接ニ之ヲ經營シ他人ニ損害ヲ惹起セサルコトニ注意スヘキ義務ヲ有スルモノナレハ苟モ鑛業權者カ其義務ニ違背シ直接ニ之ヲ經營セス自己又ハ其鑛業代理人ニ於テ其權利ヲ第三者ニ授與シタルカ如キ場合ニ第三者カ其經營ニ關シ不法ニ他人ノ權利ヲ侵害シ損害ヲ加ヘタルトキハ鑛業權者ハ民法第七百九條ニ依リ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

(同三三)

鑛業權者カ鑛業法ノ規定ニ反シ第三者ヲシテ其管理ノ任ニ當ラシメタルトキハ其第三者カ鑛業ノ管理上他人ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任スヘク其第三者カ自己ノ使用スル人ニ非サルノ故ヲ以テ其責任ヲ辭スルヲ得ス

(刑)

○第三者カ債務者ヲ教唆シ若クハ之ト共同シテ其債務ノ全部又ハ一部ノ履行ヲ不能ナラシメ以テ債權者ノ權利行使ヲ妨ケ之ニ因リテ債權者ニ損害ヲ生セシメタル場合ニ於テハ債權者ハ第三者ニ對シ不法行爲ニ關スル一般ノ原則ニ依リ其損害ノ賠償ヲ請求シ得ルモノトス

(刑)

○共有物ニ對スル不法行爲ニ因リテ生シタル損害賠償請求權ハ物ニ對スル共同所有權トハ全然獨立シタル別箇ノ權利ニシテ毫モ共有關係存在スルコトナク物ノ共有者カ各自其持分ニ對スル損害ニ付キ賠償ヲ請求スル各別ノ債權ナリトス

三

四九三

三

二九三

三

一七四

四

四九

四

五六

四

一六七

二

一九三

四

二七九

四

三四一



○競賣ノ目的物ニ付キ所有權ヲ主張スル第三者アルトキハ競賣申立人ハ其主張事實ノ眞否ヲ調査スヘク若シ競賣開始ノ時迄ニ調査ヲ爲ス能ハサルトキハ競賣ハ一應之ヲ延期シ其調査ヲ完了スヘキモノナレハ競賣申立人カ右ノ如キ調査ヲ爲サスシテ競賣手續ヲ遂行シ以テ第三者ノ權利ヲ侵害シタルトキハ過失ノ責ニ任スヘキモノトス

○故意又ハ過失ニ因リ違法ニ他人ノ債權ヲ侵害シタル者ハ不法行為ノ責ニ任スヘキモノトス

(刑) ○債權者カ辨濟ヲ受クルノ手段トシテ其請求權ト全然異ナル原因ニ由リ債務者ヲ欺罔シ給付ヲ受ケタル場合ニ於テハ辨濟ノ效力ヲ生スルモノニ非ス從テ其債權者ハ不法ニ他人ノ財產權ヲ侵害シタルモノト謂ハサルヘカラス

○巡查カ當該行政官廳ノ命令ヲ跋タスシテ行政執行法第四條ニ基キ自ラ發シタル命令ハ越權違法ノモノナレハ斯ル命令ニ基キ爲シタル消防組員ノ行為ニ付テハ行為者自ラ不法行為上ノ責ニ任スヘキモノトス

○事實裁判所カ不法行為ノ爲メ被害者ノ得ヘカリシ利益ヲ喪失シタルニ因リ蒙ムリタル損害額ヲ定ムルニ方リテハ其當時ニ於ケル社會ノ通念上被害者ノ當ニ採ルヘキ注意ニ依リ免レ得ヘキ損害額ノ輕減ノ外普通

四 四 四 四 四  
一五六 七六〇 三九五 三五二

一般ニ期待シ得ヘカラサル特別ノ手段方法ヲ講スルコトニ依リテノミ免レ得ヘキモノハ之ヲ其算定ノ資料ニ供スルコトヲ得サルモノトス

○執行債權者カ執達吏ノ職務執行ニ付キ生セシメタル損害賠償ノ責ニ任スルハ執行債權者ニ故意又ハ過失アリテ一般不法行為ノ責ヲ負フヘキ場合ニ限ルモノトス

○所有權ヲ侵害セラレタル者ハ不法行為ノ規定ニ從ヒ損害ノ賠償ヲ請求シ得ヘキコト勿論ナルモ其侵害セラレタル所有權尙ホ存スルトキハ之ニ基キ物ノ取戻妨害ノ排除其他一般ニ所有權侵害ノ除却ヲモ請求シ得ヘキモノトス

(刑) ○苟モ不法行為ニ因リ損害ヲ生セシメタル以上ハ加害者カ不當ニ利得シタルト否トニ拘ハラズ不法行為ノ責ニ任スヘキモノトス

○身體ニ創傷ヲ受ケタルカ爲メニ損害賠償ヲ請求スルニハ債務不履行ノ場合ナルト將タ不法行為ノ場合ナルトヲ問ハス其創傷ニ因リテ財產上若クハ精神上ノ損害ヲ受ケタル事實アルコトヲ要ス

(刑) ○相手方ノ詐欺ニ因リ法律行為ヲ爲シタル者カ其詐欺ニ基キタル意思表示ノ無效ヲ主張シ又ハ取消ヲ爲スコトナク單ニ其不法行為ニ因リテ現實ニ受ケタル損害ノミノ賠償ヲ請求スルハ不法ニ非ス

五 五 四 四 四 四  
三九 四 一九九三 一九六五 一七〇九 一六八三



○將來物ヲ買入レサルヘカラサルニ因リテ被ムルヘキ損害額ヲ算定スルニ付テハ其物ノ將來ノ價格ヲ豫定スルコト能ハサル場合ニハ現在ノ價格ヲ標準トシテ之ヲ決スルモ不當ニ非ス

○叙上ノ場合ニ於テ起業者ノ占有ニ歸シタル土地ニ鐵道其他ノ建設物ヲ築造シ若クハ其土地カ道路公園其他公ノ營造物ニ變シタル場合ノ如ク事實上又ハ法律上返還不能ト爲リタルトキハ土地所有者ハ不當利得又ハ不法行爲ノ原則ニ基キ利得ノ返還又ハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ要シ原狀回復ノ方法ニ依リテ之カ返還ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス(土地收用法五年一二四頁其二參照)

○漁場ニ漁具ヲ定置スル漁業ハ漁場外ヨリ漁具ニ入ル魚類ヲ採捕スルコトヲ目的トスルモノナレハ未タ漁具ニ入ラサルモノト雖モ必然之ニ入リ漁業權者カ採捕シ得ヘキ自然ノ狀態ニ在ル魚類ヲ保護區域内ニ於テ擅ニ採捕セラレタルトキハ漁業權者ハ不法行爲ヲ原因トシテ之カ損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利アルモノトス

○漁場外ナル漁業保護區域ニ於テ借受人ノ漁業權行使ヲ妨害セサル義務ノ如キハ行政官廳ノ命令ニ依リ一般人ノ遵守スヘキ義務ニ屬スルヲ以テ之ニ違背シ因テ損害ヲ生セシメタルトキハ其妨害カ貸付人ノ行爲ニ

係ルトキト雖モ同人ノ債務不履行ヲ以テ論スヘキニ非スシテ法令違反ノ不法行爲ヲ以テ律スヘキモノトス

○電氣軌道株式會社カ軌道條例其他ノ法令ニ依リテ當該行政官廳ヨリ軌道ヲ布設スルコトヲ特許セラレ其命令ノ指定シタル線路ニ認可ヲ經テ架橋ヲ爲シタルトキハ其工事ハ法令上會社ノ爲ササルヘカラサルコトヲ爲シタルニ外ナラサレハ縱令之カ爲メニ他人ノ漁業權ヲ害スルノ結果ヲ生スルモ之ヲ目シテ會社ノ不法行爲ト云フヲ得ス

○不法行爲ニ依リテ侵害セラレタル財産權ノ價額カ行爲後昂騰シタル場合ニ於テ被害者ハ該行爲後最高價額ニ達シタル時迄ノ期間ニ在リテハ特段ノ損害ヲ被ムリタルコトヲ證明シテ其請求ヲ爲スハ格別ナリトスルモ當然最高價額ニ對スル法定利率ニ依ル損害ヲ被ムリタリトシテ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

○織物業者間ノ規約ニ從ヒ職工ノ名義ヲ職工名簿ヨリ抹消スルニ非サレハ組合ニ屬スル他ノ同業者ニ雇傭セラルルコトヲ得サルモノトシテ名簿ノ抹消ヲ請求スル場合ニ於テ雇主タル同業者ト職工間ノ雇傭關係カ契約ノ解除ニ因リ消滅シタル以上ハ職工ハ自己ノ關與セサル規約ニ拘束セラレ就業ノ自由ヲ妨ケラルヘキモノニ非ス名簿ノ抹消ハ雇傭關係

五

三五〇

五

九七三

五

一七七

五

一三三

五

一一三

五

二三四

五

三五〇

五

一六八



ノ消滅ヲ明白ナラシムル目的ニ出テタルニ外ナラサレハ舊雇主力職工名簿ヨリ名義除去ノ手續ヲ取ラサリシトテ職工ノ權利ヲ侵害シタルモノニ非サルモノトス

○第三者甲カ債務者乙ノ家資分散ノ際ニ同人ト共謀シ債權者丙ノ差押ヲ免ルル爲メ乙ノ係争財産ヲ隱匿及ヒ脱漏シ遂ニ丙ヲシテ辨濟ヲ受タルコト能ハサルニ至ラシメタルトキハ甲ハ舊刑法第三百八十八條ノ禁スル行為ヲ爲シ以テ丙ノ有スル債權ノ效力即チ債務者ノ總財産ニ依リ辨濟ヲ受クルノ權ヲ害シタルモノニシテ民法第七百九條ニ所謂故意ニ因

リテ他人ノ債權ヲ害シタル者ニ該當スルモノトス

○化學工業ニ從事スル者カ目的タル事業ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ヲ豫防スルカ爲メ相當ノ設備ヲ施シタル以上ハ偶、他人ニ損害ヲ被ムラシメタルモノヲ以テ不法行為トシテ其損害賠償ノ責ニ任セシムルコトヲ得サルモノトス

○權利行使ハ法律ニ於テ認ムル範圍内ニ於テ適當ノ方法ヲ以テスヘキモノナレハ權利行使ノ場合ト雖モ故意又ハ過失ニ因リ其範圍ヲ超越シ失當ナル方法ヲ行ヒタルカ爲メニ他人ノ權利ヲ侵害シタルトキハ其程度ニ於テ不法行為タルモノトス

○不法行為ヨリ生スル損害ノ賠償ニ付テハ民法第四百十六條ヲ適用スヘキモノニ非ス苟モ其行為ト損害トノ間ニ因果關係ヲ有スル以上ハ其損害カ通常生スヘキモノナルト又特別ノ事情ニ因リテ生シタルモノナルトヲ問ハス等シク加害者ニ於テ之カ賠償ヲ爲ス義務ヲ有スルモノトス

(同主旨)

不法行為ニ因ル損害ノ賠償義務ノ範圍ヲ定ムルニハ債務不履行ノ場合ニ於ケルカ如キ特別ノ明文ナキヲ以テ其損害カ通常生スヘキモノナルト特別ノ事情ニ因リ生シタルモノナルトヲ問フノ要ナシ從テ不法行為ニ因リテ生シタル損害ハ行為者ノ豫見シ若クハ豫見シ得ヘカリシモノナルヲ審究スルノ要ナキモノトス

○不法行為ト損害トノ間ニ因果關係アリト做スニハ事物通常ノ状態ニ依リ社會普通ノ觀念ニ基キ之ヲ判斷スヘキモノトス

○請負人カ他人ヲシテ下請負ヲ爲サシメ以テ其仕事ヲ完成セシメタル場合ニ於テ該下請負人カ第三者ニ加ヘタル損害ハ請負人ノ不法行為ニ基クモノニ非サレハ請負人自ラ其責ニ任スヘキモノニ非ス

○債務者ノ所有地ニ生育スル耕作物ハ一應同人ノ所有ニ屬スルモノト推定スヘキモノナレハ假ニ第三者ノ所有ニ屬スルモノトスルモ債權者ニ於テ之ニ對シ假差押ヲ爲シタルノ一事ヲ以テ直ニ債權者ニ過失アルモ

一九三

二一三

二二〇

二四七

二四

二〇六

八一

二〇六

二〇二



ノト論斷スルコトヲ得サルモノトス

○株金拂込取扱銀行ノ支店長カ株式引受人ヨリ拂込ナキニ拘ハラス拂込アリタル旨ノ虚偽ノ報告ヲ爲シタルトキハ會社發起人ハ之ニ依リ株金拂込アリタルモノト信シ創立總會ヲ招集スヘク會社成立後ハ取締役モ亦之ヲ信シテ拂込ヲ爲ササリシ株式引受人ニ對シ拂込ヲ爲サシムル手續ヲ爲ササルニ至ルヘキヲ以テ之カ爲メニ會社ニ損害ヲ生シタルトキハ斯ル虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ニ於テ其損害ヲ賠償スヘキ責任アルモノトス

○検査役又ハ發起人カ其責ニ任スルハ各其資格ニ基ク義務ヲ盡ササルカ爲メニシテ之ト關係ナキ株金拂込取扱ニ付キ不法行為ヲ爲シタル者ノ責任ハ検査役又ハ發起人カ責任ヲ負フニ因リ消滅スルモノニ非ス

○不法ニ他人ノ所有物ヲ占有シ因テ其所有者ニ損害ヲ被ムラシメタル者ハ民法第七百九條ニ依リ所有者ニ對シテ其損害ヲ賠償スルノ義務アルモノトス

(反對)

民法カ惡意ノ占有者ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケタルハ惡意ノ占有者ハ占有物ノ保存及ヒ果實ノ取得ニ付キ注意ヲ爲スヘキ義務アリ。爲スニ職由スルモノナレハ單ニ占有者カ惡意ナルノ一

事ヲ以テ直ニ不法行為ノ規定ヲ之ニ適用スルコトヲ得サルモノトス

占有者カ暴行強迫等ニ因リ所有者ノ意思ニ反シテ占有ヲ取得シタル場合ニハ其占有者ハ占有ノ規定ニ從ヒ義務ヲ負フノ外不法行為ノ規定ニ從ヒ損害賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

(聯) ○民法第九十條同第九十一條所定ノ場合ニ付キ同條ノ規定ヲ適用シテ占有者ノ賠償責任ヲ定ムルコトヲ要スルハ勿論ナリト雖モ之カ爲メ其他ノ場合ニ付キ民法第七百九條ノ一般規定ヲ適用シテ占有者ノ賠償責任ヲ定ムルハ毫モ妨ケサルモノトス

(聯) ○家屋ノ賃借人カ賃借借終了シ賃借物占據ノ權利ナキニ拘ハラス之ヲ賃借人ニ返還セス不法ニ其占有ヲ繼續シテ賃借人ニ損害ヲ被ムラシメタルトキハ賃借人ハ一面ニ賃借物返還ノ義務ヲ履行セサルト同時ニ賃借人ノ權利ヲ侵害スル不法行為タルヲ以テ賃借人ハ債務不履行若クハ不法行為ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(聯) ○如上ノ場合ニ於テ賃借人カ不法行為ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ請求スルニ當リテハ賃借人ハ民法第七百九條ノ一般規定ニ從ヒ不法占據ニ對スル損害トシテ從前ノ賃料ヲ標準トシ之ヲ賠償セシメ得ヘク其他ニ損害アラハ尙ホ之ヲモ賃借人ヲシテ賠償セシメ得ヘキモノトス

○市ノ水道工事カ一定ノ設計ニ適合スル施行ヲ爲ササル爲メ水利權者ニ

七 二二五

七 八九五

七 八九五

七 九七六

四 五八五

四 五八五

七 九七六

七 九七六

七 九七六



○損害ヲ加ヘタルトキハ民法ノ不法行為ノ適用アルモノトス  
 ○差押ハ債權者ノ委任ニ基因スルモノニシテ之ヲ繼續セシムルト否トハ債權者ノ自由ニ存スルモノナレハ差押物ノ保存ニ付キ特別ノ處分ヲ必要トスル場合ニ於テ執達吏カ適當ノ方法ヲ講スルニ注意スヘキハ債權者ノ責任ナリ從テ差押物ノ保存方法其當ヲ得サルカ爲メ損害ヲ生セシメタル場合ニ於テ債權者ニ故意又ハ過失アルトキハ債權者モ亦一般不法行為ノ責ヲ免レサルモノトス

(同義言)

執達吏カ債權者ノ委任ニ因リテ爲ス職務行為ニ付キ關係人ニ對シ損害ヲ生セシメタルトキハ執達吏ニ於テ其責ニ任スヘキモノナルモ執達吏ノ職務執行ニ際シ債權者ニ故意又ハ過失ノ責ムヘキモノアリテ一般不法行為ヲ以テ論スヘキ場合ニ於テハ債權者ハ其損害賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得サルモノトス

○監査役ノ承認ヲ得サルニ因ル取引無効ノ結果第三者ノ被ムリタル損害ハ取引當事者タル取締役カ法律上ノ義務ニ違反シテ監査役ノ承認ヲ得サルニ原因スルモノニシテ會社ヲ代表シタル他ノ取締役又ハ支配人カ監査役ノ承認ヲ得サルニ原因スルモノトシテ之ニ損害賠償ノ責ヲ歸スルコトヲ得サルモノトス

七	五	七	七
一四〇九	一三六五	一三〇六	一四四八

○著音器音譜ニ付キ著作權者ナキ以上ハ他人カ創製者ノ承諾ヲ得スシテ其音譜ヲ複寫シ之ヲ販賣スルコトハ何等法令ノ禁止スル所ニ非スシテ各人ノ自由ナレハ之ニ依リテ利益ヲ營ミ創製者ノ營業上ニ損害ヲ被ムラシムルモ爲メニ複製者ノ行為ヲ目シテ法律上所謂不正競争又ハ公序良俗ニ反スルモノト謂フヲ得サルト同時ニ創製者ノ人格權其他ノ權利ヲ侵害スル不法行為ト謂フヲ得ス從テ創製者ハ複製者ニ對シテ複寫販賣ノ差止竝ニ損害賠償ヲ求ムル權利ナキモノトス

○不法行為ニ依ル損害ヲ算定スルニハ必スシモ之ニ因リテ生シタル直接ノ損害ノミナラス苟モ取引ノ通念上不法行為ニ基因スルモノト認ムルコトヲ得ル以上ハ間接ノ損害ト雖モ其内ニ包含スルモノト爲スヘキモノトス

(同義言)  
 不法行為ノ損害カ權利ノ侵害ニ對シ因果ノ關係上必然ノ結果ナルトキハ其直接ナルト間接ナルトナ問ハス加害者ニ於テ之ヲ賠償スルノ責ニ任スヘキモノトス

○不法行為ニ因ル債務不履行ノ損害ハ不法行為ニ因ル損害ナリト謂フヲ得サレハ當事者カ單ニ不法行為ニ因ル損害賠償ノミヲ請求スル場合ニ於テ裁判所ハ其賠償請求權ノ不履行ニ因ル損害賠償ノ支拂ヲモ命スル

四	七	七	七
二七三	一八九三	一七〇	一六〇三



コトヲ得サルモノトス

○債權ノ不法侵害者ニ對シテ損害賠償ヲ命スルニハ先ツ其侵害シタル債權ノ性質ヲ確定セサルヘカラス

○甲カ乙ニ對シ第三者タル丙ノ自由ヲ強制シ丙ヲシテ一定期間乙ノ爲メニ藝妓稼業ニ從事セシメ之ニ因テ生シタル財産上ノ利益ヲ丙ノ意思ニ關係ナク乙ノ所得ト爲サシムル契約ハ丙ノ自由ヲ強制シ同人ノ藝妓稼業ヨリ生スル利益ヲ不法ニ領得センコトヲ目的トスルモノニシテ公ノ秩序ニ關スル法規ニ違背スル無効ノ契約ナレハ乙ハ其契約ニ因リ甲ニ對シ何等ノ債權ヲ取得セス從テ丁カ丙ヲ誘拐シタルモ同人カ乙方ニ於テ事實ト藝妓稼業ヲ爲シ居リタルト否トヲ問ハス之ニ因テ甲ニ對スル乙ノ債權ヲ侵害スル結果ヲ惹起スヘキ理由ナキモノトス

○如上ノ場合ニ於テ丙カ甲對乙間ノ契約ノ履行トシテ乙ニ對シ藝妓稼業ヨリ生スル利益ヲ乙ノ所得ト爲スヘキ約款ノ下ニ其稼業ニ從事シ居リタル事實アリトセハ丙カ自己ノ契約上ノ債務タル藝妓稼業ヲ爲スコトニ依リテ同時ニ甲ヨリ乙ニ對スル債務ヲ履行セラルル結果ヲ生スルヲ以テ乙ハ甲ニ對シ丙ノ藝妓稼業ヨリ生スル利益ヲ收得スル債權ヲ有スルモノトス從テ丁カ丙ヲ誘拐シ同人ヲシテ乙方ニ於テ藝妓稼業ヲ爲シ

七

七

一八九三

一九五四

七

一九五四

得サラシメタルトキハ丁ハ乙ニ對シ丙ノ藝妓稼業ニ因リテ得ヘカリシ利益ヲ償還スヘキモノトス

七

一九五四

○假裝ノ法律行為ニ基ク虚偽ノ債權ヲ真正ノ債權ナリトシテ讓渡シタルニ因リ善意ノ債權譲受人カ其債權ヲ相殺ニ利用シ之ニ依テ自己ノ債務ヲ消滅セシメタル場合ニ於テハ虚偽ノ債權ノ讓渡ト債務消滅トノ間ニ因果關係アリト認ムヘキモノトス

七

一九九三

○虚偽ノ債權ヲ真正ノ債權ナリトシテ讓渡シタル者ハ債權譲受人カ其債權ヲ相殺其他ノ方法ニ依リ之ヲ利用スヘキコトヲ當然豫知シ得ヘキモノナレハ債權譲渡人ハ相殺ノ行ハルヘキコトヲ豫知セサリシトキハ豫知セサリシコトニ付キ過失アリト謂ハサルヘカラス

七

一九九三

○甲カ假裝ノ法律行為ニ基ク虚偽ノ債權ヲ善意ノ第三者丙ニ讓渡シ乙ノ損害ニ於テ其權利ヲ取得セシメタルトキハ甲ハ該法律行為ノ當事者タル乙ニ對シ不法ニ財産上ノ損害ヲ被ムラシメ以テ不法行為ヲ爲シタルモノトス

七

一九九三

○梯子ヲ助木ニ立掛ケ置キタルハ他ニ之ヲ保管スルニ適當ナル空地ナクシテ已ムヲ得サルニ出テタリトスルモ之ヲ助木ニ立掛ケルニ付キ危険ヲ防止スルニ足ル適當ノ方法ヲ採ラサルニ於テハ相當ノ注意アリタル











○程度ノ扶養ヲ受クルコト能ハサルニ至リタルトキハ其之ヲ受クルコト能ハサル程度ニ於テ必然利益ヲ喪失スルモノニシテ即チ財産上ノ損害ニ外ナラス

○他人ノ生命ヲ害シタル者カ民法第七百十一條ニ依リ賠償スヘキ財産上ノ損害ハ要債權利者カ死亡者ヨリ扶養ヲ受タル權利ノ如ク親子若クハ配偶者ノ身分ニ附著シ法律上當然發生スヘキ利益ヲ失ヒタル場合ナルコトヲ要シ德義上ノ關係ニ基キ發生ヲ希望スヘキ如キモノヲ包含セサルモノトス

○生活費又ハ扶養料ヲ受クヘキ權利ヲ侵害セラレタルカ爲メ其損害ノ賠償ヲ請求スルノ權利ハ專屬的性質ヲ有シ被害者タル遺族ノ存在ヲ前提トスルモノナレハ判決後其遺族ノ内死亡スル者アルトキハ其者ノ請求權ハ當然消滅シ爾後債務者ハ其者ニ對スル損害金支拂ノ義務ヲ免ルルモノトス

第七百十二條

○責任能力アル未成年者ノ不法行為ニ付テハ成年者ノ場合ニ於ケルト全然同一ノ注意義務ニ服從シ所謂善良ナル管理者ノ注意ヲ標準トシテ過失ノ有無ヲ定ムヘキモノトス

三	八三四
四	一六三二
五	一七九六
六	六九二

○民法第七百十二條ニ所謂「行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能」トハ道德上ノ不正ノ行為タルコトヲ辨識スル知能ノ意ニ非スシテ加害行為ノ法律上ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ指稱スルモノト解スルヲ相當トス

(參照)

犯罪行為ニ因リ他人ノ權利ヲ侵害シタル者カ刑事上ノ責任ヲ負フニ必要ナル識別心ヲ有スル以上ハ其智能ハ同一ノ行為ヨリ生スル民事上ノ責任ヲ辨識スルコトヲ得ル程度ニ達シタルモノト認ムヘキモノトス

六	七二五
三四	一三九

第七百十四條

○父カ民事擔當人トシテ其子ノ行為ニ對スル責任ヲ定ムルハ子ニ對スル監督ノ義務ヲ怠リタルト否トニ依ルモノトス

三三	八二
----	----

第七百十五條

○新聞紙ヲ發行スル株式會社ノ代表者タル專務取締役ハ編輯人印刷人及ヒ發行人ヲ使用スル者トス從テ新聞紙發行事業ニ付キ右等ノ者カ第三者ニ加ヘタル損害ニ對シテハ民法第七百十五條ニ依リ使用者ハ其賠償ノ責任ニ任スヘキモノトス

三四	一〇五
----	-----

○新聞紙ノ編輯人カ編輯人上新聞紙ニ掲ケタル記事ニシテ偶々誹毀ニ關



○スル刑律ニ觸ルルコトアルモ之ヲ職務ノ執行行爲ニ非スト云フヲ得ス  
 ○或事業ノ爲メニ他人ヲ使用スル者カ民法第七百十五條ニ依リ第三者ヨ  
 リ損害賠償ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ特ニ被用者ノ選任及ヒ其事業  
 ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタル事實ヲ主張セサルトキハ同條但書  
 ノ規定ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○或業務ノ爲メ他人ヲ使用スル者カ自己ノ義務ニ屬スル被用者ノ監督ニ  
 付キ特ニ第三者ヲ雇使シ又ハ其監督ヲ之ニ委託シタルトキハ此等監督  
 者ノ過失懈怠ハ使用者ノ過失懈怠トシテ其責ニ任スヘク監督者其人ノ  
 選任監督ニ付キ不注意ナカリシコトヲ理由トシテ其責任ヲ辭スルヲ得  
 ス

○債權者ノ代理人トシテ差押ノ實施ニ立會フ者ハ法律行爲若クハ準法律  
 行爲ノ代理人ニ非サルヲ以テ之ニ民法第一百一條第二項ヲ適用又ハ準用  
 スルヲ得ス又其者ハ差押フヘキ物ヲ指示スル爲メ債權者ニ使用セラル  
 ル者ニ非サルヲ以テ同第七百十五條ヲ適用スヘキ限ニ在ラス

○商法第五百四十四條第一項ハ船舶所有者ニ過失ナカリシトキト雖モ其  
 責任ヲ免ルルコトヲ得サル旨ヲ規定セルモノナルヲ以テ民法第七百十  
 五條ニ規定セル使用者ノ責任ニ比シ一層重キ責任ヲ船舶所有者ニ負ハ

シメタルモノニシテ即チ其例外規定ナリトス

(刑) ○民法第七百十五條第一項但書ニ所謂相當ノ注意ナルモノハ使用者ノ事  
 業ノ性質ニ依リ自ラ其程度ヲ異ニスルモノニシテ電氣鐵道會社ノ如キ  
 ハ被用者ノ選任ニ付キ周到ナル注意ヲ用ユルコトヲ要シ特ニ其任用セ  
 シトスル者カ其従事スヘキ業務ヲ執行スルニ適當ナル性格ヲ有スルヤ  
 否ヤニ留意シテ詮衡ヲ爲スヘキモノトス

(刑) ○民法第七百十五條第一項ハ被用者カ使用者ノ事業ノ執行上第三者ニ損  
 害ヲ加ヘタルトキハ一應ノ推測トシテ使用者ハ被用者ノ選任及ヒ監督  
 ニ付キ相當ノ注意ヲ缺キタルモノト爲シ使用者ニ於テ眞實相當ノ注意  
 ヲ用キタルコトヲ證明シ得タル場合ニ限り賠償ノ責任ナキコトヲ規定  
 シタルモノトス

(刑) ○苟モ使用者カ被用者ノ選任ニ付キ相當ノ注意ヲ用キサル以上ハ縱令其  
 監督ニ付キ相當ノ注意ヲ用キタリトスルモ使用者ハ被用者ノ第三者ニ  
 加ヘタル損害ニ付キ賠償ノ責ヲ辭スルコトヲ得サルモノトス  
 (刑) ○不法行爲ノ關係ニ於テ民法第七百九條ト同第七百十五條トハ相互關係  
 ヲ有スルモノニシテ被用者ニ責任ナキ限ハ使用者ニ於テモ亦何等責任  
 ヲ負擔スヘキモノニ非ス

二	五六〇
三	一一三
三	一一五七
三	一一五七
三	一一五七
四	一一五七
四	一一五七

二	四八八
二	一五七
三	二六五
四	二八二
四	二八二



○民法第七百十五條第一項未段ニ所謂相當ノ注意ヲ爲スモ損害カ生スヘカリシトキトハ使用者カ被用者ノ選任及ヒ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲スモ損害發生ノ到底避クヘカラザリシコト明確ナル場合ヲ指稱スルモノニシテ其不明確ナル場合ヲ包含セス

○被用者カ事業ノ執行ニ付キ第三者ニ損害ヲ加ヘタル場合ニ於テ使用者カ民法第七百十五條第一項但書ニ依リ賠償責任ヲ免レントスルニハ自ラ被用者ノ選任及ヒ其事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルコト又ハ相當ノ注意ヲ爲スモ損害ノ生スヘカリシコトヲ主張シ且之ヲ立證セサルヘカラサルモノトス

(同業旨)

使用者カ民法第七百十五條但書ノ規定ニ依リ賠償責任ヲ免レントスル場合ニハ被用者ノ選任及ヒ事業ノ監督ニ付キ相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ立證セサルヘカラス

○電車運轉ノ如キ人ニ危害ヲ及ホスノ虞アル事業ニ従事スル者ハ其危害ヲ避クルニ相當ナル注意ヲ用ユヘキモノニシテ此注意ヲ缺クトキハ則チ過失アリト爲スヘキモノトス

○電車運轉手ハ其電車ノ前方遠カラサル場所ヲ軌道ニ沿ヒ同一方向ニ歩ム者アル場合ニハ警鈴ヲ鳴ラシテ其者ノ注意ヲ喚起スルノ手段ヲ執ル

ヘク又電車カ其者ニ接近セルトキハ徐行シテ以テ直ニ停車衝突ヲ避ケ得ルノ途ヲ講スルヲ相當トス

(刑) ○民法第七百十五條ニ所謂被用者カ其事業ノ執行ニ付キ加ヘタル損害トハ使用者ノ命令又ハ委任シタル事業ノ執行行為自體若クハ其執行ニ必要ナル行為ヨリ生シタル損害ヲ指稱ス從テ被用者カ事業ノ執行ニ際シ單獨ノ意思ニ基キ別ニ不正ノ行為ヲ爲シタル結果他人ニ加ヘタル損害ノ如キハ縱令使用者ノ利益ノ爲メニシタルトキト雖モ之ニ包含セサルモノトス

(刑) ○民法第七百十五條ニ所謂被用者カ其事業ノ執行ニ付キ第三者ニ加ヘタル損害トハ被用者カ使用者ノ命令又ハ委任シタル事業執行ノ範圍内ニ於テ故意又ハ過失ニ因リ第三者ニ對シテ惹起シタル損害ヲ指稱スルモノトス

(刑) ○被用者カ使用者ノ事業執行トシテ何等爲スヘキコトノ現存セサルニ拘ハラズ自己ノ目的ノ爲メ其地位ヲ濫用シテ擅ニ爲シタル行為ニ因リ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ縱令其行為カ外形上使用者ノ事業執行ト異ナル所ナシトスルモ使用者ヲシテ賠償ノ責ニ任セシムヘキモノニ非

五

一一三

五

七二

五

一一四

五

一一〇

四

六〇六

四

一六三

四

六二

五

一一三



○電車ノ軌道ト極メテ接近セル距離ヲ保チ荷車ヲ曳キ來リタル者アリテ電車ト衝突スルノ虞アル場合ニ於テハ府令ノ命スル所ニ從ヒ運轉手ハ適當ノ距離ニ於テ電車ノ運轉ヲ停止スル等應急ノ處置ヲ執ラサルヘカラサルニ拘ハラス徒ニ右通行人ノ回避ヲ豫期シテ電車ヲ進行セシメタル結果該荷車ト衝突スルニ至リタルハ運轉手ニ過失アリト云ハサルヘカラス

○民法第七百十五條ニ所謂被用者トハ報酬ノ有無期間ノ長短ヲ問ハス廣ク使用者ノ選任ニ因リ其指揮監督ノ下ニ使用者ノ經營スル事業ニ從事スル者ヲ指稱スルモノトス

○民法第七百十五條ノ使用者被用者ノ關係ハ獨リ雇傭契約ノ存スル場合ノミナラス委任タルト組合タルトヲ問ハス汎ク他人ノ爲メニ事業ヲ執行スル者カ指揮監督ノ下ニ其意思ニ從テ執務スル關係ニ在ル場合ヲ指稱スルモノトス

○會社カ支配人ノ選任及ヒ監督ニ付キ注意ヲ怠リタルトキハ民法第七百十五條ニ依リ其他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任スヘク同第四十四條第一項ノ準用ニ依リテ責ニ任スヘキモノニ非ス

○銀行ノ被用者カ自己又ハ他人ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ預金ナキニモ拘ハラズ預金證書ヲ發行スルカ如キハ其地位ヲ濫用シ擅ニ爲スモノニ外ナラサレハ之ヲ以テ使用者タル銀行ノ事業執行ノ範圍ニ屬スルモノト謂フヲ得ス

○同一事實關係ニシテ一面ニ於テ債務不履行ト爲ルト同時ニ他面ニ於テ不法行爲ト爲リ契約上ノ請求權ト不法行爲上ノ請求權トカ相競合スルコトアルハ民法上認メラレサルモノニ非ス

○甲ハ其代理人ニ依リ乙トノ間ニ其所有船ノ曳船契約ヲ締結シ其約旨ニ從ヒ該船ヲ安全ニ航行セシムル義務アルコトヲ認メ乍ラ其曳船ノ途中甲ノ被用者ノ過失ニ因リ被曳船ヲ淺瀬ニ擱座スルニ至ラシメ其船體ニ損傷ヲ蒙ラシメ之ヲ離洲セシムル爲メ搭載貨物ヲ川中ニ投棄スルノ已ムヲ得サルニ至ラシメタル事實ヲ認メ民法第七百十五條ニ依リ甲ニ不法行爲ノ責任アリト爲シタル判決ハ相當ナリ

○乙種二等運轉手ノ海技免狀ヲ有シ平水航船百噸未滿ノ汽船ノ船長タル資格アル者ト雖モ船長ニ選任スルニ付テハ右ノ海技免狀ヲ有スルヤ否ヲ調査スルノミナラス其者ノ經驗性格等ヲ調査スルニ非サレハ相當ノ注意ヲ施シタルモノト謂フヲ得サルモノトス

○踏切ニ於テ通行人ノ危險ヲ警戒シ電車ニ進行ノ可否ヲ信號スルコトヲ

五 六 六 六 六

一七九六 二二二 三三二 六九〇

六 六 六 六

一〇六一 一八二 一八二 一八二



職務トスル踏切番人ハ管ニ踏切ニ於ケル開閉器ヲ閉鎖シ之ニ依リ通行人ニ對シ踏切ヲ通過スルノ危険ナルヲ警告スルノミナラス尙ホ其開閉器ヲ踏ヘ若クハ潜リテ危険ヲ侵サントスル者ナキヤヲ注意シ其危険ヲ侵ス者ナキコトヲ確メタル後ニ非サレハ電車ニ對シ安全信號ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

○民法第七百十五條ニ所謂事業ノ執行ニ付キ加ヘタル損害トハ事業ノ範圍ニ屬スル行為又ハ之ト關聯シテ一體ヲ成シ不可分ノ關係ニ在ル被用者ノ行為ヨリ生シタル損害ヲ指稱スルモノトス

(同主旨)

民法第七百十五條ニ依リ使用者チシテ被用者ノ惹起シタル損害ニ付キ賠償ノ責任ヲ負ハシムルニハ其被用者ノ行為カ使用者ノ事業執行自體ナルカ若クハ之ト相關聯シテ一體ヲ成シ不可分ノ關係ニ在ルコトヲ要ス

○被用者ニ於テ事業ノ範圍ニ屬スル行為ヲ爲シ因テ第三者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ事業經營者ハ當然第三者ニ對シ損害ヲ賠償スル責任アルモノトス

○商事會社甲銀行カ乙會社ノ株金拂込取扱銀行ト爲リ株金拂込事務取扱ニ際シ其被用者タル同銀行支店ノ支配人カ乙會社ノ株式引受人ヨリ爲

七 五 七 七  
一一三三 一一四〇 一一三三 九九九

ス株金拂込ニ付キ其拂込濟證ヲ作成シ之ヲ乙會社發起人ニ交付スル行為ハ乙會社ノ爲メニ其株金拂込事務ヲ取扱フモノナレハ之ヲ甲銀行ノ事業ノ執行行為ナリト爲ササルヘカラス  
○如上支配人カ株式引受人ト協議ノ上何等株金ノ拂込ナキニ拘ハラヌ拂込アリタルカ如ク假構シ虚偽ノ事實ヲ記載シタル株金拂込濟證ヲ作成シテ之ヲ乙會社發起人ニ交付シタルモノトスルモ之カ爲メ右支配人ノ行為カ甲ノ事業ノ執行行為タルヲ妨クルモノニ非ス

(參照)

雇人ノ過失又ハ怠慢ノ結果ハ其使用者ニ於テ之ヲ負擔スルヲ法律上ノ原則トス

(第七百十七條)

第七百十七條

○民法第七百十七條第一項ニ所謂占有者トハ必スシモ私人又ハ法人ニ限リタルニ非スシテ水利組合ノ如キ公ノ法人ト雖モ工作物ヲ占有スル場合ニハ其占有ハ私法上ノ關係ニ於テ存在スルコトアルカ故ニ亦同條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

○民法第七百十七條ニ土地ノ工作物トハ建物牆壁地窖ノ如ク土地ニ接著シテ築造セル設備ヲ指稱シ機械ノ如キ工場内ニ据付ケラレタルモノハ之ニ包含セス

七 七  
一一三三 一一三三  
七 七  
一一三三 一一四〇 一一三三 九九九











場合ニ於テ加害者ノ責任ヲ宥恕スヘキ事情存スル時ニ之ヲ適用スヘキ

○民法第七百二十二條第二項ニ所謂過失トハ自己ノ利益ニ反スル行為ヲ

爲シタル場合ニ存スルモノニシテ義務ニ違背シテ他人ノ利益ヲ害シタ

ル場合ニ存スル過失トハ其法律上ノ效果ヲ異ニスルモノ之ヲ心理上ヨリ

觀察スルトキハ二者其性質ニ於テ同一ナリトス

○行為ノ責任ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具ヘサル未成年ノ被害者ニ對

シテハ民法第七百二十二條第二項ノ適用ナキモノトス

○民法第七百二十二條第二項ニハ「被害者ニ過失云云」ト明定セルカ故ニ

其監督者ニ監督上ノ過失アリタル場合ニハ同條ヲ適用スヘキモノニ非

ス

○他人ノ過失ニ對シ責任ニ任スルニハ特ニ法律ノ規定ヲ要スルモノナレハ

不法行為ノ場合ニ於テ被害者ノ親權者ニ監督上ノ過失アリタリトスル

モ其過失ハ被害者ニ對スル賠償額ヲ定ムルニ付テ斟酌ノ資料ト爲スヘ

キモノニ非ス

○名譽トハ各人カ社會ニ於テ有スル位置即チ品格名聲信用等ヲ指スモノ

第七百二十三條

ニシテ畢竟各人カ其性質行狀信用等ニ付キ世人ヨリ相當ニ受クヘキ評

價ヲ標準トスルモノニ外ナラス

○或行為カ他人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ決スルニハ單ニ其

行為ノ性質上一般ニ人ノ名譽ヲ毀損スヘキモノナルヤ否ヤヲ定ムルヲ

以テ足レリトモス尙ホ名譽ヲ毀損セラレタリト主張スル人ノ社會ニ於

タル位置狀況等ヲ參酌シ以テ其行為カ特ニ其人ノ名譽ヲ毀損スヘキモ

ノナルヤ否ヤヲ審査セサルヘカラス

○人ノ信用ニ關シ不當ニ虛無ノ事實ヲ社會ニ表白シテ其信用ヲ害スルカ

如キハ人ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス

○支拂停止ノ事實ナキ債務者ニ對シテ破産ヲ申請シ裁判所ヲシテ破産ノ

宣告ヲ爲サシメ之ヲ公告セシムルハ即チ債務者ノ信用ヲ害スヘキ事實

ヲ流布スルモノニ外ナラス

○他人ノ人格ヲ批評スルニ當リテ發表シタルコトカ意見ニ止マルトキト

雖モ苟モ其發表ニ因リテ同人カ品性德行名譽信用等ニ付キ世人ヨリ受

クヘキ聲價ヲ害スルモノナルトキハ事實ヲ表白シタル場合ト同シク他

人ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス

○甲男カ適法ニ婚姻ヲ成立セシムルノ意思ナキニ拘ハラヌ其意思アル如

三六	三九	三九	三六	三六
一六六五	二二六	二七三	七四五	



○ク裝ヒテ乙女ヲ欺キ婚姻ノ式ヲ舉ケ爾後數月間同棲セシメタルモ遂ニ婚姻ノ届出ヲ爲サザリシノミナラス瑣瑣タル事柄ヲ理由トシテ離別ヲ爲シタルハ即チ故意ヲ以テ乙女ノ名譽ヲ毀損シ其權利ヲ侵害シタルモノニ外ナラス

○他人ノ商標權ヲ侵害シタル場合ト雖モ必スシモ名譽毀損ノ事實アルモノト爲スヲ得ス其登錄商標ヲ使用シタル商品カ商標權者ノ商品ヨリ優良ナルカ如キ場合ニ於テハ商標權者ノ信用ヲ害スルコトナキヲ以テ名譽毀損ノ事實アルモノト云フヲ得ス

(同書)

○登錄商標ニ類似セル商標ヲ同種ノ商品ニ使用シ廣ク世間ニ販賣スルトキハ之カ爲メ商標主ニ財産上ノ損害ヲ加フルコトアルヘキモ其品質劣ラサル限ハ被害者ノ名譽ヲ毀損シタルモノト云フヲ得ス

○事實ニ反スルコトヲ知り乍ラ或者ノ品位信用等ニ關スル社會上ノ地位ヲ毀損スヘキ事項ヲ第三者ニ表白シタル以上ハ縱令廣ク之ヲ社會ニ流布スルニ至ラサルトキト雖モ其者ノ名譽權ヲ侵害シタルモノトス

(參照)

當事者カ婚姻ノ豫約ニ基キ慣習ニ從ヒテ婚姻ノ儀式ヲ舉ケ事實上夫婦的關係ヲ生シタル場合

ト雖モ其關係ヲ絶ツコトハ雙方ノ自由ナルヲ以テ男子ヨリ豫約ノ履行ヲ拒絕シタルカ爲メ女子ノ品格ヲ毀損シ其名譽ヲ傷ケルノ結果ヲ生スルモ不法ニ名譽ヲ侵害シタルモノト謂フヘカラス

第七百二十四條

第七百二十四條

○不法行爲ノ被害者タル國カ加害者ニ對シテ民事裁判所ニ損害ノ賠償ヲ請求スルトキハ其請求權ハ民法第七百二十四條ニ依リ國カ損害及ヒ加害者ヲ知りタル時ヨリ起算シ三年ノ時効ニ因リテ消滅スルモノトス

○債務者カ不法行爲ニ原因セル債務ノ辨濟ヲ怠リタルニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スル場合ニハ民法第七百二十四條ノ時効規定ヲ適用スヘキモノニ非スシテ同第六十七條第一項ヲ適用スヘキモノトス

○民法第七百二十四條ニ所謂加害者トハ不法行爲者ヲ指稱シ不法行爲者ニ非スシテ損害賠償ノ責ヲ負フ者ヲ包含セス故ニ會社ノ取締役カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ被害者ニ於テ損害ヲ被フ

リタルコト及ヒ取締役カ加害者ナルコトヲ知りタル時ヨリ會社ニ對シテモ同條所定ノ三年ノ時効進行スルモノトス

○不法行爲ニ基ク損害賠償ノ請求カ犯罪ヲ原因トスル場合ニ於テハ其時効ノ期間起算點及ヒ中斷ニ付テハ公訴ノ時効ニ於ケルト同一ノ規定ニ

四四

四二

四四

五

一六九

九六三

四九

八六五

(刑)

四

三

三七

五

一六

五九九

五四七

一八七九



依ルヘキモノニシテ民法第七百二十四條其他民法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス

○民法第七百二十四條ニ所謂損害ヲ知ルトハ單純ニ損害ヲ知ルニ止マラス加害行為ノ不法行為ナルコトヲモ併セ知ルノ意ナリト解スヘキモノトス

(反對)

○民法第七百二十四條前段ノ消滅時效ハ被害者カ損害及セ加害者ヲ知リタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノニシテ其不法行為ヲ知リタル時ノ何時ナルヤハ問フ所ニ非ス

○假處分命令ノ執行ハ假處分ニ依リ保全セラルヘキ請求權及ヒ其實現ヲ妨クヘキ危害カ假處分命令ノ當時存在スルトキハ不法ナラサルヲ以テ危害又ハ請求權ノ存在セサリシコトカ裁判上確定セラルル迄ハ其不法行為ナリヤ否ヤハ未定ニ屬ス從テ假處分命令ノ執行ニ因リ損害ヲ受ケタル當事者ハ此時迄ハ損害ヲ知ルモ未タ不法行為ニ因ル損害ナルコトヲ知リタルニ非サレハ其損害賠償請求權ノ時効ハ如上ノ裁判確定セラレタルコトヲ知リタル時ヨリ進行ヲ始ムルモノトス

第四編 親族

第一章 總則

(刑) ○繼子ト繼母ノ血族トノ間ニハ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ナシ  
(刑) ○夫婦ノ一方ノ血族ト他方ノ血族トノ間ニハ姻族關係ナシ

(參照)

私交上絶交スルコトアルモ親族ノ關係ニ至テハ法理上之ヲ斷絶スルコトヲ得ス既ニ之ヲ斷絶スルコトヲ得サルトキハ親族ノ關係ヨリ生スル權利ヲ行用スルコトヲ得ヘシ  
民法上權利ヲ爭フ場合ニハ一家族間ト雖モ他人ト異ナラス  
本家ニシテ且親屬タル關係ヲ有スル者ハ分家ノ秩序ニ關スル事柄ニ付キ容喙ノ權ヲ有スルカ故ニ分家ニ於テ跡相續ヲ爲スヘキ者ノ順位ニ付キ不當ノ處置アリト認ムル場合ハ其相當順位ニ在ル者ヲ保護スル爲メ分家ニ對シ訴訟ヲ起スコトヲ得  
本家分家ノ區別ハ我邦古來ノ慣例上之ヲ認ムルモノナルカ故裁判所カ其關係ニ基キ當事者ニ權利ノ有無ヲ判定シタルハ相當ナリ

(第七百二十五條)

○血族ノ親族タル身分ハ戶籍ニ登錄スルニ因テ其效力ヲ生スルモノニ非ス未タ戶籍ノ登錄ヲ經スト雖モ父母ノ認知ヲ得サル私生子ノ外事實上血族タル者ハ即チ親族ノ身分ヲ有スルモノナリ

(第七百二十六條)

第七百二十六條

民法 親族 總則

三五	二六	二五	四	四
一〇	五	六一		
一三六	三四	五三	六五七	六五七

七	四	七	六
			一六三一
四九八	六〇〇	四九八	



○養子ノ卑屬親ト養親ノ親族トノ間ニ於ケル親等ノ計算ハ養子ノ離縁ニ因リ又ハ養親ノ親族關係ノ發生カ養子離縁ノ時ヨリ前ナルト後ナルトニ因リ何等影響ヲ受クヘキモノニ非ス

〔第七百二十七條〕

○民法施行ノ前後ヲ問ハス實親子以外ニ於テ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルハ養親ト養子繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子トノ間ノミナリトス

○民法施行以前ニ於テモ養子ハ養親及ヒ其血族トノ間ニ養子縁組ノ日ヨリ血族間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生シタルモノトス

〔第七百二十八條〕

○繼父トハ嫡出子若クハ庶子ノ父カ死亡シ又ハ家ヲ去リタル後入夫ト爲リタル者ヲ謂フ故ニ寡婦ノ私生子ニシテ適法ノ認知ヲ受ケサリシ者ハ入夫婚姻ノ後ト雖モ依然其母ノ親權ニ服スヘキモノトス

○民法施行ノ前後ヲ問ハス實親子以外ニ於テ親子間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルハ養親ト養子繼父母ト繼子及ヒ嫡母ト庶子トノ間ノミナリトス

○繼親子ノ關係ハ子ノ實父又ハ實母カ後妻ヲ娶リ又ハ後夫ヲ迎ヘタル場

四	三七	四	六	四	四	四
五七〇	七三	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇	五七〇

○合ニ於テ其後妻又ハ後夫ト之家ヲ同フスル前妻又ハ前夫ノ子トノ間ニ生スルモノト解スルヲ相當トス而シテ其後妻又ハ後夫トノ婚姻ハ戸内結婚ナルト否トヲ問ハサルモノトス

(同三三)

父死亡シ又ハ離婚シテ家ヲ去リタル後母カ同一ノ籍ニ在ル先夫ノ兄弟ト結婚シタルトキハ他ヨリ夫ヲ迎ヘタル場合ト同シク其後夫ヲ指シテ子ノ繼父ト稱スヘキモノナリ  
父死亡シ又ハ其家ヲ去リタル後母カ後夫ヲ迎ヘタルトキハ子カ戸主タル場合ト否ト又後夫カ他家ヨリ入りタル場合ト否トヲ論セス其後夫ト子トノ間ニ繼父子ノ關係ヲ生スルモノトス

○繼父母ト繼子トノ間ニ繼親子ノ關係ヲ生シタル時ヨリ繼父母ト繼子トノ間ニ準血族ノ關係ヲ生スルヲ以テ其以後ニ生レタル繼子ノ子ハ繼子ト家ヲ同フスル繼父母ノ家ニ入ルニ因リ繼子ヲ通シテ繼父母ト準血族ノ關係ヲ生シ即チ祖父母對孫ト同一ノ親族關係ヲ生スルモノトス

○民法第七百二十八條ハ繼子ノ直系卑屬ト繼父母トノ間ニ於テモ亦準血族ノ關係ヲ生セシムル法意ナリト解スヘキハ同第七百二十七條カ養子ノ直系卑屬ト養親トノ間ニ於テモ亦準血族ノ關係ヲ生セシムル旨趣ト同一ニシテ其直系卑屬ハ養子縁組ノ後ニ生レ養子ト家ヲ同フスル養子ノ直系卑屬ヲ指スモノナレハ繼親子ノ關係ヲ生シタル後ニ生レ繼子ト

六	四二	六	六	六	六	六
二二九	九五一	二二九	二二九	二二九	二二九	二二九



共ニ繼父母ノ家ニ入ル繼子ノ子ニ限リ繼父母ト準血族ノ關係ヲ生スルモノト解スルヲ相當トス

(第七百二十九條)

(刑)

○民法第七百二十九條ノ規定ハ夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テハ姻族關係消滅セサルヲ原則トシ止夕除外例トシテ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキニノミ之ヲ消滅セシムルノ旨趣ナリトス

(參照)

夫ノ死亡後寡婦カ子ヲ遺シ實家ニ復籍スルモ亡夫ノ家ニ對シ當然親族關係ヲ斷絶スヘキ判例  
若クハ習慣ノ存スルコトナシ故ニ寡婦ノ實弟カ最近親族トシテ該遺子ノ家政ニ關係スルハ相當ナリ

(第七百三十條)

(參照)

養子女一旦離縁ト爲リシ以上離合養家ニ實子ヲ遺シタル場合ト雖モ養家ノ家事ニ付キ親族トシテ關係スルノ權利ナキコトハ古來ノ習慣ナリ故ニ離縁ト爲リシ婦女ヲ妻ト爲シタル夫ハ妻カ舊養家ノ家事ニ付キ容縁ノ權利ナキコトモ亦言フ候タス

(第七百三十一條)

(刑)

○夫婦ノ一方カ死亡シタル場合ニ於テ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキ

三四

三九

## 第二章 戶主及ヒ家族

### 第一節 總則

○一旦戶主ト爲リタル以上ハ如何ナル事實證據アリト雖モ之ヲ廢退セシムルコトヲ得ス

(參照)

民法人事編ノ實施セラレサル今日ニ在テハ慣例ニ依リ既ニ戶主ト爲リタル者ト雖モ十分ナル理由存在スルトキハ之ヲ廢スルヲ得

(第七百三十三條)

(刑)

○民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ云フニ非ス

三三

二

三三

二七

五三

三三

二

二六三

三元

一九



○婚姻ノ解消ノ日ヨリ三百日内ニ再婚ヲ爲ササル母カ分娩シタル子ハ嫡出子トシテ母ノ夫タリシ父ノ家ニ入ルヘキモノニシテ父ハ其子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルヲ得ルニ止マルモノトス

〔第七百三十四條〕

○父カ離縁ニ因リ子ノ懷胎後出生前母ト共ニ養家ヲ去リタル場合ニ在テハ子ハ懷胎當時ノ養家ニ入ルヘキモノニ非スシテ出生ノ時ニ於ケル父ノ家ニ入ルヘキモノトス故ニ爾後養家ノ家督相續開始スルモ子ハ法定ノ推定家督相續人トシテ相續又ハ代承相續ヲ爲スノ權ナシ

〔第七百三十六條〕

○入夫婚姻ニ因ル家督相續ハ入夫婚姻カ效力ヲ生スルト同時ニ開始シ反對ノ意思表示ナキ限ハ其開始ニ因リ當然入夫ハ戸主ト爲リ女戸主ハ戸主權ヲ喪失スルモノニシテ縱令戸籍上ノ記載ニ於テ女戸主カ依然戸主トシテ存シ入夫ハ入夫トシテ記載セラレ又他ノ事件ニ付キ入夫及ヒ女戸主ノ名稱ヲ以テ爲シタル戸籍上ノ届出アリタリトスルモ入夫ノ戸主ト爲リタル事實ニ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非ス

〔第七百三十七條〕

○戸主ノ親族タルト否トヲ論セス他家ニ在ル者ハ法令ノ明文ナキ以上ハ

戸主ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其家ニ入ルコトヲ得サルハ民法施行以前ニ於テモ法理トシテ認メラレタル所ナリ

○戸主ノ親族ニシテ甲家ヨリ乙家ニ轉籍セントスル場合ニ於テ兩家ノ戸主ノ同意ヲ缺クカ如キ違法アルトキハ其轉籍ハ後日之ニ關スル登記取消ノ手續ヲ爲シタルト否トニ拘ハラヌ兩家ノ戸主ニ對シテ無効ナリトス

○戸主ノ親族ニシテ他家ニ在ル者カ民法第七百三十七條ニ依リ其家族ト爲ルニ必要ナル戸主ノ同意ハ戸主權ノ作用ニ屬シ之ヲ與フルト否トハ一家ノ主宰者トシテ其家ヲ支持スヘキ戸主ノ責任ニ重大ノ影響ヲ及ホスヲ以テ戸主ノ自由任意ニ決定スヘク他ヨリ強制シ得ヘキモノニ非サレハ縱令契約ヲ以テスルモ戸主カ任意ニ之ヲ履行スルハ格別裁判上其履行ヲ強要スルコトヲ得サルモノトス

〔第七百四十三條〕

○分家ノ行爲ハ廢嫡ト異ナリ任意行爲ナルヲ以テ其分家者ノ意思ニ反シテ爲スコトヲ得ヘキモノニ非ス  
○如上ノ場合ニ於テ婿養子カ縁女ト離婚セシ後ト雖モ縁女ハ依然タル一家族ニ過キササルヲ以テ其戸主ノ許諾ヲ經ル以上ハ任意分家ヲ爲シ得ル

三七	三五	二	一
一三三	八五九	五七九	一

四〇	三六	二〇八	二〇八
一〇六	八二四	二〇八	二〇八







ハ其適用ナキモノトス

○戸主ニ主計ヲ樹立スルノ資産ナクシテ一定ノ職業ヲ營ミ居ル家族ノ庇護ノ下ニ立ツ場合ニハ其家ニ在ル財産ハ一應家族ノ財産ト認ムルヲ相當トス

(參照)

家族ノ特有財産ハ戸主之カ處分權ヲ有セス  
自己ニ處分權ヲ有スル財産讓與ハ其一部ト全部ナルトニ依リ效力有無ノ區別ヲ生セス又殊ニ戸主ノ承諾ヲ受ケサルモ該讓與ハ適法ナリトス

第七百四十九條

第七百四十九條

○家族ニシテ民法施行後ニ至リ戸主ノ意ニ反シテ居所ヲ定メタルトキハ戸主ハ之ヲ離籍スルコトヲ得

○戸主ハ一旦家族ニ對シ他ニ寄留スルコトヲ認許セシ後ト雖モ一家ノ整理上之ヲ歸家セシムルノ必要ヲ生シタルトキハ相當ノ期間ヲ定メテ其居所ヲ轉スヘキ催告ヲ爲シ若シ之ニ應セサルトキハ戸主ハ其家族ニ對シ扶養スルコトヲ停止シ又ハ之ヲ離籍スルコトヲ得ルモ強テ歸家セシムルコトヲ得ス

○推定家督相繼人ハ戸主ノ指定シタル居所ニ在ラサルヲ理由トシテ離籍

スルコトヲ得ヘキモノニ非ス

○民法第七百四十九條ニ規定シタル戸主權ハ一家整理ノ必要上付與シタルモノニシテ絶對無限ノモノニ非ス

(同義言)

民法第七百四十九條ニ定メタル戸主ノ權利ハ契約又ハ親族會ノ決議ヲ以テ制限スルコトヲ得サルハ勿論ナレトモ戸主カ之ヲ行フニハ相當ノ理由アルコトヲ要スルモノニシテ絶對無限ニ行使スヘキモノニ非ス

○戸主カ民法第七百四十九條ノ規定ニ違背シテ家族ヲ離籍シ之ヲ戸籍吏ニ届出テタルトキハ其家族ハ戸主ニ對シ身分登記原狀回復ノ手續ヲ爲

サシムルノ權利アリ

○戸主カ家族ヲ離籍シタル上其財産ヲ支配シ以テ不正ノ利益ヲ得ンコトヲ企テ之カ手段トシテ同居ノ催告ヲ爲シ家族カ其催告ニ應ジ戸主方ニ來ルモ辭ヲ構ヘテ放逐スル意思ヲ以テ爲ス居所指定ハ其レ自體不正ナル命令ナレハ家族ハ之ニ服從スヘキ義務ナキモノトス

○戸主カ幼者ニシテ其權利ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者アルトキハ縱令嫡母ナリト雖モ其者ニ於テ家族ニ對スル居所指定權ヲ行フヘキモノトス

三三	三四	三四	四〇	六	七
八	一〇	六	二七	二二三	六〇九
一八	八〇	四七			

三三	三三	二六	二四	六	六
三	三	一	一	二〇一三	二〇一三
五	一	二	二九		



第七百五十條

○婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者カ其同意ヲ表示スルニハ一定ノ方式ヲ要セサルモノトス

第七百五十一條

○戸主カ幼者ニシテ其權利ヲ行フコト能ハサル場合ニ於テ戸主ニ對シ親權ヲ行フ者アルトキハ縱令嫡母ナリト雖モ其者ニ於テ家族ニ對スル居所指定權ヲ行フヘキモノトス

第三節 戸主權ノ喪失

○隱居家督相續等ノ如キ身分ノ得喪ニ關スル行爲ノ無効又ハ取消請求權ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ヲ除ク外債權者ハ之ヲ有シ若クハ行フコトヲ得サルモノトス

○戸主ハ隱居ヲ爲シタル後ニ非サレハ縁組ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得スト雖モ之カ爲メ直ニ戸主カ他家ニ入ルヘキ養子縁組ヲ爲シ戸籍吏ニ於テ其届出ヲ受理シタルトキハ其縁組ヲ無効ナリト謂フヲ得ス

(參照)

○戸主中ノ債務ハ戸主ノ身分ヲ脱退スルモ此事實ノミニ依リ當然其義務ノ免脱ヲ受クヘキモノトス

三〇	五	三	七	五
三	〇	六	〇	三
一八	四	八九	六〇九	三七〇

第七百五十二條

○戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ家督相續人ニ非サル者カ相續ノ承認ヲ爲シ若クハ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキハ其隱居ハ當然無効ナリトス

第七百五十四條

○婚姻ニ關スル民法第七百五十四條第二項ノ規定ハ之ヲ縁組ノ場合ニ準用シ戸主カ隱居ヲ爲サシテ他家ニ入ルヘキ養子縁組ヲ爲シタルトキハ其縁組ノ日ニ於テ隱居ヲ爲シタルモノト看做シ之ニ因リテ戸主權ヲ喪失セルモノト解スルヲ相當トス從テ如上ノ場合ニハ同法第九百六十四條第一號ニ依リ家督相續開始スルモノトス

○家督相續人タル地位ヲ有スル者カ婚姻ニ因リ他家ニ入りタルキハ縱令隱居ノ届出ヲ爲ササルモ法律上隱居ヲ爲シタルモノト看做サルヲ以テ家督相續人タル地位ヲ失フモノトス

第七百五十六條

民法 親族 戸主及ヒ家族 戸主權ノ喪失

七	五	七	三	五
二四	五	二〇六	七	二
二四	五	二〇六	七	二



○未成年者カ隱居ヲ爲スニハ自ラ其事ノ利害得失ヲ判斷スル能力ヲ具備スレハ足ル而シテ未成年者ニ如上ノ能力アルヤ否ヤヲ判定スルハ事實承審官カ年齢其他ノ狀況ヲ考察シテ定ムヘキ事實問題ニ屬スルモノトス

第七百五十七條

○戸籍吏ニ於テ隱居ノ届出ヲ受理シタル以上ハ縱令届出手續ニ瑕疵アルモ特別ノ明文ナケレハ其届出ハ當然無効ニ歸スヘキモノニ非ス  
○戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ家督相續人ニ非サル者カ相續ノ承認ヲ爲シ若クハ隱居ノ届出ヲ爲シタルトキハ其隱居ハ當然無効ナリトス

第七百五十八條

○隱居カ民法第七百五十二條ノ條件ヲ具備セサルカ爲メニ同第七百五十八條ニ依リ隱居者ノ親族ニ於テ其取消ヲ裁判所ニ請求シ得ヘキ場合ト雖モ隱居及ヒ家督相續ノ届出カ錯誤ニ基クモノニシテ届出人タル隱居者及ヒ家督相續人ニ於テ戸籍ノ訂正ニ異議ナキトキハ其訂正ヲ申請スルコトヲ得ヘク特ニ判決ヲ受クルノ必要ナキモノトス

第七百六十條

○民法第七百六十條ノ規定ハ同法第七百五十九條ニ所謂隱居者又ハ家督相續人カ詐欺又ハ強迫ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタル後其詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタルトキニ於テ隱居ノ取消ヲ爲ス場合ニ適用スヘキモノトス

○民法第七百六十條第一項ハ取消ノ場合ニ於ケル權宜ノ規定ナレハ之ヲ類推シテ本來無効ニ基ク隱居ニ因リテ家督相續人タリシ者ノ債權者ト爲リタル者モ隱居ノ無効宣言ニ因リテ戸主タル者ニ對シ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト解スルヲ得ス

第七百六十一條

○民法第七百六十一條ノ規定ハ慣習法ニ無キ所ナルヲ以テ民法施行前ニ生シタル事項ニ適用スルヲ得ス  
○隱居後ニ於テ負擔シタル債務ト雖モ民法第七百六十一條ノ通知ヲ爲ササルトキハ其隱居ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得サルヲ以テ相續人ニ於テ之カ履行ノ責ニ任スヘキモノトス

第七百六十四條

○絶家トハ戸主ヲ失ヒ家督相續人ナキコト確定シタル家ヲ云フ而シテ前戸主ノ遺産ハ絶家ト同時ニ無主物ニ歸スルヲ以テ法律上絶家ニ財産ノ存在スルコトナシ

四二

八五

三七

二〇五

七

二〇六

六

五〇八

三三

四〇

元

一〇三

三三

四

四

三七九

三四

二



### 第三章 婚姻

#### 第一節 婚姻ノ成立

##### 第一款 婚姻ノ要件

(聯) ○婚姻ノ豫約ハ將來ニ於テ婚姻ヲ爲スヘキコトヲ目的トスル契約ニシテ有效ナリ

(反對)

婚姻ニ付テハ民法施行ノ前後ヲ問ハス婚姻ノ時特ニ當事者雙方ノ自由ナル意思ノ存スルヲ必要トセルカ故ニ將來婚姻ヲ爲スヘシトノ豫約ノ如キハ法律ノ認許セサル所トス

(聯) ○婚姻ノ豫約ハ法律上之ニ依リ履行ヲ強制スルコトヲ得サルモ當事者ノ一方カ正當ノ理由ナクシテ違約シタル場合ニ於テハ其一方ハ相手方カ豫約ヲ信シタルカ爲メニ被ムリタル有形無形ノ損害ヲ賠償スル責任スヘキモノトス

(反對)

婚姻ノ豫約ハ當事者ヲ拘束スルノ效力ナク之カ履行ヲ爲スト否トハ全然其自由ニシテ之ヲ履行セサルモ豫約ノ效果トシテ何等ノ責任スルコトナシ

(聯) ○婚姻ノ豫約不履行ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ハ違約ノ原因トシテ請

求スルコトヲ要シ不法行爲ヲ原因トシテ請求スヘキモノニ非ス

○婚姻ノ成立ニ際シ嫁贖ノ兩家ヨリ相互ニ又ハ其一方ヨリ他ノ一方ニ贈ル結納ナルモノハ他日婚姻ノ成立スヘキコトヲ豫想シテ授受スル一種ノ贈與ニシテ婚約カ後ニ至リ當事者雙方ノ合意上解除セラレタルトキハ當然其效力ヲ失ヒ給付ヲ受ケタル者ハ其目的物ヲ相手方ニ返還スヘキ義務ヲ帶有スルモノトス

(參照)

婚姻ハ結婚者本人ノ承諾ナクシテ成立スヘキモノニ非ス故ニ未成年者ト雖モ結婚シタル以上ハ承諾ヲ爲ス能力ヲ有セサルヘカラス從テ離婚ニ付テモ亦其能力ヲ有シタルモノト看做シタル裁判ハ相當ナリ

#### 第七百七十二條

○婚姻ニ付キ同意ヲ爲ス權利ヲ有スル者カ其同意ヲ表示スルニハ一定ノ方式ヲ要セサルモノトス

#### 第七百七十五條

○民法實施前ニ於テハ縱令戶籍簿上婚姻ノ事實ヲ登記セサルモ當事者間ニ其事實アル以上ハ裁判上之ヲ夫妻ト認メタルモノトス

四  
四九

六  
二九二

三  
二九一

五  
三七〇

三  
二〇二







(參照) 婦ハ其夫ト共棲スヘシ義務アルモノナレハ其夫家ヲ立出タルハ自己ノ任意ニ非スト主張スル婦ハ之カ立證ヲ爲スノ責任アリ

(第七百九十一條)

第七百九十一條

○民法第七百九十一條ハ未成年ノ女カ婚姻スルトキハ親權者ノ存スルト否ト後見ノ開始スルト否トヲ問ハス婚姻ノ效力トシテ成年ノ夫カ直ニ其後見人ノ職務ヲ行ヒ民法第九百二十一條ニ定メタル權利義務ヲ有スヘキ旨ヲ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス

(第七百九十二條)

第七百九十二條

○民法第七百九十二條ニ於ケル夫婦間ノ契約取消ノ效果ハ其契約ヲシテ初メヨリ無効ナリシモノト看做サシムルニ在リ從テ夫カ賣買名義ヲ以テ妻ニ對シ或不動産ノ權利移轉ノ手續ヲ爲シタル後其契約ヲ取消シタルトキハ妻ハ最初ヨリ該不動産ニ付キ何等ノ權利ヲ有セザリシモノト看做サルルカ故ニ其取消後同人ヨリ之カ贈與ヲ受ケタル者ハ民法第七百七十七條ノ所謂第三者ニ該當セス

○民法第七百九十二條但書ノ規定ハ契約後取消前ニ於テ契約ニ因リ夫婦間ニ移轉セラレタル權利ノ上ニ正當ニ權利ヲ取得シタル者カ取消ノ影

響ヲ受ケ不慮ノ損失ヲ被ムルニ至ル結果ヲ防止スル爲メニ之ヲ保護セントスルノ旨趣ニ出テタルモノトス

第三節 夫婦財產制 第一款 總則

(參照)

法律上公然妻タル身分ニ在ラサルモ當事者相互ノ間ニ於テハ實際夫妻ノ關係ヲ生シタリト認め又異論ナキ點ヨリ其財產ヲ共通財產ナリト認ムルハ要スルニ事實ノ判斷ニ止マリ致テ一般ノ習慣ヲ無視シ又ハ不現行ノ法律ヲ適用シタル違法ノ裁判ニ非ス

第二款 法定財產制

(第七百九十九條)

第七百九十九條

○妻ノ財產ニ對スル夫ノ收益權ハ夫婦關係ノ繼續中ニ限り存立スルモノナレトモ婚姻中既ニ發生シタル法定果實ニ付テハ其解消後ト雖モ夫タリシ者之ヲ收得スヘキ權利ヲ有スルハ當然ナリ

(第八百一條)

第八百一條

○民法第八百一條ハ妻ノ財產ニ對スル夫ノ管理權ヲ認メ同第八百二條ハ夫カ妻ノ爲メニ又ハ妻ノ財產ニ付キ同條列記ノ法律行為ヲ爲スニハ妻ノ承諾ヲ必要トスル規定ニシテ妻ノ爲シタル法律行為ニ付キ夫カ獨立

三

二七六

二六

一三三

四〇

六四

二九

三八

三六

二〇九

三

二七六







○ムルカ如キハ婦人ヲ辱ムルノ甚シキモノニシテ其當事者ノ身分職業ノ高下ヲ論セス妻ニ對シ重大ナル侮辱行為ヲ構成スルモノトス

三

一〇三六

○夫カ他人ノ面前ニ於テ妻ニ對シ竊盜ノ行為アリタリト言フカ如キハ其事實ノ有無ヲ問ハス妻ニ汚名ヲ被ラシメタルモノニシテ民法第八百

四〇

一〇七九

十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノトス

四〇

一〇七九

○妻カ他ノ男子ト情ヲ通セルモノト確信スルニ足ルヘキ事情アル場合ニ於テ夫ヨリ妻ノ實父母ニ對シ其確信シタル事實ヲ書面ニテ通報シ胸中

四一

一八四

ノ煩悶ヲ訴フルカ如キハ縱令激昂ノ餘其書面ニ多少過激ノ文詞ヲ使用スルモ民法第八百十三條第五號ノ所謂重大ナル侮辱ニ該當セス

四二

一八四

○夫カ相當ノ理由ニ依リ其妻ニ犯罪行為アルコトヲ確信シタル場合ニ於テ之ヲ告訴スル如キハ必スシモ不當ノ行為ニ非サレハ單ニ檢事カ該事

四三

九六三

件ニ付キ不起訴ノ處分ヲ爲シ又ハ告訴ノ事實カ眞實ニ吻合セサル事由ノミニ依リ直ニ其行為ヲ以テ民法第八百十三條第五號ノ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノト爲スヲ得ス

四三

九六三

○夫カ其妻ヲ顧ミス他ノ女ト内縁ノ契ヲ結ヒ之ト同棲スルノ行為ハ民法第八百十三條第五號ニ所謂重大ナル侮辱ニ該當スルモノニシテ其夫ノ家出カ相當ナル理由ニ出テタリヤ又他ノ女トノ同棲カ生活ノ必要上已

四三

九六三

ムヲ得サルモノナリヤ否ニ依リ軒輊ナキモノトス

四三

九六三

○民法第八百十三條ニ所謂惡意ノ遺棄ハ扶養義務ノ如何ニ關セス夫婦ノ一方カ惡意ヲ以テ他ノ一方ヲ遺棄スルヲ謂フ

四三

一六

○婦カ夫及ヒ其子女ヲ見捨テ姦夫ト逃走セシコトヲ信スヘキ相當ノ事情アル場合ニ於テ其婦ヲ歸宅セシメント試ミタル仲裁人ニ對シ夫ノ父カ

四三

一六

不同意ヲ表スル主旨ヲ以テ激語ヲ使用スルモ機密的應對上ノ言語ニ外ナラサレハ之ヲ目シテ民法第八百十三條第七號ニ所謂重大ナル侮辱ヲ

四三

一六

加ヘタルモノト爲スヲ得ス

四三

一六

○民法第八百十三條第八號ニ所謂重大ナル侮辱トハ配偶者ノ一方カ他ノ一方ノ直系尊屬ニ對シテ爲シタル行為自體ノ狀態ニ付キ判斷スヘキモノ

四三

一六

ニシテ行為ノ場所ニ第三者ノ存在スルト否トハ毫モ相關スルコトナ

四三

一六

シ

四三

一六

○侮辱行為ハ其行為者カ苟モ云爲スル意思アリテ云爲スルトキハ之ヲ構成スルニ足ルモノニシテ侮辱ヲ加フル意思アリシヤ否ヤハ必スシモ之ヲ審究スルノ要ナシ

四三

一六

(參照)

婚姻ハ婦カ婚家ノ家族ト爲ルノ原因ナルヲ以テ夫ノ死亡ニ依リ此原因消滅スルトキハ寡婦ハ



特別ノ事由アル場合ノ外離縁ヲ求ムルコトヲ得

(第八百十六條)

『第八百十六條』

○虐待又ハ侮辱ヲ請求ノ原因トスル離婚ノ訴ニ於テ請求者カ其事實ヲ知リタル時ヨリ一年内ニ訴ヲ提起シタル事實ヲ確定セスシテ其請求ヲ容レタル判決ハ理由ヲ付セサル不法ノ裁判ナリ

第四章 親子

第一節 實子

○實親子ノ關係ハ自然ノ血縁ニ因ルモノナルカ故ニ其血縁アル者ノ間ニ親子ノ關係存スルハ勿論ニシテ血縁アルコトノ知レサルカ如キ又ハ届出ヲ爲サス若クハ不實ノ届出ヲ爲シタルカ如キ場合ニハ唯其關係ヲ認メ得サルニ過キス

第一款 嫡出子

○嫡出子ニ非サル者カ偶ハ戶籍簿ニ嫡出子トシテ登録セラルルモ之カ爲メニ該身分ヲ取得スヘキ理ナケレハ其登録ノ未タ取消サレサル場合ト雖モ戶籍簿以外ノ證據ニ依リ嫡出子ニ非サルコトヲ認定スル妨ト爲ラス

二五	五	四九
三四	九	九七
三六		五九
四三		九〇

○民法施行前ニ在テハ婚姻ハ戶籍ニ登記スルコトヲ有效條件ト爲ササリシヲ以テ苟モ婚姻ノ成立シタル以上ハ夫婦間ニ擧ケタル子ハ嫡出子ヲ以テ論セサルヘカラス

四五 一七二

○婚姻ノ解消ノ日ヨリ三百日内ニ再婚ヲ爲ササル母カ分娩シタル子ハ嫡出子トシテ母ノ夫タリシ父ノ家ニ入ルヘキモノニシテ父ハ其子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルヲ得ルニ止マルモノトス

五 八四

○夫若クハ其死亡ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘキ者カ否認訴權ヲ行使シ嫡出ニ非サル裁判ノ確定スル以前ニ在リテハ其子ハ私生子ニ非サルヲ以テ母ハ其法定代理人トシテ他人ニ對シ私生子認知ノ訴ヲ提起シ得ヘキ資格ヲ有セサルモノトス

五 八四

○嫡出子ハ其身分ニ關スル利益ヲ保護スルカ爲メ出生ノ届出ヲ爲スヘキ義務ヲ負フ者ニ對シ其出生届出ノ手續ヲ爲スヘキ旨ノ請求權ヲ有スルヲ以テ右義務者カ其届出ヲ爲ササル間ハ何時ニテモ訴ヲ以テ斯ル請求權ヲ主張スルコトヲ得ルモノトス

六 一八一

○民法施行前ニ於テ嫡出子出生ノ届出ヲ爲ス義務ヲ負フ者カ其届出ヲ爲ササル間ニ右嫡出子カ他ニ養子ト爲リテ家ヲ去リタルトキハ斯ル届出ヲ爲スノ義務消滅スル旨ノ法則存セサリシモノトス

六 一八一



○嫡出子ハ其身分ニ關スル利益ヲ保護スルカ爲メ養子トシテ他家ニ入りタルト否トニ拘ハラヌ出生届出ノ義務者ニ對シ其届出ヲ爲スヘキ旨ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

〔第八百二十三條〕

○民法施行前ト雖モ嫡出子否認ノ訴ヲ禁シタル法律及ヒ慣例ナシ

第二款 庶子及ヒ私生子

〔第八百二十七條〕

○私生子ハ其父トノ間ニ當然法律上ノ親子關係アリテ父ノ庶子タルヘキモノニ非ス

○私生子ノ父カ私生子ヲ庶子ト爲スニハ民法施行後ニ在テハ認知ノ手續ヲ爲スヲ要スルハ勿論民法施行前ニ在リテハ明治六年太政官布告第二十一號ニ依リ戸長ノ免許ヲ受ケ庶子トシテ入籍セシムルコトヲ要シタルモノトス

〔第八百三十五條〕

○認知ヲ求ムルノ權ハ子其直系卑屬又ハ其法定代理人ニ限り行使スルヲ得ルモノトス

○民法第八百三十五條ハ法定代理人カ自己ノ資格又ハ自己ノ權利ニ因リ

テ認知ヲ求ムルニ非スシテ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ求ムルノ意義ニ解釋セサルヘカラス

○民法第八百三十五條ハ認知ノ請求ニ付キ法定代理人カ無能力者ヲ代理スルコトヲ特ニ規定シタルモノナリ

○子ノ父又ハ母カ子ヲ代表シテ父又ハ母ニ對シ認知ヲ求ムルコトヲ得ルハ親權ノ效力ナレハ私生子ノ母タル未成年者ノ親權者又ハ之ナキ場合ニ於ケル後見人ハ其未成年者ニ代リテ認知ノ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス

(同主旨)

民法第八百三十五條ノ場合ニ於テハ法定代理人ハ無能力者タル子又ハ其直系卑屬ヲ代表シテ認知ヲ請求スルモノニシテ父又ハ母カ子ヲ代表スルハ親權ノ效力ニ外ナラス故ニ私生子ノ母タル未成年者ノ親權者カ其未成年者ニ代リテ親權ヲ行ヒ私生子認知請求ノ訴ヲ提起スルハ不法ニ非ス

○夫若クハ其死亡ノ場合ニ於テ之ニ代ルヘキ者カ否認訴權ヲ行使シ嫡出ニ非サル裁判ノ確定スル以前ニ在リテハ其子ハ私生子ニ非サルヲ以テ母ハ其法定代理人トシテ他人ニ對シ私生子認知ノ訴ヲ提起シ得ヘキ資格ヲ有セサルモノトス

(參照)

三六	四	三五	三四	三三	三二
四九	一四七七	一	二	三	四
八四		五四	五八		

三	七	七	三	六	六
一			三	三	二
七		七四七		一八一	



私生子カ其父トスル者ニ對シテ認知ヲ求ムルコトヲ得サルハ明治六年布告第二十一號ニ依リ明カナレトモ嫡出子トシテ其引取及ヒ戸籍編入ノ請求ヲ其母親族ヨリ爲シ來リタルコトハ裁判上ノ慣例ナリ

〔第八百三十三條〕

〔第八百三十六條〕

○民法施行前ニ在リテモ私生子ハ其父母ノ婚姻ニ因リテ嫡出子タル身分ヲ取得スルニハ父ノ認知ニ依リテ庶子ト爲リタルコトヲ前提トスルモノトス

第二節 養子

第一款 縁組ノ要件

○約款附養子縁組ヲ爲シタル場合ニ於テモ其約款ノ内容カ縁組ノ法律上ノ組成要素タル意思表示ト相容レサルモノニ非サル限ハ約款ヲ附シタルノ故ヲ以テ縁組ヲ爲シタルモノニ非スト爲スヲ得ス

○明治四年第七十號太政官布告戸籍法制定以前ニ在リテ弟ヲ以テ兄ノ養子ト爲シ又非戸主ト雖モ嗣子タル地位ニ在ル者壯年ニ及フモ仍ホ男子ナキトキハ該家繼承ノ爲メ男子ヲ養子ト爲スコトハ其當時ノ法制ニ於テ認許セラレタル所ナリトス

(參照)

養子ハ一旦其實家へ復籍シタル上ニ非サレハ更ニ他家ノ養子ト爲ルヲ得ス

養子カ實家へ復籍セスシテ直ニ他家ノ養子ト爲ル契約ヲ爲スモ其契約ハ養子縁組ノ效力ヲ生セス

〔第八百三十九條〕

○民法施行以前ニ在リテハ法定家督相續人タル男子アル場合ト雖モ單純ノ養子ヲ爲スコトハ當時ノ法令若クハ慣習ニ違背スル所ナシ

○民法第八百三十九條ハ法定ノ推定家督相續人タル男子アル者カ女婿ト爲ス爲メニスル場合ノ外男子ヲ養子ト爲シ得サル旨ヲ規定シタルニ止マリ戸主ニ非サレハ婿養子縁組ヲ爲スコトヲ得サルモノニ非サルヲ以テ家族ト雖モ其子女ノ爲メニ婿養子縁組ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

〔第八百四十三條〕

○民法施行以前ニ在リテハ幼者カ他家ノ養子ト爲ルニハ家ニ在ル父母、父母共ニ死亡シ又ハ所在不明等ノ場合ニハ親族協議ノ上幼者ニ代リ縁組ノ意思表示ヲ爲シ得タル慣例ノ行ハレタリシモノトス

○叙上ノ場合ニ於テ幼者ニ代リテ意思表示ヲ爲ス親族ハ必スシモ幼者ノ直接扶養義務者ニ限定セサルハ勿論協議ニ與ルヘキ親族ハ其全部若クハ幼者ト最近親ノ關係ニ在ル者ノミナルコトヲ要セサリシモノトス

〔第八百四十七條〕

民法 親族 親子 養子 縁組ノ要件

三

六

七

六

一七〇

四

五七

二

三二

二

四

二

四

三

二

三

五

四二

四

九五

四

九五



○民法施行以前ニ於ケル縁組ハ實際養親子ノ事實存スル以上ハ戸籍ニ登記ナキモ有効ナリシモノトス

(同主旨)

民法施行前ニ在テハ實際養父子タル事實ノ存スル以上ハ其事實ニ據リ判斷テ下スヘキハ我國裁判上ノ慣例ナリ

○無効ナル養子縁組ハ戸籍簿ニ登録セララルモ之ニ因リ何等ノ效力ヲモ生セサルモノトス

(参照)

婚姻又ハ養女ノ縁組等ハ戸籍ニ登記ナキモ裁判官ハ事實上其成立ヲ認定スルコトヲ得

第二款 縁組ノ無効及ヒ取消

○養子縁組モ亦一ノ法律行為ナルヲ以テ其取消權ハ民法第二百二十六條ニ規定シタル時効ニ因リテ消滅スヘキモノトス

○配偶者アル者ノ爲シタル養子縁組ニ因リテ生シタル當事者間ノ親子關係ハ配偶者ノ一方ノミニ付テ消長セシムルコトヲ得サルカ故ニ養子縁組無効ノ訴モ亦配偶者ノ一方ノミニ意思ヲ以テ提起スルコトヲ得サルモノトス

○推定家督相續人タル資格ノ得喪ハ法律ノ定ムル所ニシテ契約ヲ以テ之ヲ變更スルヲ許ササレハ其變更ヲ内容トシタル約款ハ無効タルヲ免レ

スト雖モ之カ爲メニ養子縁組其モノヲ無効ト爲スヲ得ス

○戸主ハ隱居ヲ爲シタル後ニ非サレハ縁組ニ因リ他家ニ入ルコトヲ得スト雖モ之カ爲メ直ニ戸主カ他家ニ入ルヘキ養子縁組ヲ爲シ戸籍吏ニ於テ其届出ヲ受理シタルトキハ其縁組ヲ無効ナリト謂フヲ得ス

(第八百五十一條)

『第八百五十一條』

○養子縁組ノ無効ハ第三者ト雖モ之ヲ主張シ得ルモノトス

○民法第八百五十一條ニハ縁組ハ左ノ場合ニ限り無効トストアルヲ以テ縁組ノ無効ナルハ同條各號ニ列舉シタル場合ニ限り其他ノ場合ニ在テハ縁組ハ常ニ其效力ヲ生スルモノト解スヘキモノトス

○民法第八百五十一條ハ當事者ニ縁組ノ意思ナキ理由ヲ一定セス唯人違其他ノ事由ニ因リト規定セルヲ以テ届出ニ表示シタル當事者ニ對シ人違ナルカ故ニ其意思ナシトスル場合ハ勿論單ニ其者ニ對シテ縁組ノ意思ナキ場合ヲモ包含スヘキハ當然ナリ

(刑) ○兵役義務ヲ免ルルノ目的ヲ以テ合意上表面假裝ノ縁組ヲ爲シタル場合ニハ縱令其登録アルモ當事者間ニ縁組ヲ爲スノ意思ナキヲ以テ其縁組

四	三	四	二元	三	四
九五九	九	六	六	九	九五九
一〇三	二	八三	一六五	二	二六
五九七	四九	四九	一六五	四九	一六五



ハ無効ナリトス

○當事者ノ不知ノ間ニ外形上養子縁組成立シタルトキハ民法第八百五十一條ニ依リ其無効ヲ請求シ得ルモノトス

○民法第八百五十一條第一號ノ規定ハ人違ニ因リ當事者間ニ縁組ヲ爲ス意思ナキ場合又ハ精神ノ喪失若クハ強迫ニ因リ意思能力ヲ失ヒタル場合ハ勿論其他當事者ニ於テ特ニ縁組ノ要素ト爲シタルモノヲ欠缺シタルニ因リ縁組ヲ爲ス意思ナキ場合モ亦其縁組ヲ無効タラシムルノ法意ナリトス

○當事者間ニ養子縁組ヲ爲ス意思ナキ場合ニ於テハ其縁組カ虚偽ノ意思表示ナルトキト雖モ民法第八百五十一條ニ從ヒテ之ヲ無効ト爲スヘク同第九十四條ニ依リ其無効ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノト爲スヲ得ス

○民法第八百五十一條ハ單ニ縁組當事者ニ於テ意思能力ヲ有シ其縁組ノ届出ヲ爲シタルニ拘ハラズ人違其他ノ事由ニ依リ其效果ヲ缺如スル場合ノミナラス縁組當事者カ全然意思能力ヲ有セサルニ拘ハラズ縁組ノ届出ヲ爲シタルトキハ勿論其他尙ホ當事者間ニ縁組契約成立シタルモノトシテ第三者ヨリ戸籍吏ニ届出ヲ爲シタル場合ニ於テモ適用アルモノトス

ノトス

(第八百五十九條)

『第八百五十九條』

○民法第八百五十九條及ヒ第七百八十五條ハ當事者カ縁組ヲ爲ス要素ニ錯誤アル場合ニ非スシテ唯縁組ヲ爲スニ付キ詐欺又ハ強迫ニ因リ意思表示ヲ爲シ之カ爲メニ其要素以外ノ事項ニ錯誤ヲ來シタル場合ヲ規定セルモノトス

第三款 縁組ノ效力

(參照)

養子自身ノ財産ト養家ニ屬スル財産トチ區分スルハ法律及ヒ慣習ノ禁セサル所ナリ  
養父カ養子ノ所有地ヲ他ヘ賣渡スモ實父ニ於テ幼者(實子即チ他家ヘノ養子)利益保護ノ爲メ其不當ヲ鳴ラシ之カ取消ヲ求ムル權利ナキモノトス

(第八百六十條)

『第八百六十條』

法定ノ推定家督相續人タル長女ノ婿養子ト爲リタル者カ養嗣子ノ身分ヲ取得スルハ本邦習慣ノ認ムル所ナリ

(第八百六十一條)

『第八百六十一條』

民法第七百三十三條及ヒ第八百六十一條ニ所謂家ニ入ルトハ身分ノ家ニ入ルヲ指シタルモノニシテ體軀ノ家屋ニ入ルモノ即チ親子ノ同棲ヲ

民法 親族 親子 養子 縁組ノ效力

六	二六	二六	二六
二七	二七	二七	二七
二八	二八	二八	二八
二九	二九	二九	二九
三〇	三〇	三〇	三〇
三一	三一	三一	三一
三二	三二	三二	三二
三三	三三	三三	三三
三四	三四	三四	三四
三五	三五	三五	三五
三六	三六	三六	三六
三七	三七	三七	三七
三八	三八	三八	三八
三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一	四一
四二	四二	四二	四二
四三	四三	四三	四三
四四	四四	四四	四四
四五	四五	四五	四五
四六	四六	四六	四六
四七	四七	四七	四七
四八	四八	四八	四八
四九	四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇	五〇
五一	五一	五一	五一
五二	五二	五二	五二
五三	五三	五三	五三
五四	五四	五四	五四
五五	五五	五五	五五
五六	五六	五六	五六
五七	五七	五七	五七
五八	五八	五八	五八
五九	五九	五九	五九
六〇	六〇	六〇	六〇
六一	六一	六一	六一
六二	六二	六二	六二
六三	六三	六三	六三
六四	六四	六四	六四
六五	六五	六五	六五
六六	六六	六六	六六
六七	六七	六七	六七
六八	六八	六八	六八
六九	六九	六九	六九
七〇	七〇	七〇	七〇
七一	七一	七一	七一
七二	七二	七二	七二
七三	七三	七三	七三
七四	七四	七四	七四
七五	七五	七五	七五
七六	七六	七六	七六
七七	七七	七七	七七
七八	七八	七八	七八
七九	七九	七九	七九
八〇	八〇	八〇	八〇
八一	八一	八一	八一
八二	八二	八二	八二
八三	八三	八三	八三
八四	八四	八四	八四
八五	八五	八五	八五
八六	八六	八六	八六
八七	八七	八七	八七
八八	八八	八八	八八
八九	八九	八九	八九
九〇	九〇	九〇	九〇
九一	九一	九一	九一
九二	九二	九二	九二
九三	九三	九三	九三
九四	九四	九四	九四
九五	九五	九五	九五
九六	九六	九六	九六
九七	九七	九七	九七
九八	九八	九八	九八
九九	九九	九九	九九
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇

三九	三九	三九	三九
四〇	四〇	四〇	四〇
四一	四一	四一	四一
四二	四二	四二	四二
四三	四三	四三	四三
四四	四四	四四	四四
四五	四五	四五	四五
四六	四六	四六	四六
四七	四七	四七	四七
四八	四八	四八	四八
四九	四九	四九	四九
五〇	五〇	五〇	五〇
五一	五一	五一	五一
五二	五二	五二	五二
五三	五三	五三	五三
五四	五四	五四	五四
五五	五五	五五	五五
五六	五六	五六	五六
五七	五七	五七	五七
五八	五八	五八	五八
五九	五九	五九	五九
六〇	六〇	六〇	六〇
六一	六一	六一	六一
六二	六二	六二	六二
六三	六三	六三	六三
六四	六四	六四	六四
六五	六五	六五	六五
六六	六六	六六	六六
六七	六七	六七	六七
六八	六八	六八	六八
六九	六九	六九	六九
七〇	七〇	七〇	七〇
七一	七一	七一	七一
七二	七二	七二	七二
七三	七三	七三	七三
七四	七四	七四	七四
七五	七五	七五	七五
七六	七六	七六	七六
七七	七七	七七	七七
七八	七八	七八	七八
七九	七九	七九	七九
八〇	八〇	八〇	八〇
八一	八一	八一	八一
八二	八二	八二	八二
八三	八三	八三	八三
八四	八四	八四	八四
八五	八五	八五	八五
八六	八六	八六	八六
八七	八七	八七	八七
八八	八八	八八	八八
八九	八九	八九	八九
九〇	九〇	九〇	九〇
九一	九一	九一	九一
九二	九二	九二	九二
九三	九三	九三	九三
九四	九四	九四	九四
九五	九五	九五	九五
九六	九六	九六	九六
九七	九七	九七	九七
九八	九八	九八	九八
九九	九九	九九	九九
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇



云フニ非ス

第四款 離縁

○推定家督相續人タル養子ノ離縁ヲ爲スニハ豫メ相續人廢除ノ請求ヲ爲スコトヲ要セス

(第八百六十五條)

『第八百六十五條』

○協議上ノ離縁カ縁組當事者ノ意思表示ヲ欠キ又ハ當事者ノ一方ノ意思表示カ相手方ノ詐欺又ハ強迫ニ因リタルトキハ縱令戶籍吏ニ於テ其届出ヲ受理スルモ該離縁ハ民法總則ニ依リ無効ニ屬シ又ハ取消シ得ヘキモノトス

○民法第八百六十三條第一項ニ違反スル離縁ト雖モ戶籍吏カ其届出ヲ受理シタル以上ハ該届出ノ違法ナル理由ヲ以テ之ヲ取消スコトヲ得サルハ勿論同意ヲ得ヘキ者ノ同意ヲ欠キタル理由ヲ以テモ亦之ヲ取消シ得サルモノトス

(第八百六十六條)

『第八百六十六條』

○養親子ノ間ニ在テハ正當ノ原因存スレハ相互ニ離縁ヲ請求シ得ヘキモ第三者ヨリ其請求ヲ爲スヲ得サルモノトス

○民法第八百六十六條ハ主トシテ離縁ノ事由ヲ定メタル規定ナルモ養親

タル夫婦ハ離縁ノ訴訟ニ付テハ各直接利害關係者ニシテ之ニ對スル判決ハ合一ニノミ確定スヘキ場合ナルヲ以テ養親タル夫婦俱ニ存スルトキハ共ニ訴訟當事者ト爲ルヘキコトヲモ併セテ規定シタルモノト解釋セサルヘカラス

○養父母ヨリ推定家督相續人タル養子ニ對シ離縁ノ訴訟ヲ提起シタル場合ニ於テ養父カ其訴訟ノ控訴審繫屬中ニ死亡シタルトキハ爾後該訴權ヲ行使スル者ナキニ至ルヲ以テ養父子間ノ訴訟ノ權利拘束ハ當然終了シ離縁ノ裁判ヲ得ルコト全然不可能ニ歸シタルモノナレハ養子ニ對シ其身分ニ伴フ相續其他ノ行爲ヲ禁止スル假處分ヲ爲スノ必要ナキモノトス

○養親カ養子タル婦女ヲ強制シテ再三藝妓ノ賤業ヲ營マシメントシ又ハ金錢ノ爲メニ其節操ヲ破ルヘキ行爲ヲ敢テセシメントスルカ如キハ婦女ヲ侮辱スルノ甚シキモノニシテ民法第八百六十六條第一號ニ該當スヘキ行爲ナリトス

○醫師ノ家庭ニ生長シタル婦人ニシテ其養親ニ對シ畜生又ハ馬鹿爺ト云フカ如キハ實ニ侮辱ノ重大ナルモノニシテ民法第八百六十六條第一號ニ該當スルモノトス

三三 二 三三

三四 四 六二

三六 二 一四八二

三六 二 一四八二

三六 二 一四八二

三二 一〇 四九

三五 二 二四

三一 二 二四

三三 二 二四

三六 二 二四

四一 二 四八九



○離縁請求事件ニ於テ養子カ養親ニ對シ畜生又ハ馬鹿爺ト云ヒタル事實ヲ認メ此所爲ハ民法第八百六十六條第一號ノ所謂重大ナル侮辱ニ該當スル旨ヲ說示シタルトキハ第三者カ其侮辱被侮辱ノ關係ヲ認識シタルヤ否ヤヲ判斷スルノ要ナシ

○子ニシテ父母ノ命ニ從ハス其言自己ノ意ニ適セサレハ之ヲ罵ルニ馬鹿ヲ以テスルカ如キハ宥恕スヘキ事情存セサル限リ父母ニ對シテ重大ナル侮辱行為ヲ構成スルモノトス

○醫師ノ家庭ニ在ル養子ニシテ情夫ト私通シ之ヲ自宅ニ宿臥セシムルカ如キハ養親ノ家名ヲ瀆スヘキ重大ナル過失アルモノニシテ民法第八百六十六條第五號ニ該當スルモノトス

○養子カ養父ニ對シテ不當ノ要求ヲ爲シ之ヲ法廷ニ争ヒ一審ニ於テ敗訴シタルニ拘ハラス尙ホ無益ノ上訴ヲ敢テスルカ如キハ縱令他人ノ爲メニシタル場合ト雖モ人道ニ反スルノ甚タシキモノニシテ家名ヲ汚瀆セラル行為ナリトス

○民法第八百六十六條第六號ニ所謂養子カ逃亡シテ三年以上復歸セサルトキトハ養子カ養家ヲ逃亡シテ所在ヲ韜晦シタルトキハ勿論縱令其所  
在ハ爾後分明ト爲ルモ復歸ノ意思ナクシテ三年以上ヲ經過シタルトキ

(參照)

○養子ノ品行ニ付キ非議スヘキ廉アリ又ハ孝道ニ付キ多少缺クル所アル事實ヲ以テ直ニ離縁ノ原因ト爲スコトヲ得ス  
○徵兵ヲ忌避セシメンカ爲メ養子ヲ爲シタル者ヲ罰スル法律ナキニ依リ其事實ヲ主張シ以テ離縁ノ訴ヲ爲スモ犯罪行為ヲ原因トシ法律上ノ救濟ヲ求ムルモソト云フヲ得ス  
○養親子ノ關係ハ縁組ノ當事者即チ養親ト養子トノ間ノ關係ナルヲ以テ其當事者間ニ在リテハ相互ニ離縁ノ請求ヲ爲シ得ヘキモ第三者ヨリ縁組ノ當事者ニ對シ其間ノ養親子ノ離縁ヲ請求スルヲ得サルヲ以テ通則トス

『第八百七十五條』

○家督相續權ハ相續開始ノ時ヲ以テ始メテ確定スヘキモノナレハ其未タ開始セサルヤ推定家督相續人タル身分ハ一種ノ權利タルコト勿論ナリト雖モ確定不動ノ權利ニ非サルヲ以テ民法第八百七十五條ニ所謂既ニ取得シタル權利ニ非ス

○養子カ離縁復籍シタル場合ニ第三者ノ既ニ取得シタル權利ヲ害セサル限ハ其實家ニ於テ有シタル身分ヲ回復スヘキ法理ハ民法施行前ニ在リテモ亦之ヲ是認セサルヲ得ス

○推定家督相續人カ家督相續ノ開始前廢嫡セラレタル場合ト雖モ其子カ

四〇	三〇	三〇	三〇	三〇
九八七	四	五	五	五
二八	二二	五〇	四九	二八



養子縁組ニ因リ他家ニ在ルトキハ民法第九百七十四條ニ依リテ家督相續人ト爲ルコトヲ得ス故ニ爾後離縁復籍シタリトテ代位相續人タル身分ヲ回復スルノ理ナシ

### 第五章 親權

#### 第一節 總則

(第八百七十七條)

#### 『第八百七十七條』

○子カ獨立ノ生計ヲ立ツル事實ナキ以上ハ縱合成年ニ達シタル後ト雖モ依然其家ニ在ル父又ハ母ノ親權ニ服スヘキモノナルヲ以テ其親權喪失ヲ目的トスル訴訟ハ法律上利益アルモノトス

○養子ハ實父母ノ親權ニ服セス養親ノ親權ニ服スルモノニシテ即チ第一ニ養父ハ親權ヲ行ヒ養父カ知レヌ又ハ死亡シ又ハ家ヲ去リ若クハ親權ヲ行フ能ハサルトキハ第二ニ養母之ヲ行フヘク其以前養父カ後妻ヲ娶リタルトキハ後妻即チ繼母ハ親權ヲ行フヘキモノトス

○母アリテ父ナキ幼者ハ其母ノ親權ニ服シテ他人ノ後見ニ服セサルヲ以テ原則トス但其母カ他人ヲ後見人ニ選定スルコトヲ承諾シ又其意思ヲ表示スルコト能ハサルモ後見人ヲ選定スルノ必要アル場合ハ格別トス

三	七	四〇	四三
八			
	二四九	六〇〇	六二四
二四			

○民法第八百七十七條第二項ノ場合ニ於テハ父ノ妻ニ非サル母ト雖モ子ト家ヲ同フスルトキハ其子ニ對シテ親權ヲ行フコトヲ得

○民法第八百七十七條ニ所謂親權ヲ行フコト能ハサルトキトハ父カ疾病其他ノ理由ニ因リ事實上親權ヲ行使スルコト能ハサル場合ハ勿論其精神上若クハ身體上ノ障礙ニ因リ親權者タル能力ヲ缺ク場合ヲモ包含ス從テ禁治產者又ハ準禁治產者ノ如キハ親權ヲ行フコト能ハサルモノト解スヘキモノトス

○養家ノ繼母ハ子ノ實父アルトキト雖モ親權者ト爲ルモノニシテ繼母カ親權者ナル以上ハ實父カ其家ニ入りタルノ一事ニ因リ當然親權ヲ喪失スルモノニ非ス

(參照)

後見人ナキ幼者ニ戸主タル祖父ト家族タル父アリテ共ニ同居スル場合ニハ其父ヲ以テ幼者保護ノ自然代理人ト爲スヘキモノニシテ戸主ヲ以テ該代理人ト爲スノ慣例ナキモノトス  
母ハ自ラ其子ノ後見人ト爲リ又ハ他人ヲ其後見人ニ選定スルノ權利ヲ有ス  
母ハ他人ヲ後見人ニ選定シタル後ト雖モ後見人ノ權利ニ相觸レサル範圍ニ於テ仍ホ親權ヲ行フコトヲ得

(第八百七十八條)

#### 『第八百七十八條』

○凡ソ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ要スヘキ親權者ハ第一審ニ起訴

三	二六	七	四	三六
三	三	二		
	四八	九〇	七二七	五三九
四八				



スル場合ニ其同意ヲ得ルヲ以テ足り各審級ニ付キ各別ニ同意ヲ得ルヲ要セサルモノトス

○民法第八百七十八條第九百二十九條ノ規定ハ繼父ノ代理權行使ニ付キ制限ヲ加ヘタルニ過キサレハ繼父カ親族會ノ同意ヲ得スシテ未成年ノ子ニ代リ營業若クハ借財ヲ爲スモ之ヲ以テ權限外ノ行爲ト云フヲ得ス  
○實母カ實子ニ代リテ訴訟行爲ヲ爲ス場合ニ於テハ民法第八百七十八條ノ場合ト異ナリ親族會ノ同意ヲ要セサルモノトス

第二節 親權ノ效力

○親權ヲ有スル實母カ自ラ其幼兒ノ後見ヲ爲サスシテ他人ヲ其後見人ニ選定スルモ之ヲ以テ其實母ハ全ク親權ヲ拋棄シタルモノト云フヲ得ス  
○未成年者ノ爲メニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ其相續カ相續人ノ爲メニ不利益ナルトキト雖モ親權者ハ限定承認ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ法則ナシ從テ親權者カ未成年者ノ爲メ何心ナク相續ノ届出ヲ爲シタリトテ之ヲ以テ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

〔第八百七十九條〕

○親權ヲ行フ者ハ民法第八百七十九條ニ規定セラレタル權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナレハ自己ノ權利ニ因リ子ノ身體自由ヲ保護スル目的ヲ以

テ訴訟ヲ提起シ得ルコト當然ナリ

○親權ノ效力タル子ノ監護教育權ハ親權者ニ專屬スル對世的ノ權利ニシテ親權者ハ其目的タル未成年ノ子ニ對シ之ヲ行フコトヲ得ルト同時ニ何人ト雖モ之カ行使ヲ妨害スルコトヲ得サルモノトス  
○親權者ノ手ヨリ其子ヲ奪ヒ去リ其監護教育權ヲ侵害シタル者アル場合ニ於テハ親權者ハ之ニ對シ其子ノ引渡ヲ求メ以テ親權ノ行使ヲ全フスルコトヲ得サルヘカラス此意義ニ於テ侵奪者ハ親權者ニ對シ其子ヲ引渡ス義務ヲ負フモノトス

(參照)

實母ハ幼年ナル子ノ身體及ヒ財産ノ保護ヲ爲スヘキ權義ヲ有スルヲ以テ此等ノ事ニ關シ幼者ノ爲メ自ラ訴訟ヲ爲スコトヲ得  
子カ未成年者ナルトキハ父ハ自然ノ後見人トシテ其監護ヲ爲スノ權利ヲ有シ義務ヲ負フモノナルニ依リ適當ト認ムル場合ニ於テハ親權ニ基キ他人ヲ其後見人ニ選定スルコトヲ得從テ其後見人ハ何時ニテモ之ヲ罷免シ自ラ監護ヲ爲スコトヲ得ルハ條理上當然ナリ

〔第八百八十三條〕

○未成年ノ子カ職業ヲ營ムニ當リ親權者ノ許可ヲ得ルニ付テハ別段ノ方式ナシ從テ親權者カ其監督ヲ爲シ居ル事實ヲ以テ承諾アリシモノト爲スコトヲ得

三四	七	七	七	七	七	三	三	三
八	七	七	七	七	七	三	三	三
二五	六〇九	六〇九	六〇九	六〇九	六〇九	一〇	一〇	一〇

三四	二	二	二	二	二	三	三	三
七	二	二	二	二	二	三	三	三
二六	七五九	七五九	七五九	七五九	七五九	八二七	八二七	八二七



○民法第八百八十三條ノ規定ニ從ヒ母カ子ノ營業ヲ許可スルニ付テモ親族會ノ同意ヲ要シ其同意ヲ得スシテ母ノ許可シタル營業上ノ行爲ハ亦第八百八十七條ノ規定ニ準據シ取消シ得ヘキモノトス

第八百八十四條

○親權ヲ行フ父ハ子ノ財産上ノ權利ニ關シテ縱令他人ノ財産ヲ讓受ケ之ヲ賣却スルカ如キ法律行爲ト雖モ其代表ヲ爲シ得ヘキモノトス  
○親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年ノ子ノ財産ニ關スル行爲ニ付テハ汎ク其子ヲ代表スト雖モ財産ニ關セサル行爲ニ付テハ法律ニ於テ特ニ規定シタル場合ニ限り其子ヲ代表ス

○親權者ト取引ヲ爲ス第三者ニ於テ親權者ノ行爲カ親權ノ濫用ナルコトヲ知リタル場合ニ於テハ其行爲ハ親權ヲ行フ者其自身ト第三者トノ直接關係ニシテ親權ニ服スル子ト第三者トノ間ニ爲サレタルモノト云フコトヲ得ス

○民法施行前ニ在リテ子ノ財産ニ於ケル親權者ノ權利ハ管理權ニ止マラスシテ新民法ノ規定ノ如ク處分權ヲモ包含セシコトハ一般ニ行ハレタル慣例ナリ  
○親權者ノ代表權ハ現ニ其子ノ所有ニ屬スル財産ニ付キ爲ス法律行爲ノ

元	三六	三五	三四	三三	三二
九八〇	四六四	二一〇	八	二	二

ミニ限ラス廣ク子ノ財産ニ影響ヲ及ホスヘキ財産權上ノ法律行爲ニ付キ或制限ノ下ニ存スルモノトス  
○親權者カ未成年者タル子ノ爲メニスルコトヲ示シテ第三者ト爲シタル賣買ノ效果ハ其目的タル財産權ノ其子ニ屬セス且其事實ヲ知悉セルトキト雖モ直接其子ノ爲メニ生スルモノナレハ親權者カ此行爲ニ因リ對價ヲ受領シタルトキハ不當利得ノ關係ハ亦直接其子ト第三者トノ間ノ關係ナリトス

(參照)

養子幼年ニシテ財産ヲ有スルトキハ養父養子ニ對シ其親權ヲ行ヒ其財産ヲ自己ノ財産ニ於ケル如ク處理シテ他人ノ干渉ヲ受ケサルコト實父ノ實子ニ於ケルト同一ナルヲ通例トス  
實父カ幼年者ノ利益保護ノ爲メ爲シタル財産上ノ處分行爲ハ其實父カ後見人タルト否トニ拘ハラズ幼年者ノ爲メニ效力ヲ有ス  
父カ親權ヲ以テ其子ノ財産ヲ處理スル場合ハ普通後見人カ幼者ノ財産ヲ處分スルトキノ如ク親屬ノ連署ヲ要スルモノニ非ス

第八百八十六條

○民法第八百八十六條第一號ノ規定ニ依リ親族會ノ同意ヲ得テ商業ヲ營ム場合ノ外親權ヲ行フ母カ未成年者ニ代リ法律行爲ヲ爲スニハ縱令其行爲カ商行爲ナルトキト雖モ親族會ノ同意ヲ經ヘキモノトス

四	三六	三五	三四	三三	三二
三七二	四六四	二一〇	八	二	二



○民法第八百八十六條第二號ニ謂フ借財トハ單ニ貸借關係ニ基ク借財ノミヲ指シタルモノニ非スシテ金品給與ノ債務ヲ負擔スル總テノ行為ヲ指稱セルモノトス

○或行為カ借財行為即チ債務負擔行為ナルヤ否ヤハ其行為自體ニ付テ決定スヘキモノニシテ行為ヲ爲スニ至ラシメタル緣由ノ如何ニ由リ定ムヘキモノニ非ス

○約束手形ノ振出ハ手形金額支拂ノ義務ヲ生スルカ故ニ民法第八百八十六條第二號ニ所謂借財ヲ爲スコトニ該當ス

○民法第八百八十六條第三號中ニハ訴訟行為ヲ包含セス

○民法第八百八十六條ノ規定ハ未成年者ノ財産ヲ保全セシムルヲ以テ目的ト爲シタルモノナレハ同條ノ所謂重要ナル動産ニ關スル權利ニハ金錢ノ取得ヲ目的トスル債權ヲモ包含セルモノトス

○民法第八百八十六條第三號ニ所謂重要ナル動産ニ關スル權利ナリヤ否ヤハ一般社會ノ經濟狀態及ヒ其權利者ノ行為當時ニ於ケル財産狀態ニ照シ査定スヘキモノトス

○民法第八百八十六條第三號ニ所謂權利ノ喪失ヲ目的トスルモノノミナラス消費貸借又ハ消費寄託ノ如キ其行為ノ結果必然ニ權利ヲ移轉シ其喪失ヲ來スモノヲモ包含スルモノトス

○實母カ實子ニ代リテ訴訟行為ヲ爲ス場合ニ於テハ民法第八百七十八條ノ場合ト異ナリ親族會ノ同意ヲ要セサルモノトス

(同義旨)

親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ訴訟行為ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ得ルヲ要セス

【第八百八十七條】

○親權ヲ行フ母カ未成年ノ子ニ代リ不動産ヲ賣却スルニ當リ親族會ノ同意ヲ得サルトキハ其行為ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモ當然無効ノモノニ非ス

○親權ヲ行フ母カ民法第八百八十六條ノ規定ニ違反シテ爲シタル借財ニ付キ子又ハ其法定代理人カ取消ノ意思ヲ表示シタルトキハ何人ニ對シテモ其取消ノ效果ヲ援用スルコトヲ得ルモノトス

○民法第八百八十七條ノ規定ニ依リ取消シ得ヘキ行為ハ母カ親族會ノ同意ヲ得スシテ子ノ營業ヲ爲スコトニ同意ヲ與ヘタル場合ニ於テハ子ノ營業上ノ行為ヲ指スモノニシテ母ノ與ヘタル同意其モノヲ以テ取消シ得ヘキ行為ト爲シタル法意ニ非ス

元	三六	三三	三三	二	二	四	四〇	三三	三六	三六	三六
九八〇	八四	七九	二〇	七五九	五九〇	八三五	八〇六	二一八	八二四	八〇四	八〇四



○民法第八百八十三條ノ規定ニ從ヒ母カ子ノ營業ヲ許可スルニ付テモ親族會ノ同意ヲ要シ其同意ヲ得スシテ母ノ許可シタル營業上ノ行爲ハ亦第八百八十七條ノ規定ニ準據シ取消シ得ヘキモノトス

○民法第八百八十七條第一項ノ取消權ハ未成年者ノ重要ナル動産ニ關シ和解契約ヲ爲シタル場合ト雖モ子ノ一身ニ專屬スル權利ニシテ子又ハ其法定代理人ニ限り之ヲ行フコトヲ得ヘク同第二百十條ノ一般規定ニ依リ其他ノ代理人又ハ承繼人ニ於テハ之ヲ行フコトヲ得サルモノト解スルヲ相當トス隨テ未成年ノ子ニ對スル債權者ハ同第四百二十三條第一項但書ニ依リ債務者ニ屬スル如上ノ取消權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

〔第八百八十八條〕

○父カ未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付キ其子ノ爲メ特別代理人ヲ選定シ其子ノ財産管理ヲ委任スルハ相當ノ行爲ニシテ法律ノ禁スル所ニ非ス

○民法第八百八十八條ハ未成年者ヲ保護スルノ精神ニ基キ親權者ニ特別代理人選任請求ノ義務ヲ負擔セシメタルモノニシテ親權者ノ利益ノ爲メ之ニノミ其權利ヲ與ヘタルモノニ非サレハ同法第九百四十四條ノ推

理解釋ヨリシテ親族會ノ招集ヲ請求スル權アル者モ亦該特別代理人選任ノ請求權アルモノト云ハサルヘカラス

○(同法旨)

民法第八百八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス

○未成年者ノ特別代理人カ其權限内ニ於テ締結シタル契約ヲ履行シ公正證書ヲ作成スル如キハ未成年者ト親權者トノ利益相反スル行爲ニ非スシテ親權者カ當然爲スヘキ行爲ナリトス

○民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲トハ單ニ親權ヲ行フ父又ハ母ト未成年ノ子トカ各一方ノ當事者ト爲リテ其間ニ爲ス行爲ニシテ利益相反スル場合ノミニ限ラス親權ヲ行フ父又ハ母カ自己ノ爲メニ他人ヨリ金錢ヲ借入ルルニ當リ未成年ノ子ニ於テ連帶債務ヲ負擔シ其所有不動産ニ抵當權ヲ設定スル行爲ノ如キ場合ヲモ包含指稱スルモノトス

(刑)

○親權者カ未成年ノ子ヲ代表シテ自己ノ債務ニ付キ己ニ代ラシメ債權者

三	四〇	三三	三五
		一	六
	一〇六	八〇	一一
三			
			九
			七
			二〇九
			九八〇



○債務者ノ交替ニ因ル更改契約ヲ締結スルカ如キハ民法第八百八十八條第一項ニ所謂利益相反スル行爲ナリトス

(刑) ○親權者カ民法第八百八十八條第一項ノ規定ニ違反シ自ラ未成年者ヲ代表シテ爲シタル行爲ハ全然無効ナルモノニシテ追認ニ依リテ有效ナラシムルコトヲ得サルモノトス

○民法施行前地券ノ行ハレタル當時ニ在リテハ親權ヲ行フ父又ハ母カ其未成年ノ子ト利益相反スル行爲ニ付キ其子ヲ代表スルコトヲ禁シタル法規存セザリシヲ以テ親權ヲ行フ父カ其未成年ノ子ト利益相反スル地券書換ニ付テモ其子ヲ代表シ書換ヲ爲スコトヲ得タリシモノトス

○合名會社設立行爲ハ共同ノ事業ヲ營ムコトヲ目的トシ當事者間ニ利益ノ反スル行爲ニ非サレハ親權者ハ其子タル未成年者ヲ代理シ之ト合名會社設立ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ルモノトス從テ親權者カ其子タル未成年者ヲ代理シ其者ト爲シタル合名會社ノ設立行爲ハ親權者ニ其代理權限ナキニ因リ無効ナリト云フヲ得ス

○民法第八百八十八條ニ所謂利益トハ管ニ財産上ノ利益ノミナラス身分上ノ利益ヲモ包含シ又所謂利益相反スル行爲トハ親權ヲ行フ父又ハ母ト未成年ノ子トカ各當事者ト爲リ其間ニ爲ス行爲ニシテ利益互ニ相反スル場合ノミニ限ルヘキモノニ非ス

(同左) スル場合ノミニ限ルヘキモノニ非ス

民法第八百八十八條ニ所謂利益トハ單ニ財産上ノ利益ノミヲ指稱スルモノニ非スシテ身分上ノ利益ヲモ包含スルモノトス  
民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲トハ單ニ親權ヲ行フ父又ハ母ト未成年ノ子トカ各一方ノ當事者ト爲リテ其間ニ爲ス所ノ行爲ニ付キ互ニ利益相反スル場合ノミニ限ラス親權ヲ行フ母カ自己ノ婚姻ニ關シ其戸主タル未成年ノ子ヲ代表シテ與フル同意ニシテ互ニ利益相反スル場合ヲモ包含スルモノトス

民法第八百八十八條第一項ニ所謂親權者ト未成年ノ子ト利益相反スル行爲トハ兩者互ニ相手方トシテ其間ニ爲ス行爲ノミニ限ラス廣ク親權者カ未成年ノ子ヲ代表シテ第三者ト爲ス行爲ニ付キ親權者ト未成年ノ子トノ利益カ互ニ相反スル場合ヲモ包含スルモノトス

○親權ヲ行フ家族タル父カ分家ヲ爲スニ當リ戸主タル其未成年ノ子ヲ代表シテ與フル同意ノ如キハ民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲ナリトス

○相續ノ承認若クハ拋棄ノ如キ相手方ナキ單獨行爲ハ民法第八百八十八條ニ所謂利益相反スル行爲ニ非サルヲ以テ數人ノ子ニ對シ親權ヲ行フ父若クハ母カ遺產相續ノ拋棄ヲ爲スニ付テハ同條第二項ニ依ル特別代理人ノ選任ヲ必要トセス

四	七	四	二	二	七
四六八	一六八四	二七〇	八九九	八九九	一六八四

六	五	四	四
一八六	一九三五	二七〇	二七〇



〔第八百九十二條〕

○民法第八百九十二條第一項ノ場合ニ於テハ親權者ハ其財産ヲ管理スル權利ヲ有セサルト同時ニ子ニ代リテ之ヲ處分スル權限ヲ有セサルモノトス

○前項ノ場合ニ於テ第三者ノ指定シタル管理人ハ法定代理人ニシテ其財産ノ管理ニ付キ裁判上裁判外一切ノ行爲ヲ爲スノ權限ヲ有スルモノトス

〔第八百九十五條〕

○民法第八百九十五條ニ謂フ戸主權ノ實行ニハ隱居ヲ爲スカ如キ行爲ヲ包含セス故ニ親權者カ未成年ノ子ヲ代表シテ爲シタル隱居ノ行爲ハ無効ナリ

第三節 親權ノ喪失

〔第八百九十六條〕

○親權ヲ行フ母カ親族會ノ同意ヲ得シテ未成年ノ子ニ代リ借財ヲ爲シ且不動産及ヒ重要ナル動産ノ一部分ヲ賣却スルモ必スシモ親權喪失ノ原因タル親權濫用ノ行爲ヲ爲セシモノト斷定スヘキモノニ非ス

○戸主タル未成年者ノ親權者カ未成年者若クハ其代理人ノ承諾ヲ受ケス

四	四	三七	三六
一四八九	一四八九	二七〇六	六一五

シテ妄リニ其財産ヲ家族以外ノ者ノ生活費又ハ養育費等ニ費消スルハ親權濫用ノ所爲ナルモ若シ其家族以外ノ者ノ爲メニ費消スルニ付キ正當ノ事由存在スルトキハ右費消ノ所爲アリタル一事ヲ以テ直ニ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

○普通ノ家庭ニ於テ父ノ死亡後親權ヲ行フ母カ父ノ生前ヨリ姦通セル情夫ト依然私通關係ヲ繼續スルカ如キハ民法第八百九十六條ニ所謂著シク不行跡ナル行爲ニ該當スルモノトス

○親權者ノ不行跡ヲ以テ親權喪失ノ事由トセルハ之カ爲メニ未成年者ノ監護教育ヲ怠リ其他親權ヲ濫用スルノ危険アルニ因ルモノナレハ縱令親權者ニ不行跡アルモ既ニ過去ノ事實ニ屬シ現在其跡ナキニ於テハ之ヲ以テ親權喪失ノ事由トスルニ足ラス

○未成年者ノ爲メニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ其相續カ相續人ノ爲メニ不利益ナルトキト雖モ親權者ハ限定承認ヲ爲ササルヘカラサルカ如キ法則ナシ從テ親權者カ未成年者ノ爲メ何心ナク相續ノ届出ヲ爲シタリトテ之ヲ以テ親權ノ濫用ナリト云フヲ得ス

○親權喪失ノ原因一旦存在シタルモ親權喪失請求ノ判決前既ニ其原因消滅シテ存セサル場合ニ於テハ裁判所ハ其喪失ヲ命セサルコトヲ得ルモ

三七	四二	四四	四五
二九〇	七〇五	四六三	二六五



○中流ノ農家ニ於テ父ノ死亡後親權ヲ行フ繼母カ同居ノ傍系姻族ト數年間私通ヲ繼續シ私生兒ヲ分娩シタルトキハ縱令其私通關係カ隱密ノ間ニ行ハレタリトスルモ民法第八百九十六條ニ所謂著シク不行跡ナル行爲ニ該當スルモノトス

〔第八百九十七條〕

○親權者カ未成年者ノ利益ヲ保護スル爲メ特ニ親族會ノ決議ニ反對ノ意見ヲ表示シ且其決議ニ關スル事項ノ處理ヲ他人ニ委任スルモ之ヲ以テ管理ノ失當ニ因リ未成年者ノ財産ヲ危クシタルモノト云フヲ得ス

〔第八百九十九條〕

○親權ヲ行フ母カ一旦子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル以上ハ後日其意思ヲ翻ヘシテ管理ヲ爲スカ如キハ民法第八百九十九條ノ精神ニ於テ許ササル所ナリトス

第六章 後見

○未成年者ノ爲メ後見人ヲ置クヘキ規定アル場合ニ於テ未成年者ノ爲メ後見人ヲ置カサリシ事實ノミヲ以テ直ニ其未成年者ハ當然能力アリシ

モノト推定スルヲ得ス

○民法施行前ニ於テ特別ノ事情アルトキハ成年者ニ後見人ヲ附シタル慣習ナキニ非スト雖モ通常ノ成年者ニ附セル後見人ハ不合法タルコトヲ免レス

第一節 後見ノ開始

〔第九百條〕

○未成年者ノ父又ハ母カ禁治產者若クハ準禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フコトヲ得ス而シテ其未成年者ニ對シ他ニ親權ヲ行フ者ナキ場合ニハ後見ノ開始アルヘキモノトス

○民法第九百條第一號ニ所謂親權ヲ行フ者トハ親權者ニ代リテ其親權ヲ行フ者ヲモ包含ス

第二節 後見ノ機關

第一款 後見人

○民法施行前ニ於テ母カ親權ヲ行フヘキ場合ニ其母ノ承諾ヲ得スシテ後見人ヲ選定シ相當ノ手續ニ從ヒ管轄役場ニ届出テ爾來後見人トシテ其職務ヲ執行シ來リタル以上ハ更ニ相當ノ手續ヲ經テ之ヲ取消ス迄ハ適法ノ後見人ト看做スヘキモノトス

民法 親族 後見 後見ノ開始 後見ノ機關 後見人

三三	三三	三三	三三	三三	三三
四	四	四	四	四	四
九三	九三	九三	九三	九三	九三
一〇七一	一〇七一	一〇七一	一〇七一	一〇七一	一〇七一
五五三	五五三	五五三	五五三	五五三	五五三
五七一	五七一	五七一	五七一	五七一	五七一
六	六	六	六	六	六

四	四	四	四	四	四
七	七	七	七	七	七
一四八	一四八	一四八	一四八	一四八	一四八
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
三〇六	三〇六	三〇六	三〇六	三〇六	三〇六



○民法施行前ニ在テハ適式ノ後見人ナキ場合ニ於テ必要上後見ノ職務ヲ  
攝行スル者ハ丁年者タルヲ必要トセス丁年ニ近キ年齢ニシテ意思能力  
アル者ナレハ未成年者ト雖モ可ナリ

○民法施行前華士族カ幼少ニテ家督相續ヲ爲シ後見人ヲ選任シタルトキ  
ハ之ヲ其筋ニ届出テ戸籍ニ表記セシムヘキヲ一般ノ慣例トス故ニ若シ  
此場合ニ於テ後見人ヲ選任シタルモ故アリテ届出ヲ爲ササリシモノト  
セハ其主張ヲ爲ス者ヨリ之ヲ立證セサルヘカラス

○被後見人ノ親族ハ民法第八百九十六條ヨリ類推シテ後見人ノ不正行爲  
其他職權濫用ノ所爲ニ對シ被後見人保護ノ爲メ後見消滅ノ請求權ヲ有  
スルモノトス

(同義語)

後見人カ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ其職權ヲ濫用シタルトキハ被後見人ノ親族ハ後見ノ消滅ヲ請  
求スルコト得

(參照)

本邦ノ慣習上管財人ノ選定ノ如キ幼者ノ保護ニ關スル權利ニ付テハ家付(本件ノ場合ニ於テ  
ハ母系)ノ親族ニ重キヲ置カサルヘカラス

後見人ノ幼者ヲ保護監督スルヤ必スシモ幼者ノ近傍ニ在ルヲ要セス裁判ニ於テ後見人ヲ有名  
無實ノ後見人ト爲スニハ必ス確乎タル證據理由ヲ示ササルヘカラス但幼者ノ家族カ後見人ノ

三	四	四	三	三
一	一	一	一	一
二六	二六	二六	二六	二六
八九九	八九九	八九九	八九九	八九九
一三七九	一三七九	一三七九	一三七九	一三七九
一八五二	一八五二	一八五二	一八五二	一八五二

認承テ嫁タスシテ負債ヲ設ケタル事述アルカ爲メ其後見人ヲ有名無實ト云フナ得ス  
後見人ハ必ス被後見人ト同居セサルヘカラサルモノニ非サレハ單ニ遠隔ノ地ニ住居スルト云  
フノ一事ヲ以テ後見人ノ資格ヲ無効ナラシムヘキモノニ非ス

後見人罷黜訴訟事件ニ付キ幼者自ラ起訴者ノ一人タル事跡ノ見ルヘキモノナキニモ拘ハラ  
裁判所ニ於テ其幼者モ亦起訴者ノ一人タルコト明カナリト判定シ幼者ニ訴訟費用ヲ負擔セシ  
メタルハ違法ノ裁判ナリ

母タル者幼者ノ財産管理中虛偽ノ負債ヲ作シ幼者ヲシテ身代限ヲ爲サシメタル等ノ舉動アル  
ニ因リ更ニ後見人ヲ選定セシテ至當ト認メテ裁判シタルコト明カナレハ縱令實母ナルモ猥リ  
ニ親權ヲ主張シ後見人ノ選定ヲ非議スルコトヲ得ス

父母ハ其子ノ後見人ヲ選定スルノ權アルヲ以テ母カ其女ノ後見人ヲ選定スルニ當リ親族ノ協  
議ヲ經サリシトテ直ニ之ヲ無効トスルヲ得ス而シテ後見人ハ他人ヲシテ平常ノ雜務ヲ代理セ  
シムルコトヲ得

親族會議ノ決議ニ依リ選定セラレタル後見人ハ被後見人ノ實母ト雖モ相當ノ理由ナク之ヲ取  
消スナ得ス

後見人ノ設定ハ親族ノ協議ヲ以テスルコト一般ナレトモ後見人解除ノ請求ハ必スシモ其協議  
ニ關與セシ親族一同ヨリ起訴セサルヘカラサル慣例及ヒ條理ナシ  
後見罷黜ノ爲メ即チ一ノ資格ヲ失ハシメンカ爲メ爲ス所ノ訴訟ハ其一己人タル資格ニ對シ爲  
スヘキモノナレハ幼者ノ代表者タル資格ニ於テ訴ヘラレルノ要ナシ  
後見人ノ就職ニ付テハ特ニ法規ノ存スルモノナシ故ニ事實届出以前ニ就職スルモ其行爲ハ有  
效ナリ

三〇	二九	二八	二七	二六	二五	二五
五	六	五	四	二	五	四
二六	二六	二四	一八	五九〇	二二	五



後見人ノ罷黜並ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及ヒ親族ヨリ提起シタルハ訴訟手續上相當ナリ

〔第九百一條〕

○私生子ノ父カ未タ認知ヲ爲ササル場合ニ於テモ其母ハ遺言ニ依リ之ヲ父トシテ後見人ニ指定スルコトヲ妨ケス

〔第九百二條〕

○民法第九百二條第一項ハ現ニ親權ヲ行フ父又ハ母ニノミ適用スヘキモノニ非スシテ親權ヲ行フヘキ父又ハ母ニモ之ヲ適用スヘキモノトス

〔第九百三條〕

○家督相續人ニ非サル甲カ縱令相續ノ届出ヲ爲シ戸籍簿上戸主トシテ表示セラルルトモ家督相續人ニシテ相續開始ニ因リ戸主ト爲リタル乙ノ家族ニ過キサルトキハ甲ハ戸主トシテ乙ニ對スル後見人タルコトヲ得サルモノナレハ利害相反スル兩人間ノ家督相續回復ノ訴訟ニ於テ後見監督人モ亦乙ヲ代理スヘキ事由發生セサルモノトス

(參照)

家族タル幼者カ財産ヲ有スル場合ニ於テ特別ニ後見人ヲ設定セサル限ハ其家ノ戸主タルモノカ之ヲ管理スルハ係争地賣買當時(明治二十二年)ニ於ケル一般ノ慣例ナリ

〔第九百四條〕

○親族會カ後見人ヲ選任シタル場合ト雖モ合法適正ノ遺言ニ基ク指定後見人アルコト後日明白ト爲ルニ於テハ親族會員選定及ヒ親族會招集決定ノ取消サルルト同時ニ該決議ハ無効ニ歸スルヲ以テ之ニ因リテ選任セラレタル後見人ハ當然其資格ヲ失フモノトス

〔第九百五條〕

○母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ其母カ遲滞ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求セザルトキハ他ノ親族ヨリ親族會招集ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノトス

○民法第九百五條ハ同條ニ列舉シタル事實ニ因リ後見人ノ欠缺シタル場合ニ於テ更ニ後見人ヲ選任スル手續ヲ規定シタルモノニシテ後任ノ後見人ヲ選定シタル上ニ非サレハ前任ノ後見人其任務ヲ辭スルヲ得サルノ法意ニ非ス

○未成年者ノ親權者カ財産管理ノ任ヲ辭シ戸主モ亦直ニ後見人ノ任務ヲ辭シ全然就職セサル場合ニ於テハ必スシモ民法第九百五條ニ規定セル順位ニ依リ後ニ辭任シタル戸主ヨリ親族會招集ノ申請ヲ爲スコトヲ要セスシテ財産管理ノ任ヲ辭シタル親權者ヨリ其申請ヲ爲スモ之ヲ以テ申請ノ效力ナキモノト謂フヲ得サルモノトス

三〇	六	五三
四〇	二二八	
六	二二九	
四	一七五	
三二	一一	三五

四〇	一一八	
三四	七	一
三五	二	七三
七		二二九



第九百六條

第九百六條

○親族會ニ於テ二人以上ノ後見人ヲ選定シタルハ不適法ナルモ其内ノ一名ノミ後見ヲ擔任シ其餘ノ者カ辭任シタルトキハ後見ヲ擔任シタル一名ハ改メテ親族會ノ選任ヲ受ケサルモ其者ニ正當ノ後見人タル資格ヲ生スルモノト爲ササルヘカラス

○民法施行以前ニ於テモ法律ハ二名以上ノ後見人ヲ認メサルカ故ニ二名以上ノ者カ後見人トシテ未成年者ノ爲メニ爲シタル法律行爲ハ所謂無權代理人ノ爲シタル行爲ニ該當シ本人カ其追認ヲ爲スニ非サレハ之ニ對シ效力ヲ生セサルノミニシテ絶對ニ無効ナルモノニ非ス

(反對)

適法ノ後見人存在セサル場合ニ於テ後見人ト稱スル者ノ爲シタル法律行爲ハ代理權ナキ者カ之ヲ爲シタルニ外ナラサルヲ以テ當然無効ナリトス

(參照)

後見人ノ外ニ其監督者ヲ定ムルニ非スシテ同一ノ職務權限ヲ有スル數多ノ後見人ヲ設ケルコトハ慣習上之ヲ認メス

多數ノ後見人ハ一般ノ慣習及ヒ判例ニ於テ之ヲ認メス故ニ二名ノ後見人ニ對シ終局判決ヲ言渡シタルハ違法ナリ

第九百七條

第九百七條

○後見人ト保佐人トノ別ナク一旦適法ニ就職シタル者ハ縱令半途ニシテ本來自己ヨリ先ニ後見人若クハ保佐人タルヘキ資格アル者ノ出テタル場合ハ勿論其者カ後見人若クハ保佐人タルコトヲ得サリシ事由消滅セシ場合ト雖モ當然其職務ノ消滅ヲ來スヘキモノニ非ス

第九百八條

第九百八條

○民法第九百八條ニ所謂被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲ストハ實體上被後見人ノ利益ニ反スルニ拘ハラズ之ニ對シ訴訟ヲ爲スノ義ニシテ形式上被後見人ヲ被告トスルモ實質ニ於テ其利益ノ保護ヲ目的トスル訴訟ノ如キハ之ニ包含セシメサル法意ナリ

(同主旨)

○民法第九百八條第六號ニ所謂被後見人ニ對シテ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者トハ被後見人ヲ相手方トスル訴訟ニ於テ當事者タリ又ハ當事者タリシ者ノ意義ニシテ其原告タリ被告タルヲ問ハサルノ法意ナリト解スヘキモノトス

○被後見人カ原告タル訴訟ニ於テ其後見人カ相手方タル被告ノ血族ナル

三	二六	三六	三元	三三
四	五			八
七九	一	五七	一六二	三

二	七	四三	四五	六
				二
三五	一七〇六	八五	三六	三六















ノ同意アル以上ハ被後見人ノ利益ヲ保護セサルモノト謂フヲ得サレハ

被後見人ハ後日ニ至リテ其行爲ヲ取消スコトヲ得ス

○民法第九百二十九條ハ公益上未成年者ヲ保護センカ爲メニ設ケラレタ

ルモノナレハ後見人ノ爲シタル法律行爲ハ親族會ノ決議ニ因ル授權ニ

相伴テ成立セシムルノ旨趣ニシテ固ヨリ後見人ノ爲シタル法律行爲

カ該授權ヲ離レ獨立シテ適法ニ成立シ得ヘキ法意ニ非ス

○後見人カ民法第十二條第一項ノ行爲ヲ爲スニ當リ親族會ノ同意ヲ經サ

ルトキハ其行爲ハ取消シ得ヘキモノニシテ未タ完全ノ效力ヲ生セスト

雖モ爾後親族會ノ同意ヲ得テ之ヲ追完スルコトヲ妨ケサルモノトス

○民法施行以前ニ於テハ後見人カ幼者ノ家計上必要ノ爲メ其財産ヲ處分

スルニハ親族ノ同意ヲ要スル外別ニ制限ノ規定ナシ從テ實父カ幼者ノ

爲メニ其不動産ヲ賣却シ後見人之ヲ承認シタル以上ハ其處分行爲ハ有

效ナリトス

○民法第九百二十九條ハ後見人カ被後見人ニ代リテ同第十二條第一項ノ

行爲ヲ爲スニハ親族會ノ同意ヲ要スル規定ニシテ其行爲ヲ爲ササルコ

トニモ亦同意ヲ要スルノ旨趣ニ非ス

○後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ訴訟行爲ヲ爲シタ

ル場合ト雖モ後日親族會ニ於テ之ニ同意ヲ與フルトキハ既往ノ欠缺ハ

補正セラレ適法ナル訴訟行爲ト爲ルモノトス

(同主旨)

後見人カ被後見人ノ爲メニ訴訟ヲ爲スニ付キ親族會ノ同意ヲ得ルカ如キハ起訴ノ當初其授權

ノ欠缺アリトスルモ該訴訟ノ繫屬中又ハ第二審ニ繫屬中ニ於テ親族會カ同意ヲ爲シ之ヲ追認

スルトキハ遡リテ其當初ヨリノ訴訟行爲ヲ總テ有效ナラシムルモノトス

後見人カ親族會ノ同意ヲ得スシテ被後見人ノ爲メニ爲シタル訴訟行爲ハ當然無効ノモノニ非

ス成年ニ達シタル被後見人又ハ親族會カ之ヲ追認スルトキハ授權ノ欠缺ハ補正セラレルモノ

トス

○未成年者ノ法定代理人タル後見人カ未成年者ノ爲メニ商業ヲ營ムカ爲

メ親族會ノ同意ヲ得且其登記ヲ爲シタルトキハ商人トシテ完全ナル營

業能力ヲ有スルモノナルヲ以テ更ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

自ラ支配人ヲ選任シ其本店又ハ支店ニ於テ其商業ヲ營マシムルコトヲ

得ルモノトス

○支配人ハ主人ニ代リテ其營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ノ行爲

ヲ爲ス權限ヲ有スルモノナルヲ以テ未成年者ノ後見人カ適法ニ選任シ

タル支配人ニ於テ主人ノ營業ニ關シ自己ノ權限ニ基キ手形振出ノ行爲

ヲ爲スニ付テハ特ニ親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要スルモノニ非ス

民法 親族 後見 後見ノ事務

六九七

三三三

三三三

三四八

三三六

三三三

三四一

三三三

三三三

三三三

三三三

三三三

三三三











未成年者ノ後見ハ未成年者カ成年ニ達スルト同時ニ終了シ後見人ハ其資格ナク隨テ被後見者ヲ代表スル所ノ訴訟能力ヲ有セサルコト論テ竣タス

後見制度ハ素ヨリ幼者ノ利益ヲ保護スル爲メ設ケタルモノナリト雖モ其利益ハ必スシモ後見ニ依ルニ非サレハ之ヲ保護スルノ途ナキニ非ス即チ後見ニ關スル法令ノアルアリテ之ニ任務ヲ繼續スヘキモノナリトノ規定ナキ以上ハ後見滿期後仍ホ後見人ノ任務ヲ繼續セサルヘカラスルノ理ナキヲ以テ後任後見人ノ選定如何ニ拘ハラヌ後見職ハ滿期ト共ニ解除スヘキモノトス

未丁年者ノ後見ハ其丁年ニ達スルト同時ニ當然終了シ從テ丁年者自ラ諸般ノ權利行爲ヲ爲シ得ヘキハ普通ノ法則トス左レハ既ニ丁年ニ達セシ後仍ホ之ヲ後見ニ付セントセハ必ス瘋癲白痴若クハ浪費者ノ如キ特別保護ヲ要スル正當ノ理由ナカルヘカラス

〔第九百四十二條〕

○他人ノ財産ヲ管理シタル者ニ於テ負擔スル計算ノ義務ハ契約關係ヨリ生シタルト將タ法律ノ規定ニ依リ直接生シタルトヲ問ハス常ニ債權關係ニ外ナラサルモノトス

○民法第九百四十二條ニ後見ニ關シテ生シタル債權トアルハ之ヲ廣汎ニ解釋シ苟モ後見ニ基因シテ生シタル債權ハ總テ之ヲ包含スルモノト認ムルヲ相當トス故ニ後見人カ其任務トシテ被後見人ノ財産ヲ管理シタルニ因リ法律上負擔シタル計算ノ義務ノ如キハ同條ノ範圍ニ屬スルモノトス

第七章 親族會

○民法及ヒ非訟事件手續法中同一ノ目的ヲ以テ開クヘキ親族會招集申請ノ競合スル場合ニ於テ其申請ノ前後ニ從ヒ決定ヲ爲ササルヘカラサル旨ノ規定ナグレハ後ニ爲シタル申請ニ對シテ招集決定ヲ爲シ前ニ爲シタル申請ヲ却下スルモ不法ニ非ス

〔第九百四十四條〕

○民法第八百八十八條第一項ノ旨趣ハ未成年ノ子ト親權者ト利益相反スル場合ニ於テ特別代理人ノ選任ヲ親族會ニ請求スヘキ義務ヲ親權者ニ負ハシメタルニ過キスシテ同法第九百四十四條及ヒ第九百四十九條ニ依リ付與セラレタル親族等ノ權能ハ之カ爲メニ制限セラレタルモノニ非ス

○母カ子ノ財産ノ管理ヲ辭シタル場合ニ於テ其母カ遲滞ナク親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求セサルトキハ他ノ親族ヨリ親族會招集ノ手續ヲ爲シ得ヘキモノトス

○被相續人カ遺言證書ヲ以テ家督相續人ヲ指定シタルモ檢認ノ結果其遺

七	一〇一七
二	一〇一七
三	一〇一七
四	一〇一七
五	一〇一七
六	一〇一七
七	一〇一七
八	一〇一七
九	一〇一七
一〇	一〇一七
一一	一〇一七
一二	一〇一七
一三	一〇一七
一四	一〇一七
一五	一〇一七
一六	一〇一七
一七	一〇一七
一八	一〇一七
一九	一〇一七
二〇	一〇一七
二一	一〇一七
二二	一〇一七
二三	一〇一七
二四	一〇一七
二五	一〇一七
二六	一〇一七
二七	一〇一七
二八	一〇一七
二九	一〇一七
三〇	一〇一七
三一	一〇一七
三二	一〇一七
三三	一〇一七
三四	一〇一七
三五	一〇一七
三六	一〇一七
三七	一〇一七
三八	一〇一七
三九	一〇一七
四〇	一〇一七
四一	一〇一七
四二	一〇一七
四三	一〇一七
四四	一〇一七
四五	一〇一七
四六	一〇一七
四七	一〇一七
四八	一〇一七
四九	一〇一七
五〇	一〇一七
五一	一〇一七
五二	一〇一七
五三	一〇一七
五四	一〇一七
五五	一〇一七
五六	一〇一七
五七	一〇一七
五八	一〇一七
五九	一〇一七
六〇	一〇一七
六一	一〇一七
六二	一〇一七
六三	一〇一七
六四	一〇一七
六五	一〇一七
六六	一〇一七
六七	一〇一七
六八	一〇一七
六九	一〇一七
七〇	一〇一七
七一	一〇一七
七二	一〇一七
七三	一〇一七
七四	一〇一七
七五	一〇一七
七六	一〇一七
七七	一〇一七
七八	一〇一七
七九	一〇一七
八〇	一〇一七
八一	一〇一七
八二	一〇一七
八三	一〇一七
八四	一〇一七
八五	一〇一七
八六	一〇一七
八七	一〇一七
八八	一〇一七
八九	一〇一七
九〇	一〇一七
九一	一〇一七
九二	一〇一七
九三	一〇一七
九四	一〇一七
九五	一〇一七
九六	一〇一七
九七	一〇一七
九八	一〇一七
九九	一〇一七
一〇〇	一〇一七



- 言無効ニ歸スルトキハ指定ヲ受ケタル者カ既ニ家督相續人ノ登記ヲ爲シタルト否トヲ論セス被相續人ノ親族ハ家督相續人選定ノ爲メ親族會ノ招集ヲ請求スル權利アリ
- 親族會カ形式上適法ニ選定招集セラレタル場合ト雖モ曩ニ適法ニ選定招集セラレタルモノアルトキハ後ノ選定招集決定ハ實質上無効ナルヲ以テ其決定ニ基キタル親族會ノ議決モ亦當然無効ナリトス
- 親族會ノ招集ニ付テハ民法中特別ノ明文ナシト雖モ招集ノ通知ノ到達ト期日トノ間相當ノ猶豫期間ヲ存スヘキモノトス
- 相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會ハ一旦相續人選定ノ決議ヲ爲シタルトキハ其決議ノ有效ナルト否トヲ問ハス當然解散スルモノトス
- (同主旨)
- 相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會ハ其決議ノ有效ナリヤ否ヤヲ問ハス其決議事項ヲ議了スルト同時ニ當然解散スルモノナルヲ以テ爾後ニ至リ曾テ親族會員タリシ者又ハ其他ノ者カ尙ホ親族會存續スルモノトシテ之ヲ招集スルヲ得ス
- 相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會カ招集ノ目的タル事項ヲ決議シタル以上ハ其任務終了スルヲ以テ該決議ノ無効ナルトキト雖モ當然解散スルモノトス
- 家督相續人選定ノ爲メニ招集セラレタル親族會ハ其目的事項ノ決議ヲ

三	二	四	四	三	三
一〇一九	六九九	一五二	四八二	九二	一七二五

終ラサル間ハ縱令親族會招集決定ニ示サレタル招集日時ヲ終ルモ尙ホ存續スヘキモノナレハ親族會ハ其後隨時開會決議ヲ爲スヘキモノニシテ更ニ裁判所ニ之カ招集ヲ申請スヘキモノニ非ス

(反對)

- 民法第九百四十四條ハ第九百四十九條ノ如キ特別ノ明文アル場合ノ外最初ノ親族會ヲ招集スル場合ニ限ラス總テノ場合ニ適用セラレヘキ規定ナリトス
- 家督相續人選定ノ爲メノ親族會カ或人ヲ家督相續人ニ選定セサル旨ヲ決議シタルニ止マルトキハ未タ其目的タル事項ノ決議ヲ爲シタルモノト謂フヲ得サルモノトス
- 裁判所ノ招集シタル親族會ト雖モ其招集シタル日ニ於テノ決議ヲ爲スヘク其他ノ日ニ於テハ絕對ニ之ヲ爲スコトヲ得サルモノニ非スシテ招集ニ應シタル親族會員カ合意ノ下ニ其決議ヲ他日ニ延期又ハ續行スルコトヲ妨クルモノニ非ス
- 親族會員タル資格ナキ者ノ選任ニ因リ成ル親族會ハ元來不成立ニシテ斯ル親族會ニ於テ爲シタル決議ハ法律上當然無効ナルヲ以テ民法第九百四十四條ニ掲ケタル者ハ該決議ヲ無視シ更ニ有效ノ決議ヲ爲シ得ヘキ適法ナル親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘク此目的ヲ達

七	四	二	四	七	七
七二四	一八三四	六九九	一八三四	七二四	七二四



スル爲メ無資格者ヲ親族會員ニ選任シタル裁判ニ對シ何時ニテモ抗告ヲ申立テ之カ矯正ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

(第九百四十五條)

『第九百四十五條』

○親族會員ハ親族其他本人又ハ其家ニ緣故アル者ノ中ヨリ裁判所ノ適當ト思料シタル者ヲ自由ニ選定ス

○民法第九百四十五條第一項ハ親族會員ノ最小數ヲ指示シタルモノニシテ親族會ヲ開クヘキ定足數ヲ規定シタルモノニ非ス

○民法中親權者ヲ以テ親族會員タルコトヲ得サルモノトシタル規定ナケレハ親權者タル繼父ヲ親族會員ニ選定スルモ不法ニ非ス

○出征中ノ軍人タリトモ之ヲ親族會員ニ選定スルヲ妨ケサルモノトス

○親族會員ヲ増加スルハ則チ既存ノ親族會ノ組織ヲ變更スルニ外ナラサレハ其増員ヲ爲スニハ既ニ爲サレタル親族會員選定ノ決定ヲ變更スルコトヲ要スルモノトス

(第九百四十六條)

『第九百四十六條』

○親族會員選任ノ後民法第九百八條第八號ノ事由ヲ生シタル場合ニ於テハ同法第九百四十四條ニ掲ケラレタル者ハ訴ヲ以テ救濟ヲ求ムルコトヲ得

○未成年者ノ法定代理人ヨリ被告トシテ訴訟ヲ提起セラレタルニ止マル者ト雖モ苟モ訴訟ノ當事者タリシ以上ハ親族會員タルコトヲ得サルモノトス

○民法第九百八條ニ掲クル者ハ絶對ニ親族會員タルノ資格ナキ者ナルヲ以テ縱令誤テ親族會員ニ選定セララルモ爲メニ其資格ヲ具有スルニ至ラス從テ斯ノ如キ者ノ存スル場合ニ於テハ裁判所ハ前選定ヲ取消スノ要ナク請求ニ依リ直ニ補缺員ノ選定ヲ爲シ得ルモノトス

(同法)

民法第九百八條ニ掲クル者ハ法律上親族會員ト爲ルノ資格ナケレハ此等ノ者ハ縱令裁判所カ誤テ之ヲ親族會員トシテ選定スルモ其資格ヲ具有シ得ル理ナシ

(參照)

親族會ハ成法上其組織ヲ認メタルモノナキモ現ニ其會員中ニ非行者アリテ之ヲ除斥セサルヘカラサル場合ニ於テハ裁判所ニ出訴シテ其保護ヲ求ムルヲ得ヘキモノトス  
後見人ノ罷黜並ニ親族會員除斥ノ訴ヲ被後見人家ノ家長及ヒ親族ヨリ提起シタルハ訴訟手續上相當ナリ

(第九百四十七條)

『第九百四十七條』

○民法第九百四十七條第一項ハ親族會ノ議事ハ會員全體出席ノ上過半數ヲ以テ決スヘキ旨ヲ規定シタルニ非スシテ缺席者ノ有無ヲ問ハス會員

七  
一五六

三三  
一五七

三九  
四五七

四三  
八二七

六  
三八四

七  
一五九〇

三八  
八八六

二  
七四八

四  
二九五

四三  
一九四

三〇  
五三

三〇  
五三



全體ノ過半数ヲ以テ議決スヘキコトヲ規定シタルモノナリ

○親族會ヲ開クヘキ定足數ニ付テハ民法中別ニ規定セル所ナシ從テ會員ノ過半数出席スルトキハ之ヲ開クコトヲ得ルモノトス

○親族會カ會員ノ過半数ヲ以テ民法第九百八十三條ノ許可ヲ申請スヘキコトヲ議決シタル場合ニ於テハ其申請ハ之ニ同意シタル過半数ノ會員ノミヨリ之ヲ爲シ得ルモノトス

○三名ノ親族會員中一名カ假處分ニ因リ其職務執行ヲ停止セラレ親族會ニ干與スルコトヲ得サルトキト雖モ過半数ヲ占ムル殘餘ノ會員二名アル以上ハ開會及ヒ決議ヲ爲シ得ヘキヲ以テ一名ノ職務執行停止ヲ理由トシテ直ニ決議ニ代ルヘキ裁判ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

○親族會員ハ親族會ノ議事ニ付キ直接ニ自己ニ利害關係アルニ非サレハ表決權ヲ喪フコトナシ

○親族會員ノ家族又ハ子ヲ他人ノ相續人ト爲スヘキヤ否ヤヲ議スルハ其家族又ハ子ノ利害ニ關スル議事ナレトモ之ヲ以テ直ニ戸主若クハ親權者タル會員其人ノ利害ニ關スル議事ナリト云フヲ得ス

○親族會員カ民法第九百四十七條第二項ノ規定ニ違背シ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハリタル場合ト雖モ該表決ヲ除キタル他

ノ會員ノ表決ニシテ決議ニ同意シタルモノ過半数ナル限ハ其親族會ノ決議ハ不服ノ訴ニ因リ無効ノ宣告ヲ受クヘキ素質ヲ有スルニ過キスシテ當然無効ナルモノニ非ス

(反對)

親族會員三名アル場合ニ於テ其會員中ノ一名闕席セルトキト雖モ會員ノ過半数(即チ二名)ノ一致ヲ得ルトキハ其決議ノ有效ナルコト勿論ナレトモ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サル者カ其數ニ加ハリタルトキハ該決議ノ全部無効ニ歸スルモノトス

○親族會ノ會員ニシテ民法第九百四十七條第二項ノ規定ニ違背シ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハリタルトキハ其會員ノ表決ヲ無効トスヘキノミナラス親族會ノ決議其モノヲ無効トスヘキモノトス

(參照)

親族會ハ事情ノ許ス限リ親族一同協議シテ幼者ノ利益ヲ計ルヘキハ當然ノコトナリト雖モ必スシモ親族ノ總員集會協議スルヲ要スルモノニ非ス又親族間ニ多少ノ不折合ノ事情アリテモ其多分カ協議議決スルハ其議決ハ正當ノモノナリト謂ハサルヲ得ス

甲者カ親族會議ニ列スルコトヲ得ル場合ニ在ルモ甲者自己ノ懈怠ニ因リ其會議ニ出席セザリシモノト裁判所カ認定シ其會議ヲ正當ノ議ナリト判決シタルニ對シ甲者ハ之ヲ不法ノ裁判ナリト云フヲ得ス

親族會議ノ法規ナキ今日ニ在テハ他人カ該會議ニ列席シタレハトテ之ヲ無効ノ會議ト云フヲ得ス

二七	二六	二六	四二	三五	三	四〇	三	六	四	三九	二七
二七	二六	二六	四二	三五	三	四〇	三	六	四	三九	二七
五二七	三〇〇	三〇〇	一三五	一二七	二〇九	一〇四六	六一	二〇七	一九四	四五七	五二







○親權ヲ行フ父ト未成年者ノ利益相反ナル行爲ニ付キ特別代理人選任ノ爲メ招集シタル親族會ハ其招集ノ目的タル事項ヲ議了スルニ因リ直ニ解散スヘシト雖モ母ノ親權ニ服スル未成年者ノ爲メ設ケラレタル親族會ハ之ニ因テ直ニ解散スルモノニ非スシテ本人ノ成年ニ達スル迄存続スルモノトス

○未成年者ノ特別代理人選任ノ爲ニ招集シタル親族會ハ民法第九百四十九條ニ所謂無能力者ノ爲メニ設ケタル親族會ノ一ニ該當スルモノトス

〔第九百五十條〕

○死亡シタル親族會員ノ補缺員トシテ選定セラレタル親族會員ハ素ヨリ前親族會員ノ權利義務ヲ承繼スル意義ニ於テハ承繼人ニ非スト雖モ親族會ハ未成年者ノ法定機關ニシテ其會員ハ之カ構成員ナレハ補缺會員ハ前會員ノ有シタル法定ノ地位ヲ承繼スル意義ニ於テ普通ノ場合ニ於ケル承繼人ト同一視シ訴訟手續ヲ承繼スルモノト爲ササルヘカラス

〔第九百五十一條〕

○民法第九百四十八條第二項ノ通知ヲ缺キタルトキハ之ヲ原因トシテ同法第九百五十一條ニ依リ不服ノ訴ヲ提起シ得ヘキモノヲ提起スルニ付キテハ必ス同條一ヶ月ノ期間内ニ於テセサルヘカラス

〔第九百五十一條〕

○親族會カ不法ノ決議ニ依リ家督相續人ヲ定メタルトキハ之ニ對シ自ラ相續權アルコトヲ主張セサル親族ハ右親族會ノ決議ニ對シ其不服ヲ裁判所ニ訴フヘキモノニシテ直ニ家督相續人ニ係リ其相續ノ取消ヲ訴求スヘキモノニ非ス

○苟モ親族會ノ無効ヲ認メテ裁判シタル以上ハ其無効カ全然無資格ナル者ヲ選任シタルカ爲メナルト否トニ論ナク親族會ノ始ヨリ無効ナルコトハ同一ニシテ彼此區別アルヘキモノニ非ス

○相續人選定ノ爲メノ親族會ト相續人タル未成年者ノ爲メノ親族會トハ各特別ノモノニシテ相續人選定ノ親族會ノ決議ニ對スル訴訟ハ其親族會員ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノニシテ未成年者ノ爲メノ親族會員ニ向テ之ヲ爲スヘキモノニ非ス

○民法第九百五十一條ハ親族會ノ決議ニ對シ同條記載ノ人ニ限り親族會員ヲ相手方トシテ訴訟ヲ提起シ其不當ヲ主張シ得ル旨ヲ規定シタルモノト解釋スヘキモノトス

○法定ノ推定家督相續人ハ相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起セザリシカ爲メニ其決議確定スルモ之カ爲メニ其推定家督相續人タル身分ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

○民法第九百五十一條ハ親族會ノ決議ニ對シ同條記載ノ人ニ限り親族會員ヲ相手方トシテ訴訟ヲ提起シ其不當ヲ主張シ得ル旨ヲ規定シタルモノト解釋スヘキモノトス

○法定ノ推定家督相續人ハ相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起セザリシカ爲メニ其決議確定スルモ之カ爲メニ其推定家督相續人タル身分ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

○民法第九百五十一條ハ親族會ノ決議ニ對シ同條記載ノ人ニ限り親族會員ヲ相手方トシテ訴訟ヲ提起シ其不當ヲ主張シ得ル旨ヲ規定シタルモノト解釋スヘキモノトス

○法定ノ推定家督相續人ハ相續人ヲ選定シタル親族會ノ決議ニ對シテ不服ノ訴ヲ提起セザリシカ爲メニ其決議確定スルモ之カ爲メニ其推定家督相續人タル身分ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス

三五	三五	三五	三四	三三
九	九	九	七	五
一六八	一七	一	二六	七七

三	七	六	六
五	二〇七	一八	一八
三			



○民法第九百四十八條第二項ノ規定ニ違背シ召集ノ通知ナクシテ爲シタル親族會ノ決議ハ不法ナルコト勿論ナレハ通知ヲ受クヘキ權利アリテ之ヲ受ケザリシ者ハ特別ノ事由アルコトヲ要セスシテ其決議ニ對シ不服ヲ訴フルコトヲ得ヘキハ當然ナリ

○親族會ノ決議ヲ取消ヲ求ムル訴ニ於テハ其決議ヲ取消スノ權能ヲ有スル者即チ親族會員全體ヲ以テ對手人ト爲スヘキモノニシテ單ニ取消請求者ト反對ノ意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス然レトモ或事情ニ因リ後日會員ノ資格ヲ喪失シタルモノアルカ又ハ會員ノ一部ヨリ他ノ會員ニ對シ右ノ訴ヲ提起スル場合ニ於テハ其資格喪失者若クハ自己ヲ以テ對手人ト爲スノ要ナシ

○親族會ノ決議ハ縱令法令ノ規定ニ違背スルモ當然無効ナルモノニ非スシテ之ヲ無効トスルニハ必スヤ裁判所ノ宣言アルコトヲ要ス故ニ其決議無効ノ確認ヲ求ムル訴ハ不法ナリ  
○親族會ノ決議ヲ無効トスル訴ニ於テハ其取消ヲ求ムル訴ニ於ケルト同シク特別ノ事由存セサル以上ハ親族會員全部ヲ對手人ト爲スヘキモノニシテ其決議ニ於テ過半数ヲ占メタル意見ヲ有スル者ノミヲ對手人ト爲シ得ヘキモノニ非ス

三  
六  
二五二  
九五一  
四七

○不法ナル親族會ノ決議ヲ取消ハ善意ノ第三者ニ對シテ其效力ヲ及ボサストノ規定アラサルニ因リ一旦決議ヲ取消シタル以上ハ其決議取消ノ判決アリタル前後ヲ問ハス又第三者ニ對スルト否トヲ論セス絶對ニ取消ノ效力アルモノトス

○家督相續人選定ノ親族會決議ニ對シテ不服ヲ申立ツル場合ニハ其選定家督相續人ハ缺格者ナルカ或ハ被相續人ノ請求ニ因リテ廢除セラレタル前推定家督相續人ナル事實ヲ以テ不服ノ理由ト爲シ又ハ民法第九百八十五條ニ違背セル事實ヲ以テ其理由トスルカ如ク必スヤ法律上ノ基本アルコトヲ要ス

○親族會ノ決議ニ對シ一个月ノ期間内ニ不服ノ訴アラサルトキハ其決議法律ニ違背スルモ效力確定スルヲ原則トス然レトモ其公ノ秩序ニ關スル規定ニ背反シ又ハ親族會ノ構成不合法ニシテ實質上決議ナキト均シキ場合ハ例外トス

(同主旨)

親族會ノ決議カ法定ノ期間經過ノ爲メ形式上確定シタル場合ト雖モ其内容ニシテ本來無効ナル以上ハ該決議ハ實質上ノ效力ヲ生スルコトナシ

(反對)

三  
六  
二五二  
九五一  
四七  
三  
六  
二五二  
九五一  
四七



親族會ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ノ規定ニ從フニ非サレハ不服ヲ訴フルコトヲ得

民法第九百五十一條ニ所謂親族會ノ決議ハ實質上無効ナルモノト取消シ得ヘキモノトナ分タ

○民法第九百五十一條ニ依ル親族會ノ決議ニ對スル不服ヲ理由アリトシテ裁判所カ其決議ノ效力ヲ喪失セシメントスル場合ニ於テハ之ヲ取消スト裁判スルモ將タ無効ナリト宣告スルモ其效力ニ差異アルコトナシ

(反對)

親族會ノ無効ノ決議ニ對シテハ民法第九百五十一條ニ依リ決議無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ヘキモ之カ取消ノ判決ヲ求ムルコトヲ得ス

裁判所ニ於テ親族會ノ決議無効ノ裁判ヲ爲シタルトキハ其決議ノ元來無効ナルコトヲ確定スル效力ヲ生スルニ止マリ創設的ニ之ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

○親族會招集ノ手續ニ違法アルカ爲メ其決議カ無効タルヘキ素質ヲ有スルモ初ヨリ無効ニ非サル場合ニ於テハ其取消ヲ請求スルモ違法ニ非ス

○民法第九百五十一條ニ依ル不服ノ訴ノ被告タルヘキ者ハ不服ヲ申立テラレタル決議ヲ爲シタル親族會員タルヘキコト勿論ナリ

○親族會カ法定ノ推定家督相續人アル場合ニ於テ家督相續人ヲ選定シ又ハ法定ノ後見人アル場合ニ於テ後見人ヲ選定シタルトキハ其決議ハ當

然無効ニシテ民法第九百五十一條ノ不服ノ訴ニ因リ宣告ヲ竣テ始メテ無効タルヘキモノニ非ス

○親族會カ形式上適法ニ選定招集セラレタル場合ト雖モ曩ニ適法ニ選定招集セラレタルモノアルトキハ後ノ選定招集決定ハ實質上無効ナルヲ以テ其決定ニ基キタル親族會ノ議決モ亦當然無効ナリトス

(同主旨)

會員中資格ナキ者ヲ以テ組織シタル親族會ノ決議ハ違法ノモノナリ

○親族會ノ決議カ絶對ニ無効ナルハ親族會ノ決議ヲ以テ左右スルコトヲ得サル法律ノ規定ニ背反シ若クハ親族會ノ構成不適法ニシテ其決議ナキト均シキ場合ニ於テ然ルモノニシテ單ニ其招集ヲ分家ノ戶主ニ通知セサリシカ如キハ右ノ場合ニ該當セサルヲ以テ之ニ對シテハ唯民法第九百五十一條ニ從ヒ不服ノ訴ヲ起シ裁判所ノ宣言ニ依リ之ヲ無効ナラシムルコトヲ得ルノミ

三三

三三

三三

三三

三三

三三

三三

四〇二

三二

一九四

二二四

八〇



(同主旨)

○親族會ノ決議ハ縱令民法第九百四十八條第二項ノ手續ヲ履マサルモ當然無効ナルモノニ非ス  
 ○親族會員カ民法第九百四十七條第二項ノ規定ニ違背シ自己ノ利害ニ關スル議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハリタル場合ト雖モ該表決ヲ除キタル他ノ會員ノ表決ニシテ決議ニ同意シタルモノ過半数ナル限ハ其親族會ノ決議ハ不服ノ訴ニ因リ無効ノ宣告ヲ受クヘキ素質ヲ有スルニ過キスシテ當然無効ナルモノニ非ス

(反對)

親族會員三名アル場合ニ於テ其會員中ノ一名闕席セルトキト雖モ會員ノ過半数(即チ二名)ノ一致ヲ得ルトキハ其決議ノ有效ナルコト勿論ナレトモ議事ニ付キ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得サル者カ其數ニ加ハリタルトキハ該決議ノ全部無効ニ歸スルモノトス  
 ○親族會カ裁判所ノ指定シタル期日若クハ場所ヲ擅ニ變更シ他ノ期日若クハ場所ニ於テ爲シタル決議ハ其手續ノ違法ナルコト勿論ナルモ親族會ノ決議タルヲ失ハサルモノトス  
 ○親族會員ノ一部ニ對シ適法ノ招集手續ヲ遺脱シ他ノ過半数ノ者ノミ招集セラレテ開キタル親族會ニ於テ會員ノ過半数ヲ以テ爲シタル決議ハ民法第九百五十一條ノ訴ニ依リテ無効ノ宣言ヲ受クルコトアルヘシト雖モ當然無効ノモノニ非ス

(同主旨)

三名ノ親族會員中其一名ニ對シ適法ノ招集手續ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミ招集セラレテ開キタル親族會ノ決議ハ不服ノ訴ニ因リテ無効ノ宣告ヲ受クヘキ素質ヲ具スレトモ當然無効ノモノニ非ス

(反對)

三名ノ親族會員中其一名ニ對シ親族會招集ノ通知ヲ爲サスシテ他ノ二名ノミニテ開キタル親族會ノ爲シタル決議ハ無効ナリ  
 ○親族會招集ノ期日ヲ定ムルニ當リ適當ナル考慮ヲ加フルコトナク事實上親族會ノ招集ニ應スルコト能ハサルカ如キ期日ヲ指定シ爾餘ノ親族會員ノミニテ決議ヲ爲シタルトキハ民法第九百五十一條ニ依リ右決議ニ對シ不服ヲ裁判所ニ訴フルコトヲ得ヘク招集ノ手續カ不適法ナルノ故ヲ以テ當然無効ナリト爲スコトヲ得ス  
 ○親族會ノ決議ニ對スル不服ノ訴ハ一个月ノ期間内ニ提起スヘキモノナリト雖モ一个月内ニ非サレハ不服ノ事由ヲ主張スルコトヲ得サルモノトシ又ハ數箇ノ事由アルトキハ之ヲ同時ニ主張スヘキ規定ナケレハ一个月内ニ訴ノ提起セラレタル以上ハ其訴ニ於テ訴狀ニ記載シタル事由ノ外ニ補充トシテ他ノ不服ノ事由ヲ主張スルコトヲ妨ケサルモノトス  
 ○家督相續人ハ家名ノ維持及家政整理ノ任務ニ當ルモノナレハ親族會ノ

三五〇

一〇一九

一二七

七四二

七六九

五〇六

八二

三六四

四四八



○選定シタル家督相續人カ斯ル任務ニ不適當ナルトキハ之ヲ原因トシテ  
民法第九百五十一條ニ所謂親族會ノ決議ニ對スル不服ノ訴ヲ提起スル  
コトヲ得ルモノトス

○親族會ノ選定シタル家督相續人カ其素行ニ家名ヲ汚ス恐アルノミナラ  
ズ遊惰放逸ニシテ家政ヲ執ルニ堪ヘサル者ナルトキハ如上ノ任務ニ當  
ルニ不適當ナルコト論ヲ竣タス

○親族會員タル資格テキ者ノ選任ニ因リ成ル親族會ハ元來不成立ニシテ  
斯ル親族會ニ於テ爲シタル決議ハ法律上當然無効ナルヲ以テ民法第九  
百四十四條ニ掲ケタル者ハ該決議ヲ無視シ更ニ有效ノ決議ヲ爲シ得ヘ  
キ適法ナル親族會ノ招集ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘク此目的ヲ違

スル爲メ無資格者ヲ親族會員ニ選任シタル裁判ニ對シ何時ニテモ抗告  
ヲ申立テ之カ矯正ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス

○親族會ノ決議ハ民法相續編ノ規定ニ違背シタル爲メ必スシモ當然無効  
ト爲ルモノニ非スシテ其決議ノ無効ト爲ル場合ハ親族會ノ決議ヲ以テ  
左右スルコトヲ得サル法律ノ規定ニ背反シ又ハ親族會ノ構成不適法ニ  
シテ其決議ナキニ均シキ場合ヲ謂フモノトス

○(同主旨)

○親族會ノ決議カ當然無効ナル場合トハ親族會ノ決議ヲ以テ左右スルコトヲ得サル法律ノ規定  
ニ背反シ若クハ親族會ノ構成不適法ニシテ其決議ナキト均シキ場合ヲ謂フモノトス

○民法中相續順位ノ變更ニ關スル規定ニ違背シタル親族會ノ決議ハ當然  
無効ト爲ルモノニ非スシテ不服ノ訴ニ依リ其決議ヲ取消スコトヲ得ル  
ニ過キサルモノトス

○(同主旨)

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナキカ爲メ適法ニ招集セラレタル親族會カ民法第九百八十二條ノ  
規定ニ則リ既ニ家督相續人ヲ選定シタル以上ハ縱令其決議上相續順序ノ變更ニ關シテ遵守ス  
ヘキ同法第九百八十三條ノ規定ニ違背セシ點アリトスルモ該決議ニ對スル不服ノ訴ヲ提起シ  
之カ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ其選定ヲ當然無効ト爲スヲ得ス

○法定又ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母アラサルヨリ親族會カ家督相續人ヲ  
選定シタルトキハ縱令其選定ノ決議カ相續順位ノ變更ニ關スル民法第九百八十三條ノ規定ニ  
違背スルモ不服ノ訴ヲ提起シテ取消ノ裁判ヲ受ケサル限ハ之ヲ無効ト爲スヲ得ス

○家督相續開始ノ場合ニ於テ法定又ハ指定ノ家督相續人ナク且其家ニ被相續人ノ父母在ラサル  
ヨリ親族會カ家督相續人ヲ選定シタルトキハ其選定ノ決議ハ縱令民法第九百八十三條ノ規定  
ニ違背シ選定ノ順序ヲ變更シ又ハ其選定ヲ爲ササル暇瑾アルニモモ同第九百五十一條ニ依  
リ一ヶ月ノ期間内ニ不服ノ訴ヲ提起シ取消ノ裁判ヲ受ケサル限リ之ヲ無効ト爲スヘキモノニ  
非ス

(第九百五十二條)

『第九百五十二條』

民法 親族 親族會

四

七八九

七

一五九四

三六

三九二

四五

四三四

七

一三〇

七

四七五

七

四七五

七

一五八六

七

一五九四



